

令和7年 第14回 宇都宮市教育委員会

付 議 事 件 表

令和7年9月22日

1 審議事項

議案番号	件 名	頁	会議公開(予定)
議案第28号	令和8年度宇都宮市立小・中学校教職員定期異動に係る基本的な考え方について	1	○

2 報告事項

議案番号	件 名	頁	会議公開(予定)
報告第49号	令和7年9月議会一般質問の概要について	2	○
報告第50号	教育行政相談の内容と対応について	3	×
報告第51号	臨時代理の報告について	4	○
報告第52号	令和7年度「全国学力・学習状況調査」, 「とちぎっ子学習状況調査」の結果について	5	○
報告第53号	小中学校における勤務時間外の自動音声応答について	6	○
報告第54号	学校等事件・事故について	7	×

3 その他

番号	件 名	頁	会議公開(予定)
(1)	「第20回うつのみや食育フェア」の開催について	資料	○
(2)	令和7年度第1回宇都宮市生涯学習センター運営審議会の結果について	資料	○
(3)	第53回宇河地区特別支援学級児童生徒作品展について	資料	○

議案第28号

令和8年度宇都宮市立小・中学校教職員定期異動に係る基本的な考え方について
令和8年度宇都宮市立小・中学校教職員定期異動に係る基本的な考え方について、次のように決定する。

令和7年9月22日提出

宇都宮市教育委員会
教育長 小堀 茂雄

別紙のとおり

(提案の理由)

県教育委員会において、「令和8（2026）年度小・中学校職員定期異動方針」が承認されたが、令和8年度宇都宮市立小・中学校教職員の定期異動については、県教育委員会と市教育委員会が連携協力し、円滑かつ適正に行う必要があることから、県の異動方針を基に、市教育委員会としての異動に係る基本的な考え方を決定しようとするもの

参照 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第3号及び第37条、第38条

令和8年度宇都宮市立小・中学校教職員定期異動に係る基本的な考え方

令和7年9月22日
宇都宮市教育委員会

令和8年度宇都宮市立小・中学校教職員の定期異動にあたっては、教職員一人一人の資質の向上、小中一貫教育・地域学校園の充実、各学校の職員構成の均衡が図られるよう、中長期的視点に立ち、次の方針により異動事務及び内申を行うものとする。

基本方針及び具体的取組

1 学校組織の活性化を図るため、異動希望の有無にかかわらず、全市的視野での異動を推進し、適材適所の配置に努める。

○ 教職員として必要な資質能力の向上を図るために、教職経験の浅い教職員、同一校勤務が長い教職員については、学校規模、地域性等を考慮し、様々な環境の学校で経験を積めるような配置に努める。

多様な地域、学校での勤務経験による資質能力の向上、学校組織の強化と活性化を図るため、現任校勤務年数7年を上限として異動を推進する。

○ 児童生徒指導面などにおいて課題のある学校には、経験が豊富で、力量のある教職員を配置する。

○ 特別支援学級担任や通級指導教室担当等の適正な配置により、特別支援教育の充実を図る。

2 多様な職務経験を通じて効果的な職能成長が図られるよう、地域や校種間及び特別支援学級との人事交流の推進など、人材の育成を重視した教職員配置に努める。

○ 異なる校種での勤務経験による資質の向上と、学校間の連携強化による本市小中一貫教育の推進、英語や算数・数学、理科を中心に専門性を生かした教科指導の充実を図るため、より一層、小・中学校間の異動を推進する。

○ 特別支援教育推進の核となる人材を育成する観点から、県立特別支援学校との研修交流制度活用による人事交流を推進する。

また、多くの教員が特別支援教育に携わり、教育水準の維持向上を図るため、中堅・若手教員を特別支援学級担任等として任用するための取組を積極的に推進する。

(参考1-3)

○ 中堅・若手教職員の経験拡大による資質向上のため、他市町への異動を推進する。

(参考1-2)

3 自主的、自律的な学校運営体制の確立に向け、次代の学校経営を担う人材の育成を目指すとともに、高い識見を有し、優れた指導力を発揮できる人材を管理職者として登用し、地域や学校の実情に応じた配置に努める。

- 校長、副校长については、確かな理念と情熱を持って、学校経営の改善や教職員の意識改革、地域とともにある学校づくりの推進に意欲的に取り組めるよう、適材を適所に配置する。
- 校長については、リーダーシップを発揮しながら見通しを持って学校経営を行えるように、同一校在任期間を配慮する。
- 副校長については、管理職者としての資質や能力が十分身につけられるよう、様々な環境の学校で経験を積めるようにする。
- 将来のリーダー育成を図るため、活躍が期待される教職員には、年齢や勤続年数等にとらわれることなく、主任等の経験を積む機会が与えられるような配置に努める。

4 教職員の世代交代を踏まえ、清新で活気に満ちた職場づくりが推進されるよう、教職員組織の年齢構成を考慮した教職員の配置に努める。

- 教職員の定年延長及び経験の浅い若手教職員の増加等によるベテランと若手の二極化が進む中、学校組織の活性化や各学校における年齢構成の適正化が図れるよう、計画的に配置する。

(参考 1-1)

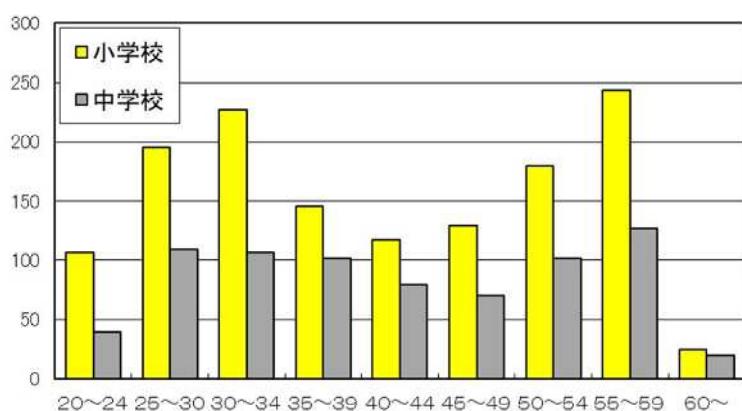
5 学校経営ビジョンの具現化と特色ある学校づくりを推進するため、教職員の特性を考慮した配置に努める。

- 校長が自らの教育理念や方針に基づき教育活動を展開できるよう、異動に関する校長の意見を人事異動に反映させるよう努める。

令和7年度 本市教職員の定期異動の概要

1 教職員の適正配置について

(1) 小・中学校別年齢分布 (※令和6年度人事異動資料より R6.5.1現在)



<男女別平均年齢>

	男	女	全体
小学校	42.35	40.90	41.40
中学校	41.76	42.49	42.12
全体	42.09	41.37	41.66

【参考】R3年度平均年齢

小: 41.62歳, 中: 42.18歳

※全体 41.82歳

(2) 新規採用教職員数の推移

年度	H25	26	27	28	29	30	31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
小・教諭	62	83	49	43	76	64	62	72	59	61	53	53	65
中・教諭	26	36	27	24	27	11	30	45	40	27	19	32	30
養護教諭	3	4	3	2	7	6	6	8	4	1	0	2	4
事務職員	6	7	7	6	8	6	7	8	5	5	2	2	5
学校栄養職員	—	1	1	—	2	—	—	1	0	0	1	0	0
合計	97	131	87	75	120	87	105	134	108	94	75	89	104

2 本市教職員の他市町との異動状況について

年度	転出		転入		【参考】うち新採後初異動			
	帰任希望	自己都合	帰任希望	自己都合	転出		転入	
					(帰)	(自)	(帰)	(自)
H31	12	9	2	30	9	6	0	10
R2	9	12	3	24	6	7	3	6
R3	11	14	1	31	7	4	0	18
R4	11	9	4	29	8	5	2	14
R5	11	13	1	27	2	8	0	12
R6	13	21	7	24	11	11	4	6
R7	8	16	3	28	6	6	3	9

3 特別支援学級数の推移と教員の交流数について

年度	H27	28	29	30	31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8(見込み)
学級	特支学級数 (うち新設)	179	185	181	176	185	176	190	198	210	212	226
		4	4	6	5	3	5	8	2	4	6	3
	教員	欠員数	34	44	40	46	56	57	52	48	52	45
		普担→特担	①29	19	24	22	11	4	7	13	15	14
		県特・附特へ	4	8	7	3	2	7	3	5	4	2
		新採特担	②5	3	4	2	3	2	2	2	3	3
												②H27～特支枠採用

令和 8 (2026) 年度公立学校職員定期異動方針

令和 7 (2025) 年 9 月 2 日

栃木県教育委員会

令和 8 (2026) 年度公立学校職員の定期異動に当たっては、適材を適所に配置して、職員組織の充実と職員の勤務意欲の高揚及び資質の向上を図り、もって本県教育の刷新向上に努めるものとする。

このため、下記により円滑かつ適正な人事異動を行うものとする。

記

- 1 人材を抜擢して人事の刷新を図る。
- 2 人事異動を職員の資質向上のための機会ととらえ、人材の育成を重視した職員配置に努める。
- 3 勤務実績、年齢及び同一校勤続年数等を考慮して、適材を適所に配置する。
- 4 学校間の職員構成の均衡を図る。
- 5 小学校、中学校及び義務教育学校と県立学校間の人事の交流に努める。
- 6 小学校、中学校及び義務教育学校においては、各校種間の人事の交流に努める。
- 7 小学校、中学校及び義務教育学校においては、広域にわたる人事の交流を推進し、職員構成の全県的な均衡を図る。
- 8 小学校、中学校及び義務教育学校においては、へき地教育及び特別支援教育の振興のため、適正な職員配置に努める。
- 9 県立学校においては、地域相互間、学科間及び課程間の人事の交流に努める。
- 10 県立学校においては、高等学校と特別支援学校間の人事の交流に努める。
- 11 新規採用職員については、地域及び学校間の職員構成を考慮して、適正に配置する。

令和8(2026)年度小学校、中学校及び義務教育学校職員定期異動方針

令和7(2025)年9月2日

栃木県教育委員会

令和8(2026)年度小学校、中学校及び義務教育学校職員の定期異動に当たっては、「令和8(2026)年度公立学校職員定期異動方針」に従い、適材を適所に配置して、職員組織の充実と職員の勤務意欲の高揚及び資質の向上を図り、もって本県教育の刷新向上に努めるものとする。

このため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の趣旨に基づき、県教育委員会及び各市町教育委員会がともに連携し、下記により円滑かつ適正な人事異動を行うものとする。

記

- 1 人材を抜擢して人事の刷新を図る。
- 2 人事異動を職員の資質向上のための機会ととらえ、人材の育成を重視した職員配置に努める。
- 3 勤務実績、年齢及び同一校勤続年数等を考慮して、適材を適所に配置する。
- 4 学校間の職員構成の均衡を図る。
- 5 小学校、中学校、義務教育学校間の円滑な人事の交流に努める。
- 6 広域にわたる人事の交流を推進し、職員構成の全県的な均衡を図る。
- 7 へき地教育及び特別支援教育の振興のため、適正な職員配置に努める。
- 8 新規採用職員については、地域及び学校間の職員構成を考慮して、適正に配置する。

報告第49号

令和7年9月議会一般質問の概要について

令和7年9月議会一般質問の概要について、次のように報告する。

令和7年9月22日提出

宇都宮市教育委員会
教育長 小堀 茂雄
記

1 質問件数と項目

課名	件数	項目
学校管理課	2	<ul style="list-style-type: none">○ 校舎・体育館における空調整備について○ 小中学校のトイレ洋式化の進捗状況について
学校教育課	6	<ul style="list-style-type: none">○ 教育行政について<ul style="list-style-type: none">・ 会任職（教員業務支援事務）の中規模小学校への配置について・ 元教員などの会計年度任用職員の業務拡大について○ 宇都宮市民憲章の推進及び普及啓発について<ul style="list-style-type: none">・ 小中学校での普及啓発について○ 「まるわかり！日本の防衛 はじめての防衛白書」について○ 多文化共生都市うつのみやについて<ul style="list-style-type: none">・ 学校教育の場にも事実に基づいた正しい情報を発信することについて○ 「宇都宮市電子図書館」に導入された児童書読み放題パックについて<ul style="list-style-type: none">・ 子どもが読んだ本を学びに生かす仕組みについて・ 電子と紙の双方の読書体験を通じて子どもの学びと心を総合的に育むことについて○ 学校教育をめぐる問題について<ul style="list-style-type: none">・ 通学時の荷物の重さについて
学校健康課	6	<ul style="list-style-type: none">○ 児童生徒における熱中症対策について<ul style="list-style-type: none">・ 「子どもの家110番」を情報提供することについて・ 泉水の活用について○ 休日部活動の地域展開について<ul style="list-style-type: none">・ 休日部活動の地域展開の進捗状況について・ 先進的な事例がある中で、本市としてどのように考えているのか

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動の地域展開について <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の多様なニーズへの対応について ・ 学校施設の有効活用について ○ 学校教育をめぐる問題について <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食無償化について ○ 部活動の地域展開について <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートについて ・ 市長事務部局との連携について ○ 登下校中における安全・安心対策について
生涯学習課	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの家の運営について <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者の対応や市の指導・支援について ・ 子どもの家の支援員等との意見交換の場の設定について ○ 子どもの家へのWi-Fi導入後の状況について
教育センター	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育の充実について <ul style="list-style-type: none"> ・ 通級指導教室の設置状況や利用状況、課題について ・ 指導体制のさらなる充実について ○ 「心の健康観察」について <ul style="list-style-type: none"> ・ プライバシーや情報管理の安全性確保の具体策について ・ モデル事業終了後の効果検証やスケジュール等について
合 計	18	

令和7年9月議会一般質問の概要

() 内は共管課

議員	質問要旨	答弁要旨	担当課
9月3日 福田 智恵 議員	<p>4 教育行政について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校だけでなく、中規模の小学校まで配置を拡大し、計画的にすべての小中学校に教員業務支援員を配置できるよう、県に働きかけるとともに、市としても講ずるべきと考えるが、見解を伺う。 ・ 当該職員の採用に特別な資格要件は必要ないが、元教員など学校現場での経験を持つ方については、業務範囲を拡大できるようにすることで、教員の負担軽減や働き方改革、教員不足への対応にもつながると考えるが、見解を伺う。 <p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県が主体ということだが、不登校及び要配慮児童生徒が多くいる中、市として会計年度任用職員の業務を拡大する必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員業務支援員の中規模小学校への配置については、本市では、国の事業を活用し、教員の業務を支援する職員を小規模の小学校に17名配置しており、教員の業務負担軽減に効果的であることから、今後とも、県が主体となり、全校配置となるよう引き続き要望していく。 ・ 教職経験者の業務範囲の拡大については、業務の範囲を拡大することは、学校現場にとって有効な取組の一つであると考えられるが、国の事業を活用するに当たっては、業務内容を教員の事務補助に限定する必要があることから、今後も、現在の取組を継続していく。 ・ 本市においては、教員の業務を支援する職員以外にも、市独自に、会計年度任用職員を配置していることから、引き続き、様々な職種の会計年度任用職員による役割分担のもと、教員の働き方改革を推進しながら本市学校教育の充実に努めていく。 <p style="text-align: right;">(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、様々な業務を担う会計年度任用職員が配置されているので、現行の体制で取り組んでいく。 <p style="text-align: right;">(教育長)</p>	学校教育課

9月4日 駒場 昭夫 議員	2 宇都宮市民憲章の推進及び普及啓発について <ul style="list-style-type: none"> 市内小中学校での宇都宮学などの授業の冒頭において市民憲章の唱和を行い、次世代を担う宇都宮市の子どもたちへの普及啓発を図ることについて、見解を伺う。 <p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校で市民憲章を取り上げることはあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 本市においては、全ての小中学校で宇都宮学の授業を実施し、中学3年生での「未来へ羽ばたく宇都宮」の学習では、市民憲章を取り上げるとともに、持続可能なまちづくりを考える際には、市民憲章に示された考え方を踏まえながら学習を進めているところである。 全児童生徒に配付している「宮っ子ダイアリー」にも市民憲章を掲載し、自分たちが進んでできることを奨励しているところであり、引き続き、市民憲章の普及啓発に係るこれまでの取組を着実に推進しながら、未来を担う心豊かでたくましい宮っ子の育成に努めていく。 <p style="text-align: right;">(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校の宇都宮学では扱っていないが、「宮っ子ダイアリー」の中に市民憲章を掲載し、児童は毎日見ることができる。 <p style="text-align: right;">(教育長)</p>	学校教育課
9月4日 駒場 昭夫 議員	6 子どもの家の運営について <ul style="list-style-type: none"> 支援員等が行う保護者からの一方的なクレーム対応などについて、一向に改善されない場合には、指定管理者が迅速かつ適切に対応し、それでも時間を要する場合には、市の指導・支援が必要と考えるが、見解を伺う。 市・指定管理者・運営委員会の三者が定期的に行っている意見交換と同様に、子どもの家の支援員等を交えた定期的な意見交換の場の設定も必要と考えるが、見解を伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの家における児童の育成支援や保護者との日常的な連絡調整等の対応は、指定管理業務の仕様書に基づき、原則として、指定管理者が組織的に対応するものとなっているが、指定管理者が対応に苦慮する案件が生じた場合は、市としても円滑な解決に向けて、支援していく必要があると考えており、職員や障がい児対応アドバイザーの訪問等による支援員などからの聞き取りを通して状況を確認しながら、適宜、助言や指導を行っているところである。 毎年実施している市・指定管理者・地域代表の3者による意見交換会において、支援員の声を含む様々なご意見を伺っているほか、子どもの家への「実地調査」において、主任支援員へ 	生涯学習課

	<p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの家の利用児童数は年々増加し、それに伴い支援を必要とする児童も増加している。(支援を必要とする児童から支援員等への暴言・暴力などの)トラブルが発生した際の対応に心を痛めている。指定管理者も対応したり、市につないでいることではあるが、日々起こることであり、解決が難しい。 (宮っ子ステーション推進委員会宛に)意見交換会の通知が届いた。「運営に関することについて」意見を提出してほしいとのことであるが、日々の実情は言いづらいので意見として出していいのかとの支援員等から不安の声があるが、意見として出して良いのか。 	<p>の聞き取りなどの機会を設けており、引き続き、これらの取組を通して、支援員の意見の把握に努めていく。</p> <p>(教育委員会事務局長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者に対して、意見交換会における意見には、現場の支援員の声を反映するよう指導していく。 <p>(教育委員会事務局長)</p>	
9月4日 駒場 昭夫 議員	<p>7 児童生徒における熱中症対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> 登下校時に、地域ぐるみで子どもたちの安全を守るため、「子ども110番の家」に関する「教えてミヤリー」等で情報提供することについて見解を伺う。 熱中症対策として、水筒の持参を忘れた場合の対応として、ペットボトル「うつのみや泉水」などの水分補給への活用について見解を伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各小・中学校において、緊急時には、ためらうことなく助けを求めるなどを指導とともに、学区内の防犯・安全マップを作成し、目につきやすい場所に掲示するなど、周知徹底を図っている。 「教えてミヤリー等による情報提供」については、引き続き、これらの取組を通して、避難する方法の指導や施設の周知に努めていく。 児童生徒が水筒を忘れた際の対策として、下校前の水道水による水分補給のほか、下校途中に水分補給が必要となった場合には、「子ども110番の家」などの活用を指導するなど、児童生徒の水分補給に努めているところであり、ペットボトル「うつのみや泉水」などの活用に 	学校健康課

		<p>については、現時点では考えていないが、今後も猛暑等が想定されることから、状況を注視し、必要な対策に取り組んでいく。</p> <p>(教育委員会事務局長)</p>	
9月4日 菅野 大造 議員	<p>7 休日部活動の地域展開について</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の休日部活動の地域展開の進捗状況について伺う。 静岡市や神戸市などの先進的な事例がある中で、本市としてどのように考えているのか伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域クラブ活動育成事業」のモデル校である上河内中学校において、PTAが運営主体となり、全ての部活動が地域クラブとして活動を開始するとともに、一条中学校と旭中学校においても、両校の魅力ある学校づくり地域協議会・PTA・街なか親父の会を中心として運営主体が設立され、地域展開に向けた準備を開始したところである。本年8月末現在、市立25中学校のうち12校において各校1つ以上の休日部活動が地域クラブとして活動し、その他の学校についても、今年度内の実施に向けて、着実に取組が進められている。 近隣校同士の連携による活動機会の確保や、大学生などが指導者として参画できる人材確保の仕組みは、部活動の地域展開を推進する上で有効な方策の1つであると考えていることから、本市においても取り入れていく。 <p>(教育長)</p>	学校健康課 (学校教育課)
9月4日 平松 明夫 議員	<p>4 学校施設の環境整備について</p> <p>(1) 校舎・体育館における空調整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度、老朽化した校舎の空調更新や、小学校特別教室への新規整備、さらには武道場への新設にも着手していると聞いているが、近年は全国的に、避難所となる体育館への空調設置が急ピッチで進んでおり、施工業者の人手不足や資材の逼迫による工期の延長や計画の遅れが生 	<ul style="list-style-type: none"> 本市においては、他自治体に先駆けて、いち早く全ての小中学校の校舎や体育館へ空調設備を設置してきたところであり、現在、令和9年1月末を目途に老朽化した既存の校舎空調設備の更新と、小学校特別教室への新設を進めていることに加え、令和8年6月末を目途に全 	学校管理課

	<p>じる事例が見受けられ、本市の空調整備への影響を危惧している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画がスケジュール通り着実に進められるよう、現在の取組状況と今後の見通しについて、市の見解を伺う。 	<p>25校の中学校武道場への空調設備の新設を進めているところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「人手不足・資材の逼迫による工期の延長や計画の遅れへの対策」として、整備手法については、最も施工期間を短縮できるリース方式を採用したほか、施工管理については、工事を請け負う共同事業体において、市内事業者による効率的な体制を構築するとともに、資材の調達については、共同事業体と商社間において、安定的な供給体制を整えるなど、万全な体制により、当初の計画通り進捗しているところである。 ・ 今後とも、事業者や学校と緊密な連携を図りながら、更なる快適な教育環境の確保に向け、取り組んでいく。 <p>(教育委員会事務局長)</p>	
9月4日 平松 明夫 議員	<p>4 学校施設の環境整備について</p> <p>(2) 小中学校のトイレ洋式化の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設のトイレは社会の変化に即した洋式化が求められているが、和式トイレが多く残っている施設もあり、児童生徒の学習環境や健康に影響を及ぼしかねない状況であるほか、学校施設は災害時に地域の避難所としても重要な役割を果たす施設であることから、洋式トイレの整備は、誰もが安心して使える環境を提供するために不可欠な投資である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市においては、「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」において、令和9年度末における小中学校の校舎・体育館のトイレ洋式化率を100%とする目標を掲げ、トイレの洋式化を積極的に推進している。 ・ 「校舎及び体育館におけるトイレ洋式化の進捗状況」については、令和6年度末時点において83.5%となっており、現在進めて 	学校管理課

	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の校舎及び体育館におけるトイレの洋式化の進捗状況と、学校施設全体を視野に入れた今後の整備方針について伺う。 	<p>いる改修工事によって、令和7年度末における洋式化率はおおむね計画どおりの約88%となる見込みである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「今後の整備方針」については、学校施設は、誰もが利用しやすい施設として機能の充実・強化を図っていくことが重要であることから、校舎・体育館のトイレ洋式化の完了後には、屋外や武道場のトイレなどについても、洋式化を検討していく。 今後とも、計画的なトイレの洋式化を推進することで、利便性や快適性の向上を図り、児童生徒や地域の皆様が安心して利用できる学校施設の環境づくりに取り組んでいく。 <p>(教育委員会事務局長)</p>	
9月4日 平松 明夫 議員	<p>5 子どもの家へのWi-Fi導入後の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての子どもの家にWi-Fi環境を整備し、夏休み期間運用してきた中で、利用児童や保護者からのどのような声があるのか、また、運用上の課題や改善すべき点が見えてきているのか、見解を伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みから新たにWi-Fi通信環境を利用し、「児童生徒用一人一台端末」による学習が可能となった児童からは、「友だちと一緒に調べ学習ができるて楽しい。」保護者からは、「子どもの家で宿題や自主学習をやってくれるため、帰宅後に、家族の時間がこれまでよりも多く取れるようになった。」など好評の声をいただいており、児童の学習面や生活面の向上につながったものと受け止めている。 今回整備したWi-Fi設備は、十分な通信速度を有し最大で100名の同時接続が可能な機器を導入したところであり、現在までのところ、安定的な通信環境が提供できているものと受け止めている。 <p>運用上の課題としては、「児童生徒用一人一台</p>	生涯学習課

		<p>端末」の破損等のリスクを低減していくことが重要であると考えているため、「利用スペースを区切る」「固定の学習時間を設ける」「登所時に専用ボックスに収納する」など、それぞれの子どもの家で工夫ながら実施している効果的な取組を指定管理者と共有し、児童や保護者が安心して利用できる環境となるよう取り組んでいく。</p> <p>(教育委員会事務局長)</p>	
9月4日 平松 明夫 議員	<p>6 特別支援教育の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市における通級指導教室の設置状況や利用の現状、そして課題の認識を伺う。 また今後、専門的人材の確保や関係機関との連携を含め、指導体制のさらなる充実を、どのように進めていくのか見解を伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする児童生徒が、安心して学校生活を送り、その可能性を最大限に發揮するためには、一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実が重要であると認識している。 本市では、令和5年度までに通級指導教室を小中学校15校に22教室整備してきたが、指導を受ける教室が他校にある場合は、保護者の送迎が必要となるなどの課題があり、令和6年度からは、「通級指導教室サテライト校」を、小中学校21校に25教室、新たに設置した。 こうした取組の結果、在籍校で指導を受けた児童生徒の割合が、初めて半数を超え、児童生徒や保護者からは、「慣れた環境で安心して学べるようになった」「送迎の負担がなくなり指導を受けられるようになった」などの声をいただいている。 児童生徒一人一人のニーズに応じた指導支援が行えるよう、かがやきルーム支援員や医療的ケアを行う看護師など、小中学校に約160名 	教育センター

		<p>の支援スタッフを配置するとともに、教育センター配置の専門的な知見を有するアドバイザーが、学校に出向いて指導助言を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、「宇都宮市発達支援ネットワーク会議」において、切れ目のない支援の実現を目指し、情報共有や意見交換を行っている。 今後は、サテライト校における指導回数を増やすなど、児童生徒が安心して指導を受けられる体制整備に取り組むとともに、引き続き、専門的人材の確保や関係機関との連携に努め、特別支援教育の充実に取り組んでいく。 <p>(教育長)</p>	
9月4日 福田 久美子 議員	<p>2 「まるわかり！日本の防衛 はじめての防衛白書」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 憲法の精神に反し、大軍拡を合理化する「まるわかり！日本の防衛 はじめての防衛白書2024」は直ちに学校から回収するとともに、防衛省及び栃木県教育委員会に対して通知の撤回を求めるなど強く抗議すべきと考えるが、見解を伺う。 <p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 書かれている内容が一方的なため、取扱いについて、教育委員会が発信していく必要があると思うが、伺う。 子供たちにふさわしくない情報がそのまま放置されることについて、伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本市としては、当該冊子に掲載されている多くの内容が、小学校学習指導要領に定められているものではないため、授業等での活用が想定されないことや、当該冊子が、インターネット上で誰もが閲覧可能な状態であることを踏まえ、現時点において、特段の措置等は考えていない。 今後も、学習指導要領に基づき、児童生徒が、社会的事象について多面的・多角的に考察し、公正に判断できるよう、適切な教材を選択しながら指導の充実に努めていく。 <p>(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 政府の刊行物の内容について、教育委員会は見解を述べる立場にはないと認識している。 今回の刊行物は政府機関が発行したものであるので、それについてコメントする立場にはな 	学校教育課

	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館など、子供たちが批判的な検証ができる環境を整える責任が学校にあると思うが、伺う。 	<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全て調査しているわけではないが、ほとんどの学校は図書館には置いていないと認識している。 <p>(教育長)</p>	
9月4日 福田 久美子 議員	<p>3 多文化共生都市うつのみやについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 多文化共生の観点から、学校教育の場にも事実に基づいた正しい情報を積極的に発信する必要があると考えるが、見解を伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本市では、全小中学校において人権教育を推進し、全ての人々の人権が尊重され、相互に共存することができる平和で豊かな社会の実現に向け、主体的に参画する児童生徒の育成を図っており、外国籍を含む全ての児童生徒が、互いに協力し合って学校生活を送っている。 今後も、学校教育活動全体を通じて、広い視野をもって多文化を尊重する態度や、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていく態度を育成するための教育の充実を図っていく。 <p>(教育長)</p>	学校教育課
9月5日 茂木 祐佳里 議員	<p>1 部活動の地域展開について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様なニーズへの対応として、生徒の思いを尊重し、競技志向の活動と楽しく参加できる活動の双方が共存できる仕組みを整えることが必要と考えるが、市の見解を伺う。 県プランに示されている「学校施設の有効活用」を、本市としても具体化していくべきと考えるが、市の対応を伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に、アンケート調査を実施したところ、「部活動に求めること」として、約7割の児童生徒が「友達と楽しく活動したい」と回答したことから、本年6月に策定した「宇都宮市休日の部活動の地域展開方針」において、子どもたちが様々な選択肢の中から、「楽しさ」や「喜び」を感じができる豊かで幅広い活動機会を、学校を含めた地域全体で確保することを本市の目指す方向性として明示し、取組を進めているところである。 部活動は、学校教育の一環であることから、学校施設で活動しており、本市中学校における休日部活動の受皿となる地域クラブについても、これまでと同等の活動機会が確保できるよ 	学校健康課 (学校教育課)

	<p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査における「楽しく」の定義について伺う。 	<p>う、部活動に準じて学校施設を活用可能としたところである。</p> <p>(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査では「友達と楽しく活動するため」という選択肢であったため、「楽しく」の定義について明確にすることは難しい。 <p>(教育長)</p>	
9月5日 山崎 昌子 議員	<p>4 「宇都宮市電子図書館」に導入された児童書読み放題パックについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童書読み放題パックを学力向上に結び付けるため、学校教育と連携し、子どもが読んだ本を学びに生かす仕組みをどのように工夫していくのか、伺う。 全国でも突出した本市の読書活動を強みとして、電子と紙、双方の読書体験を通じて、家庭や地域と協力しながら子どもの学びと心を総合的に育む必要があると考えるが、見解を伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育においては、児童書読み放題パックの利点を生かし、児童生徒が一つの作品を同時に読み、意見を述べ合う活動により思考力や表現力等の育成が期待できることから、今後、市が指導資料を作成し、授業における活用例について各学校に周知していく。 紙の本は、繰り返し読む中で内容を深く理解することや五感を働かせた読書体験に適していることから、紙の本による読書やボランティアによる読み聞かせを引き続き推奨し、電子図書については、児童書読み放題パックの中から親子で本を選び、楽しむ読書を啓発するなど、学校、家庭、地域が連携した読書活動をより一層推進することにより、児童生徒の豊かな心や人間性、教養、創造力等が育まれるものと考えている。 今後、紙の本による読書活動の充実を図るとともに、児童書読み放題パックを活用した教育活動を工夫するなど、紙と電子の双方のよさを生かしながら児童生徒が生涯にわたって読書に親しむ態度を育成していく。 <p>(教育長)</p>	学校教育課 (生涯学習課)

9月5日 小室 かな子 議員	<p>2 学校教育をめぐる問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの健全な成長過程において荷物の重さや姿勢は、何らかの対策を講じなければならない段階にきているのではないかと考えるが、通学時の荷物の重さについてどのような考え方なのか、伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学校に対し、登下校時の荷物の重さや量について適切に配慮するよう継続的に指導を行ってきたところであり、家庭学習で使用しない教科書や教材等については学校に置いておくことや、1人1台端末については荷物が多い日の持ち帰りを避けるなど、通学時の荷物が過重とならないよう、本年7月の校長会議において、改めて指導の徹底を図ったところである。 今後も引き続き、児童生徒の健やかな成長のため、心身の健康保持と学習活動の充実の両立を図りながら、荷物を軽減する対策について各学校に指導していく。 <p>(教育長)</p>	学校教育課
9月5日 小室 かな子 議員	<p>2 学校教育をめぐる問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食費無償化を前提にした保護者負担軽減について、本市としてどのように考えているのか伺う。 「栃木県の学校給食を考える会」が行ったアンケートにおいて、本市が求める「給食費無償化の 	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食は子どもたちの成長や健康維持にとって重要な役割を果たしており、全国で平等な教育環境として一定水準の確保が求められることから、学校給食費無償化は、国において、給食の質を確保しながら、自治体間で格差が生じることのないよう、全国一律に実施すべきものと考えている。 本市は、国・県に先立ち、今年度から実施している保護者給食費負担軽減事業により給食費の保護者負担の軽減に取り組むとともに、物価高騰の影響下にあっても、国の栄養摂取基準を満たす量やバランスを確保しながら、地産地消や地域性を活かした学校給食を提供しているところであり、引き続き、学校給食費無償化の早期実現に向けて、国や県に働きかけを行っていく。 学校給食費無償化に要する費用は、全額、国において負担すべきだが、今後、国が制度設計 	学校健康課

	<p>ための県の負担割合」を「30%」と回答した根拠について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食費無償化の実現には多くの財源が必要となるが、今後どのように無償化を進めていくのか伺う。 <p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートにおける「30%」の根拠として、本市の負担も「3分の1」ということで、本市として今すぐにでも負担できると考えているか。 ・ 今後無償化を実施するにあたり、本市が負担する金額は2,000円までと考えているのか。この金額は確保するのか。 ・ 国による無償化が実現するまで、保護者給食費負担軽減事業を継続していくのか。 	<p>を進めていく中で、仮に地方に負担を求められた場合、国・県・市が平等に費用負担することが必要であると考えていることから、県の負担割合を「3分の1」と想定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国の「経済財政運営と改革の基本方針2025」において、「これまでの議論に基づき、具体化を行い、予算編成過程において成案を得て実現する」と明記するとともに、県においては、「市町との意見交換に取り組む」としていることから、国の動向を注視しながら、県とともに、学校給食費無償化の具現化に向けた検討を進めていく。 <p>(教育委員会事務局長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、保護者給食費負担軽減事業で毎月2,000円の給食費に対する補助を行っているが、これは給食費平均月額のおおよそ3分の1であるので、その水準を負担しているものと考えている。 ・ 本来は自治体間で格差が生じないよう、国において一律に無償化を実施すべきと考えている。本市は国に先んじて保護者給食費負担軽減事業を実施しているが、無償化の早期実現に向けて、引き続き国に要望していく。 ・ 補助を継続していくことを考えているが、無償化の実現に向けて、国に要望していく。 <p>(教育委員会事務局長)</p>	
<p>9月8日 矢古宇 芳一 議員</p>	<p>5 部活動の地域展開について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度に実施したアンケートの内容と結果について、また、その結果を踏まえてどのような取組を行うのか伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度に、児童生徒や保護者、教職員を対象に、「活動の目的」や「部活動への関わり方」などについて意識調査を行ったところであり、児童生徒の約7割が「友達と楽しく活動したい」と考えていることや保護者の約8割が「子どもの成長の促進」を求めていること、教職員の約 	<p>学校健康課 (学校教育課)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会だけでなくスポーツ都市推進課や文化都市推進課など市長部局と連携して、部活動の地域展開の体制を整えていく必要があると考えるが、見解を伺う。 <p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に実施したようなアンケート調査を、今後実施する予定はあるか。 	<p>7割が「部活動の指導が負担」と感じていることなどを把握したところである。このような状況を踏まえ、本市においては、本年6月に「宇都宮市休日の部活動の地域展開方針」を策定し、目指す方向性や進め方として、生徒が「楽しさ」や「喜び」を感じができる豊かで幅広い活動機会を確保することや、子どもたちの望ましい成長を支えるため、地域クラブと学校が連携・協力して、取組を進めることなどを明示したところである。</p> <p>また、部活動の地域展開における教職員の不安や負担解消に向け、地域展開の進め方や教職員の関わり方について、「部活動地域移行コーディネーター」が学校に出向いて意見交換を行うとともに、教職員が地域クラブで指導する際の条件や留意点について整理したところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の地域展開に当たり、運営主体や指導者を円滑に確保できるよう、スポーツ都市推進課や文化都市推進課など市長事務部局と連携・協力体制を構築しながら、指導者の育成・確保などについてスポーツ・文化芸術関係団体に働きかけを行っているところである。 <p style="text-align: right;">(教育長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の進捗状況を踏まえ、必要に応じて実施を検討する。 <p style="text-align: right;">(教育長)</p>	
9月8日 手塚 泉 議員	<p>4 登下校中における安全・安心対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間事業者と協定を締結するなどして、登下校の途中にトイレ利用や水分補給ができる場所があれば、安心して通学できると思うが見解を伺う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各小・中学校において、登下校前のトイレ利用や水分補給をはじめ、緊急時に使用するトイレや給水スポットの場所の確認など、事前準備の重要性を指導するとともに、避難・休憩場所の情報を含めた学区内の「防犯・安全マップ」を作成、掲示し、緊急時にためらうことなく周囲の大人に助けを求めるなどを指導するなど、 	学校健康課

	<p>(再質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「子ども110番の家」などについて周知しているのか伺う。 	<p>安全教育の充実を図っているところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「登下校時のトイレ利用と飲料水の確保」については、各小・中学校において、「子ども110番の家」など約4,800か所に対し、緊急時のトイレ利用や水分補給、熱中症対策時の休憩場所としての利用をお願いするなど、児童生徒が安心して通学できる環境整備に努めているところである。 「民間事業者との協定締結」等については、現時点では考えていないが、児童生徒の登下校時における環境は変化することが想定されるところから、必要に応じて、さらなる対策を講じていく。 <p>(教育委員会事務局長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに対しては、「防犯・安全マップ」を活用して、学区内のどこに「子ども110番の家」などがあるのか一目で分かるようにしている。 保護者に対しては、デジタル連絡ツール「さくら連絡網」を活用して周知している。 <p>(教育委員会事務局長)</p>	
<p>9月8日 手塚 泉 議員</p>	<p>5 「心の健康観察」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を活用した「心の健康観察」は、端末入力という特性上、プライバシーや情報管理の徹底が不可欠であるが、安全性確保の具体策はどうなっているのか伺う。 モデル事業終了後の効果検証や評価方法、全市展開を見据えたスケジュールや条件について、ど 	<ul style="list-style-type: none"> 本年7月から市内の小中学校14校において試験導入を開始したところであり、取り扱う情報には、児童生徒の心の状態など、プライバシーへの配慮が必要な情報が含まれていることから、使用する端末やアプリについて、暗号化等のセキュリティ対策を実施するほか、各学校においては、IDやパスワードの管理、情報の持出し等について市が定めたルールを順守しながら適切に運用を行っている。 本年10月に活用状況を把握するためのアンケート調査を実施し、事業の評価・検証を行う 	<p>教育センター</p>

	のように考えているのか見解を伺う。	とともに、令和8年3月を目途にモデル事業の実施で明らかになった課題等を踏まえ、心の健康観察が、メンタルヘルスの向上やいじめ・不登校の未然防止に資する取組となるよう、より効果的な実施方法や適切な支援を行うための活用方法等について検討していく。 (教育長)	
--	-------------------	---	--

報告第 51 号

臨時代理の報告について

宇都宮市教育委員会の組織及び運営に関する規則第4条の2第1項の規定により、次のとおり臨時に代理したので、同条第2項の規定により報告する。

令和7年9月22日提出

宇都宮市教育委員会
教育長 小堀 茂雄

1 臨時代理の理由

令和7年第3回宇都宮市議会に付議する議案について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定により、市長から意見を求められたため、異議がない旨回答することについて、緊急を要し、教育委員会の会議を招集する時間的な余裕がなかったため、臨時に代理したことから、この事項について報告するものである。

2 臨時代理した事項

(1) 教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の議案の作成に係る意見の提出

- 工事請負契約の締結について（今泉小学校屋内運動場改築工事）

3 意見提出

別紙のとおり

参照 宇都宮市教育委員会の組織及び運営に関する規則第4条の2

写

宮教企第530-1号
令和7年9月18日

宇都宮市長 佐藤栄一様

宇都宮市教育委員会

教育長 小堀茂雄



教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の議案の作成について（回答）

令和7年9月12日付宮行第1186号により意見を求められた令和7年第3回市議会定例会に付議する予定の下記の議案については、異議ありません。

記

1 工事請負契約の締結について（今泉小学校屋内運動場改築工事）

写

宮行第1186号

令和7年9月12日

宇都宮市教育委員会

教育長 小堀茂雄様

宇都宮市長 佐藤栄一

(行政経営部行政経営課扱)



教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の議案の作成について

令和7年第3回市議会定例会に付議する予定である下記の議案を作成するに当たり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定により、貴委員会の意見を伺います。

記

1 工事請負契約の締結について（今泉小学校屋内運動場改築工事）

議案第 号

工事請負契約の締結について

次のように工事請負契約を締結する。

令和7年 月 日提出

宇都宮市長 佐 藤 栄 一

- 1 契約の目的 今泉小学校屋内運動場改築工事
- 2 契約の方法 地方自治法施行令第167条の5の2及び第167条の10の2による制限付き一般競争入札
- 3 契約金額 1,138,500,000円
- 4 相手方 日豊・中村・増渕建設共同企業体

宇都宮市若草1丁目1番6号

代表者 日豊工業株式会社

代表取締役 輩 昂 洋

宇都宮市大曾4丁目10番19号

中村土建株式会社

代表取締役 渡邊 幸雄

宇都宮市築瀬町2500番地15

株式会社増渕組

代表取締役社長 増渕 勝明

(提案の理由)

今泉小学校屋内運動場改築工事に係る請負契約を締結しようとするものであります。

(契約課)

参考 宇都宮市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条

工事請負契約の締結について〔今泉小学校屋内運動場改築工事〕

1 入札結果表

制限付き一般競争入札（総合評価落札方式（※））

No.	商号又は名称	技術評価点	入札金額（円） (税抜き)	価格点	総合評価点	摘要
1	日豊中村増済建設共同企業体	17.41	1,035,000,000	79.997	97.407	落札
2	晋豊岩村渡辺建設共同企業体	17.43	1,058,000,000	78.258	95.688	

※ 價格と施工能力・実績等の技術力を総合的に評価し落札者を決定する入札方式

【参考】 予定価格（税抜き）：1,124,960,000円

調査基準価格（税抜き）：1,034,963,000円

2 請負代金額

$$1,035,000,000\text{円} + 103,500,000\text{円} = 1,138,500,000\text{円}$$

(入札金額) (消費税及び地方消費税額) (請負代金額)

3 落札率

$$1,138,500,000\text{円} \div 1,237,456,000\text{円} \times 100 = \text{約} 92.0\%$$

(請負代金額) (予定価格：税込み) (落札率)

4 工事概要

(1) 施工場所

宇都宮市元今泉1丁目7番29号

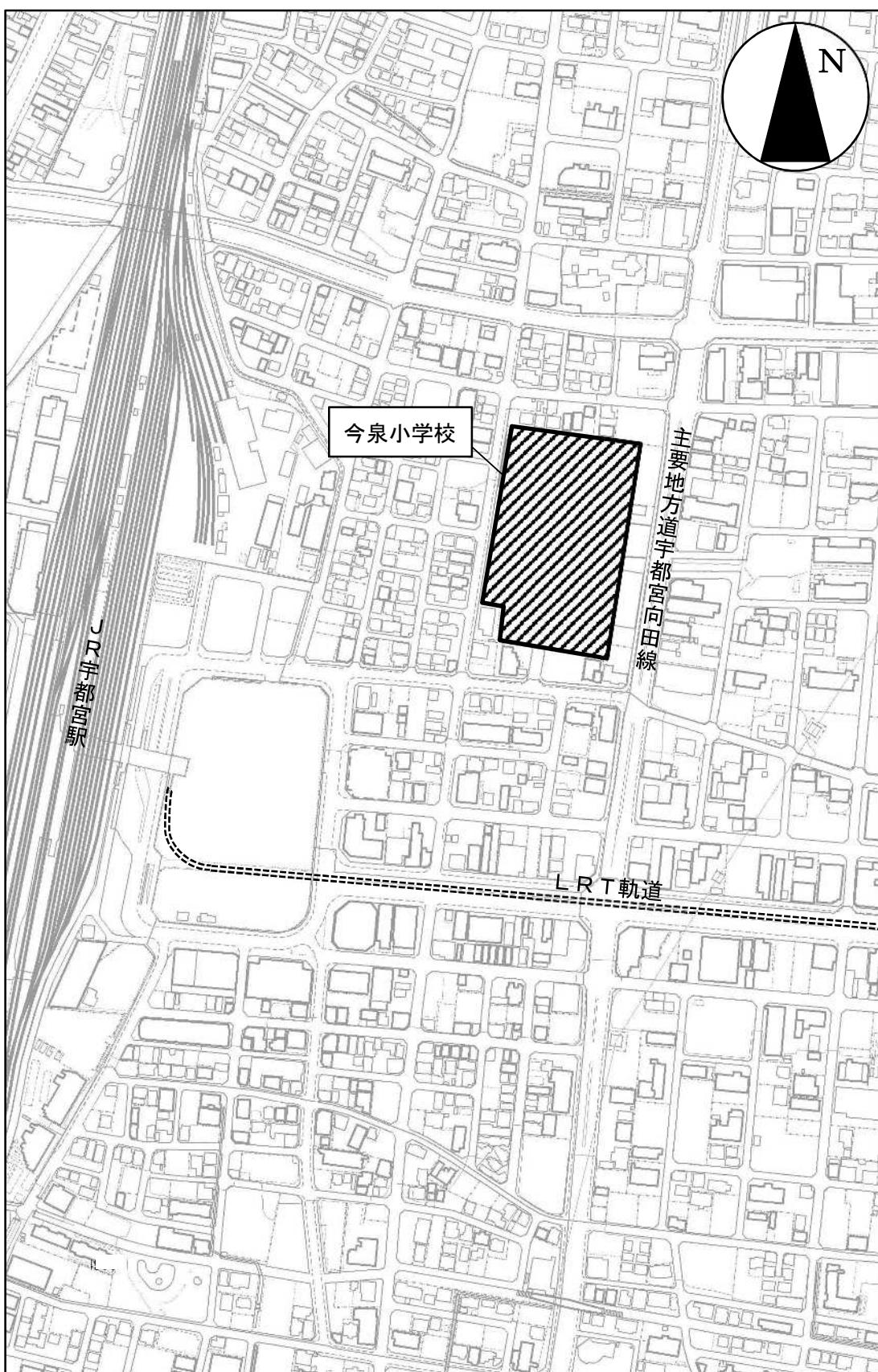
(2) 施工概要

		概要
屋内運動場 (渡り廊下含む)	構造	鉄筋コンクリート造3階建て
	延べ面積	2,508.90m ²
	屋根	フッ素ガルバリウム鋼板 立ハゼ葺
	陸屋根	合成高分子系ルーフィングシート防水
	外壁	複層塗材
校舎		建具改修12か所
外構		アスファルト舗装、側溝、フェンス及び北門門扉撤去・新設
		屋外排水設備新設

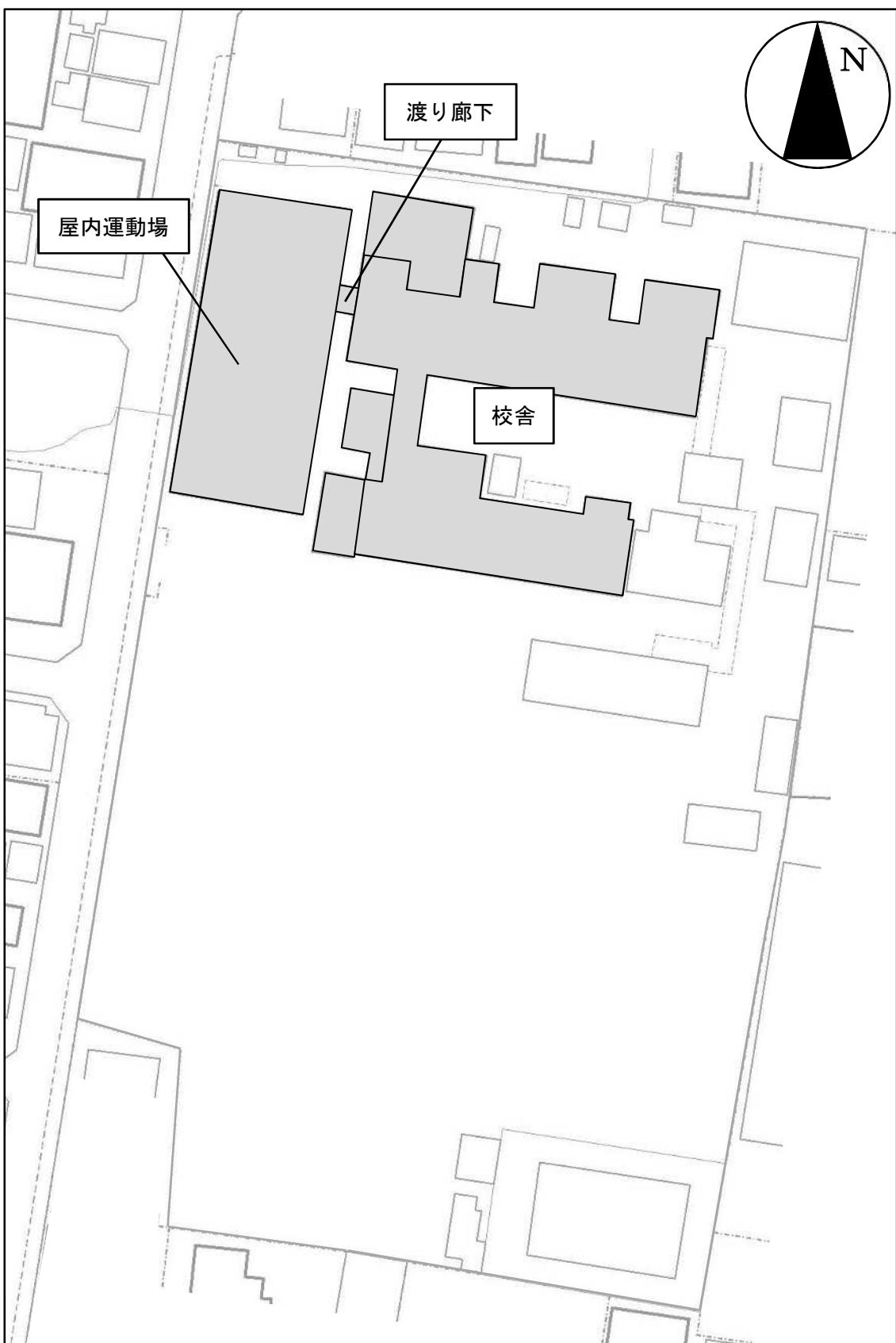
(3) 工期

令和9年2月15日まで

位置図



概略図



報告第52号

令和7年度「全国学力・学習状況調査」、「とちぎっ子学習状況調査」
の結果について

令和7年度「全国学力・学習状況調査」、「とちぎっ子学習状況調査」の結果
について、次のように報告する。

令和7年9月22日提出

宇都宮市教育委員会
教育長 小堀 茂雄

別紙のとおり

令和7年度「全国学力・学習状況調査」、「とちぎっ子学習状況調査」の結果について

◎ 国、県が4月に実施した「全国学力・学習状況調査」「とちぎっ子学習状況調査」の本市の結果等（概要）について報告するもの

1 調査の概要について

（1）全国学力・学習状況調査

ア 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善（学力向上P D C A）サイクルを確立する。

イ 調査実施日

令和7年4月17日（木）

ウ 調査対象等

- ・ 小学校（69校）の6年生 国語 算数 理科 質問調査
- ・ 中学校（25校）の3年生 国語 数学 理科 質問調査

（2）とちぎっ子学習状況調査

ア 目的

本調査の実施により本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善（学力向上P D C A）サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

イ 調査実施日

令和7年4月17日（木）

ウ 調査対象等

- ・ 小学校（69校）の4・5年生 国語、算数、理科、質問調査
- ・ 中学校（25校）の2年生 国語、社会、数学、理科、英語、質問調査

2 令和7年度の結果について（資料）

3 調査結果の活用について

- ・ 調査結果については、市HPにより公開するとともに、学力向上のための施策・事業の一層の充実に資するよう活用する。また、学校において、調査結果を活用した指導内容や指導方法等の改善を推進し、児童生徒の学習状況の改善等に役立てられるようするため、全小・中学校に提供する。
- ・ 学校が、児童生徒の実態を保護者や地域に十分説明し理解を得た上で、家庭・地域の協力を得て学校教育活動を推進できるようにするため、自校の各教科における領域等の平均正答率について、分析結果や指導の改善策などと併せて公表する。

令和7年度「全国学力・学習状況調査」「とちぎっ子学習状況調査」の結果について（概要）

宇都宮市教育委員会

1 教科に関する調査の結果について

＜全体的な状況＞

概ね、各学年、各教科において国や県の平均正答率を上回っている。

特に、全国学力・学習状況調査では、小6算数・理科、とちぎっ子学習状況調査では、小4理科、中2社会・数学・理科・英語において、国や県の平均正答率を1.5ポイント以上上回るなど、良好な状況が見られる。

一方で、とちぎっ子学習状況調査では、小5国語において、県の平均正答率を若干下回っている。

＜小学校 学年別・教科別の平均正答率の状況＞

調査・学年	教科	平均正答率の状況 (%)		
		宇都宮市	国または県 (*)	市 - 国または県 (*)
全国学力・学習状況調査 小6	国語	67.4	66.8	0.6
	算数	60.4	58.0	2.4
	理科	59.0	57.1	1.9
とちぎっ子学習状況調査 小5	国語	65.3	65.6	△0.3
	算数	64.7	64.6	0.1
	理科	62.2	61.6	0.6
とちぎっ子学習状況調査 小4	国語	68.3	68.3	0.0
	算数	55.9	55.4	0.5
	理科	70.5	68.9	1.6

＜中学校 学年別・教科別の平均正答率の状況＞

調査・学年	教科	平均正答率の状況 (%)		
		宇都宮市	国または県 (*)	市 - 国または県 (*)
全国学力・学習状況調査 中3	国語	54.7	54.3	0.4
	数学	49.6	48.3	1.3
	理科	※ 507	※ 503	※ 4
とちぎっ子学習状況調査 中2	国語	61.6	60.6	1.0
	社会	52.8	50.3	2.5
	数学	46.7	45.2	1.5
	理科	49.5	46.8	2.7
	英語	51.5	48.2	3.3

(*) 小4・小5・中2においては、県の平均正答率との差を示しています。

小6・中3においては、全国の平均正答率との差を示しています。

※ 中学校理科では、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示しています。

＜小学校（小4, 小5, 小6） 良好的な状況や課題が見られる領域等について＞

国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「読むこと」の領域の平均正答率が、小4, 小5では県平均をそれぞれ1.2P, 1.0P, 小6では全国平均を1.1P上回り、良好な状況が見られる。中でも、人物の気持ちの変化を具体的に想像する設問において、小5では県平均を1.9P上回っており、内容を正確に捉えることについて定着が図られている。 ● 「書くこと」の領域において、小4, 小5, 小6とも、資料から読み取ったことを基に詳しく書いたり、自分の考えを明確にして書いたりすることに課題が見られる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「データの活用」領域の平均正答率が、小4, 小5では県平均をそれぞれ0.6P, 0.8P, 小6では全国平均を1.8P上回り、良好な状況が見られる。中でも、データを二つの観点から分類整理した二次元表に表したり読み取ったりすることについて定着が図られている。 ● 「数と計算」領域において、計算の意味と仕方についての理解や、小数、分数の仕組みなどを考察することに課題が見られる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が、小4, 小5では県平均をそれぞれ2.3P, 1.1P上回り、小6では全国平均を1.9P上回り、良好な状況が見られる。中でも、乾電池の数やつなぎ方が異なる回路のうちプロペラが同じ速さで回転するものを選ぶ設問において、小5では県平均を2.6P上回っており、つなぎ方による電流の大きさなどを捉えることについて定着が図られている。

＜中学校（中2, 中3） 良好的な状況や課題が見られる領域等について＞

国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域の平均正答率が、中2では県平均を2.2P、中3では全国平均を3.0P上回り、良好な状況が見られる。中でも、言葉の意味として適切なものを選択する設問において、中3では全国平均を4.8P上回っており、文章の中で使われる言葉の意味を理解することについて定着が図られている。 ● 「書くこと」の領域において、中2, 中3とも、複数の資料から読み取った情報を関係付け、根拠を明確にしながら書くことに課題が見られる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「歴史的分野」の領域の平均正答率が、中2では県平均を3.0P上回り、良好な状況が見られる。中でも、遣唐使の派遣が停止された理由について、唐の勢力の衰えや使節派遣の危険性について述べている文章を選択する設問の正答率は、62.6%で、県平均を3.4ポイント上回る。資料から読み取れる適切な内容を考察することについての定着が図られている。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「データの活用」の領域の平均正答率が、中2では県平均を1.1P、中3では全国平均を3.0P上回り、良好な状況が見られる。中でも、度数分布表から相対度数や累積度数を求める設問において、中3では全国平均を8.7P上回っており、相対度数の意味を理解することについて良好な状況が見られる。 ● 「関数」の領域において、具体的な事象を数学的に解釈し、グラフや式を用いて問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「生命」を柱とする領域の平均正答率が、中2では県平均を3.2P、中3で全国平均を1.7P上回り、良好な状況が見られる。中でも、両生類と爬虫類について、身に付けた知識を活用して分類を修正する設問において、中2では県平均を5.7P上回っており、既存の知識を生かしながら、動物を分類することについて定着が図られている。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「聞くこと」の領域の平均正答率が、中2では県平均を2.3P上回り、良好な状況が見られる。中でも、英語を聞き、場所を表す英文を聞き取る設問において、中2では県平均を15.8P上回っており、英語の内容を正確に聞き取ることについて定着が図られている。

*「ポイント」を「P」と表記する。

2 児童生徒質問調査（アンケート）の結果について

それぞれの質問に対する本市児童生徒の肯定的な回答の割合を示しています。
() 内の数値は、小6・中3においては全国平均との差、小4・小5・中2においては県平均との差を示しています。

○ 児童生徒は、主体的によりよい学級づくりに参画している。

「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている」（全国学力）

小6 87.7% (+4.4P) 中3 89.9% (+5.6P)

「学級活動における学級の話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」（全国学力）

小6 83.2% (+2.4P) 中3 82.9% (+5.6P)

○ 教員や家族に自分のよさを認められていると感じており、自己肯定感が高い。

「先生は、学習のことについてほめてくれる」（とちぎっ子）

小4 90.8% (+1.9P) 小5 90.6% (+1.4P) 中2 87.2% (+3.2P)

「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」（全国学力）

小6 95.1% (+2.9P) 中3 94.9% (+2.7P)

「家の人は、ほめてもらいたいことをほめてくれる」（とちぎっ子）

小4 88.3% (+0.5P) 小5 89.0% (+1.4P) 中2 83.1% (+2.3P)

○ 地域や社会についての関心をもっている児童生徒の割合が高い。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」（全国学力）

小6 83.1% (+1.8P) 中3 79.3% (+4.0P)

「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」（とちぎっ子）

小4 72.4% (+0.8P) 小5 75.2% (+2.5P) 中2 70.1% (+3.7P)

○ 夢や目標について考えている児童生徒の割合は、国や県との差において、おおむね高くなっている。

「将来の夢や目標をもっている」（全国学力・とちぎっ子）

小4 91.3% (+1.3P) 小5 89.8% (+0.8P) 小6 86.0% (+2.9P)

中2 69.9% (-0.8P) 中3 70.9% (+4.1P)

「家の人と将来のことについて話すことがある」（とちぎっ子）

小4 68.1% (+0.7P) 小5 71.7% (+4.3P) 中2 69.0% (+3.3P)

● 自分の考えを文章にまとめて書く学習に、苦手意識がある。

「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない」（とちぎっ子）

小4 34.7% (-1.3P) 小5 37.1% (-1.2P) 中2 33.3% (-2.4P)

※令和6年度 小4 33.4% (-1.9P) 小5 34.5% (-1.7P) 中2 32.0% (-2.0P)

※令和5年度 小4 34.7% (-2.5P) 小5 37.1% (-2.6P) 中2 33.8% (-2.1P)



* 「ポイント」を「P」と表記する。

3 学校質問調査（アンケート）の結果について

それぞれの質問に対する本市立学校の肯定的な回答の割合を示しています。
() 内の数値は、「全国学力・学習状況調査」の質問については全国平均との差、「とちぎっ子学習状況調査」の質問については県平均との差を示しています。

○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進められている。

「児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力して話し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している」（全国学力）

小学校 100% (+4.7P) 中学校 100% (+5.0P)

「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている」（とちぎっ子）

小学校 89.7% (+0.4P) 中学校 100% (+11.7P)

○ 小・中学校が連携して行う取組が、全国と比べてよく行われている。

「近隣等の中（小）学校と、教育課程に関する共通の取組を行った」（全国学力）

小学校 89.8% (+24.5P) 中学校 100% (+28.3P)

○ 職場体験活動等の実施により、宮・未来キャリア教育が推進されている。

「職場体験活動を実施している（＊5日以上）」（全国学力）

中学校 100% (+92.0P)

「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている」（全国学力）

小学校 86.9% (+0.8P) 中学校 100% (+1.6P)

○ 保護者や地域と連携・協働する取組が、よく行われている。

「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」（全国学力）

小学校 97.1% (+3.8P) 中学校 96.0% (+7.0P)

● 調査分析で見られた課題に対する学力調査問題の有効な活用が求められる。

「学力調査後、調査対象学年の児童生徒に対して、調査問題を解かせることで、課題の改善状況を確認している」（とちぎっ子）

小学校 86.8% (-5.6P) 中学校 76.0% (-7.8P)

「学力調査後、調査対象学年の1学年下の児童生徒に対して、調査問題を解かせることで、習得状況を確認している」（とちぎっ子）

小学校 78.0% (-3.5P) 中学校 48.0% (-22.1P)

「児童生徒に身に付けさせたい力の確認等のために、教員自ら調査問題を解いている」（とちぎっ子）

小学校 92.6% (-3.1P) 中学校 80.0% (-13.5P)

● 中学校において、学校内での共通理解をより深めることが求められる。

「小集団で授業研究を行うなど、組織的に授業づくりに取り組んでいる」（とちぎっ子）

小学校 100% (+4.6P) 中学校 88.0% (+0.3P)

「授業研究を伴う校内研修の回数（年間4回以上）」（とちぎっ子）

小学校 76.5% (+0.5P) 中学校 52% (-0.6P)

「調査結果の分析を全教職員で行っている」（とちぎっ子）

小学校 100% (+1.2P) 中学校 76.0% (-14.9P)

4 児童生徒質問調査（アンケート）と教科の正答率のクロス集計結果について

－ 学力との相関が高い質問についての考察 －

本市におけるアンケートの結果のうち、正答率が高い児童生徒の方が、正答率が低い児童生徒と比べて肯定的に回答している傾向が見られた項目について分析し、学力に影響すると考えられる児童生徒の取組をまとめました。

正答率が高い児童生徒は、次のことによく取り組んでいる傾向が見られる。

- ・ 課題の見通しを立てて学習に取り組み、振り返って次の学習や実生活に生かすなど、主体的に学習に取り組んでいる。
- ・ 話し合いや発表活動を通して考えを深め、自分の考えを資料や文章を工夫して伝えている。
- ・ 教科等の見方・考え方を働きさせながら、習得・活用・探究の学習活動に取り組んでいる。
- ・ 課題解決に向けて自分から取り組み、学習の時間を確保して、計画的に取り組んでいる。

5 全体のまとめ

＜まとめ＞

教科に関する調査結果について

概ね、各学年、各教科において全国及び県の平均を上回っており、良好な結果が見られた。課題のある教科についても改善傾向にある。各教科等における基礎的事項の理解や、資料から必要な情報を読み取り、内容を把握する技能など、基本的な知識・技能について定着しつつあると考えられる。

質問調査（アンケート）について

書くことへの意識や調査問題の活用において、肯定的な回答割合が県の平均を下回るなど、一部に課題も見られたが、学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組、小・中学校や地域との連携に係る取組を中心に全国及び県の平均を上回っており、概ね良好な結果が見られた。

＜良好な結果の要因と考えられること＞

- ・ 各学校において児童生徒を認め励ます指導が浸透し、児童生徒が自分によさに自身をもち、幸せを感じるなど自己肯定感が高い状態で、学習や生活に臨むことができている。
- ・ 各学校において、課題設定を工夫したり、課題解決に向けた話し合い活動を積極的に取り入れたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が進められている。
- ・ 児童生徒の学習の様子を把握し、個に応じた指導を充実させたり、自主的な学習が促進されるよう具体例を示して取り組めるよう課題を工夫しながら家庭学習の習慣化に向けた取組を継続したりするなど、基本的な知識・技能の着実な定着に向けた取組が推進されている。
- ・ 地域学校園において、小・中学校が連携した取組が定着しており、教育課程に関する共通の取組や小中での合同研修の機会を確保するなど、小・中学校で系統性のある指導の実践ができている。

＜今回の結果から見えてきた課題＞

- ・ 資料から読み取った情報を基に、解釈したり、考察したりすること、思考したことの目的や意図に沿って表現することなどに課題が見られるため、各教科等の特質に応じて言語活動を充実させ、言語能力の育成を図るなど、指導方法の工夫改善が必要である。
- ・ 自分の考えを文章にまとめて書くことについて課題が見られるため、児童生徒の文章を書く力が身に付くよう発達の段階に応じて指導を工夫し、授業中の取組に加えて、授業外や家庭学習の取組など組織的・継続的な取組が必要である。

6 今後の取組

〈市教委〉

〈学校〉

市の強みとして更に伸ばしたいところ

- 本市児童生徒のほとんどが「教職員や家族に自分のよさを認められている」、「幸せな気持ちになることがある」と感じていることを本市学校教育の大きな成果と捉え、児童生徒の自信や自己肯定感を一層育むため、「宮っ子心の教育表彰」など、認め励ます教育を引き続き推進していく。
- 児童生徒一人一人の資質・能力の向上のために、基礎期からのきめ細かな学習指導を推進する。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をより一層推進するため、ICT機器を効果的に活用した学習活動の充実を図り、引き続き、学びのデザインチームでの実践事例を示すとともに、教職員の授業改善の取組を支援していく。
- 各教科等の「小中一貫教育カリキュラム」の地域学校園化・自校化を推進し、本市の4（基礎期）・3（活用期）・2（発展期）の各期のまとめを生かし、9年間の学びを見通した指導の一層の充実を図る。

認め
励ます
教育の推進

「主体的・
対話的で
深い学び」
への授業改善

9年間の
系統性
ある指導

- 児童生徒理解を深め、日々の学習や生活における児童生徒への積極的な声かけや機会を捉えた称賛などにより、児童生徒のよさや努力を認め励ますとともに、児童生徒同士が互いのよさに気付く活動を引き続き推進し、児童生徒のウェルビーイングの実現に努める。

- 「宇都宮モデル」を活用し、児童生徒が意欲的に学習に取り組み、資質・能力を高めることができるよう、課題の設定、発問や問い合わせ等を工夫するとともに、児童生徒が考え方を説明したり、意見を交わしたりしながら学び合う学習活動を展開する。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教職員が児童生徒の学びについて理解を深めて授業の質を高め、組織的に授業改善を図っていく。

- 小・中学校共通の重点目標や具体策を検討し、各教科等のカリキュラムの地域学校園化や共通実践に取り組むとともに、各期の児童生徒の学習状況を確認し、その後の指導に生かすことで、更なる指導改善を図る。

今後改善したいところ

- 市定着度調査を含む3つの調査の一体的な分析により、本市の学力向上に係る取組の改善に向けてPDCAサイクルを回すとともに、各学校の実態を踏まえて学習指導上の課題について十分に把握する。CBT調査に向けてMEXCBTの活用を促進する。
- 自分の考え方をまとめ、書く力を重点的に育成するため、「書くことキャンペーン」の取組例を周知し、児童生徒が記述する活動を推進していく。各教科の特質に応じた表現・説明・考察などの言語活動の充実を図ることや系統的な指導を実施することについて、研修や学校訪問の機会を捉えて、指導助言を行う。

学力調査
の
活
用

書く力
の
育
成

- 国、県、市の調査問題及び調査結果を教職員で分析して児童生徒の状況や学習指導上の成果と課題を適切に把握し、共通理解を図るとともに、課題解決に向けた共通取組を通して指導計画や授業の改善し、組織的に取り組むことにより、学力の向上を図る。また、CBT調査に対応するためMEXCBTを積極的に活用する。

- 学校全体の共通実践として「書くことキャンペーン」を展開し、国語科を中心とした全ての教科等で、協働的な学びにおける対話を生かし、自分の言葉でまとめて書く活動につなげるなど、書くことの充実を図る。また、発達の段階に応じて授業外や家庭学習においても書く機会を設定するなど、取組を工夫する。

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果について【小学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るために、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本市立小学校児童の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「全国学力・学習状況調査」について

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善（学力向上P D C A）サイクルを確立する。



2 調査期日・調査対象 令和7年4月17日（木） 第6学年

3 調査内容

（1）教科に関する調査

- ① 国語
- ② 算数
- ③ 理科

（2）質問調査

① 児童に対する調査	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するこ
② 学校に対する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関するこ

4 本市の参加状況

（1）学校数	宇都宮市立小学校 69校（69校中）
（2）児童数	国語 4,021人 算数 4,015人 理科 4,027人

5 留意事項

（1）調査結果について

本調査は対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

（2）教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を分かりやすく示すために、教科全体及び分類・区別の平均正答率、正答数度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 「平均正答率」、「正答数の分布」について状況を記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、分類・区分ごとに、良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを分類・区分ごとに記載した。

（3）質問調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び全国との比較において本市の特徴が見られる質問等を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、クロス集計結果も踏まえた指導の留意点、改善のポイントを併せて記載した。

1 小学校第6学年 国語

平均正答率

(%)

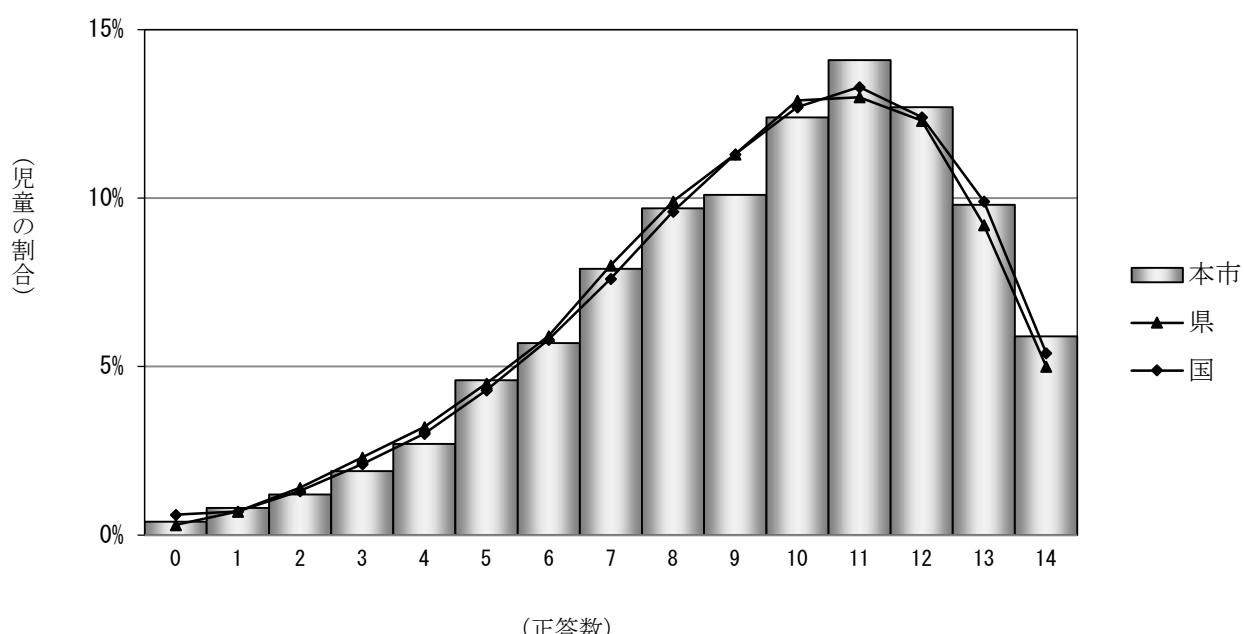
	宇都宮市(市立) a	栃木県(公立)	全国(公立) b	差 a-b
国語	67.4	66	66.8	0.6

分類・区別平均正答率

(%)

分類		区分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導 要領の 内容	知識 及び 技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	76.7	75.9	76.9	△0.2
		(2)情報の扱い方に関する事項	62.4	62.0	63.1	△0.7
		(3)我が国の言語文化に関する事項	82.1	80.8	81.2	0.9
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	67.0	64.9	66.3	0.7
		B 書くこと	70.0	69.6	69.5	0.5
		C 読むこと	58.6	57.5	57.5	1.1
評価の観点	知識・技能		74.5	73.7	74.5	0.0
	思考・判断・表現		64.6	63.3	63.8	0.8
	主体的に学習に取り組む態度					

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (全国平均との差 △0.2 ポイント)

- 漢字を書く設問の正答率は 68.9% で、全国平均を 3.2 ポイント下回る。同音異義の漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られる。

情報の扱い方に関する事項 (全国平均との差 △0.7 ポイント)

- 話合いの記録の書き表し方を説明したものとして適切なものを選ぶ設問の正答率は 62.4% で、全国平均を 0.7 ポイント下回る。図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (全国平均との差 0.9 ポイント)

- 世代によってもの呼び方が違うことについて適切なものを選ぶ設問の正答率は 82.1% で、全国平均を 0.9 ポイント上回る。時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いがあることを理解することに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (全国平均との差 0.7 ポイント)

- インタビューにおいて、質問の目的として適切なものを選ぶ設問の正答率は 73.5% で、全国平均を 1.7 ポイント上回る。自分が聞こうとする意図に応じて、具体的に知るための質問をすることに良好な状況が見られる。

書くこと (全国平均との差 0.5 ポイント)

- ちらしにおいて、伝えたいことを言葉と図で説明した理由として適切なものを選ぶ設問の正答率は 82.8% で、全国平均を 1.0 ポイント上回る。図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに良好な状況が見られる。
- ちらしに書いた内容について、調べたことや経験したことを基に詳しく書き改める設問の正答率は 61.3% であり、全国平均と同じであるが、回答類型からは、提示された情報を踏まえずに書いている回答が全国平均をやや上回る。必要な情報を捉え、情報と情報とを関係付けながら書くことに課題が見られる。

読むこと (全国平均との差 1.1 ポイント)

- 説明的な文章の内容を把握することについて、適切な言葉を書き抜く設問の正答率は 82.6% で、全国平均を 1.0 ポイント上回る。時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

情報の扱い方に関する事項

話合いの内容を記録する際には、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができるよう指導することが重要である。

また、話合いだけでなく、書くことや読むことと関連を図り、情報と情報との関係を考えたり、情報を整理したりする活動を意図的に設定することが大切である。

書くこと

文章を書く活動において、自分の考えが伝わるよう、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするためには、[知識及び技能] の「情報の扱い方に関する事項」との関連を図り、内容や要素でまとめたり、順序だてて系統化したりしながら書くことや、図示などにより語句と語句との関係を表しながら書くことを指導する必要がある。

そのため、文章を書く活動を実施する際には、目的や意図を明確にし、構成について、どの部分を簡単に書き、どの部分を詳しく書くか構想させるとともに、調べたことや自分が経験したことなど、収集した情報を整理し、整理した情報について、複雑な事柄は分解して書いたり、複数の情報を一定のきまりを基に系統化して書いたりするなど、情報と情報とを関係付けながら書くことを指導することが重要である。

2 小学校第6学年 算数

平均正答率

(%)

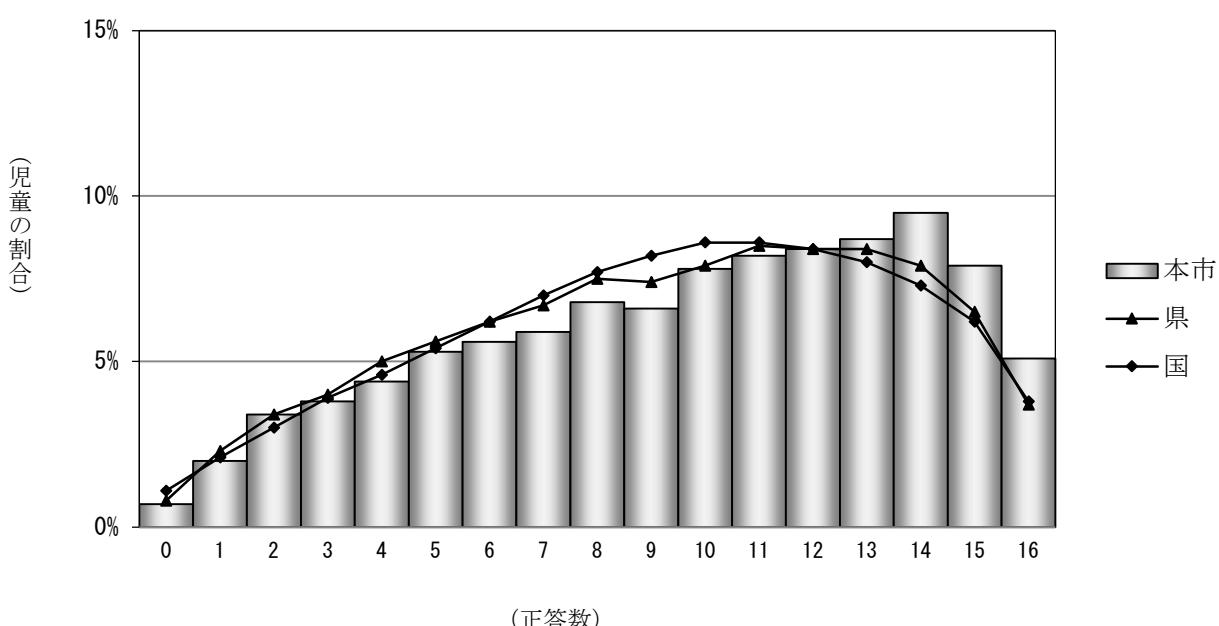
	宇都宮市(市立) a	栃木県(公立)	全国(公立) b	差 a-b
算数	60.4	58	58.0	2.4

分類・区別平均正答率

(%)

分類	区分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国(b)	差(a-b)
学習指導要領の領域	A 数と計算	63.6	62.0	62.3	1.3
	B 図形	60.4	57.2	56.2	4.2
	C 測定	56.9	54.4	54.8	2.1
	C 变化と関係	58.6	55.9	57.5	1.1
	D データの活用	64.4	62.0	62.6	1.8
評価の観点	知識・技能	68.3	66.0	65.5	2.8
	思考・判断・表現	50.4	47.7	48.3	2.1
	主体的に学習に取り組む態度				

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と計算 (全国平均との差 1.3 ポイント)

- 分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述する設問の平均正答率は 25.5% であり、全国平均を 2.5 ポイント上回るが、無解答率は 14.8% で全設問中最も高い。分数の加法について、単位分数に着目して、計算の仕方を考察することに課題が見られる。

図形 (全国平均との差 4.2 ポイント)

- 方眼上にある図形の中から台形を選択する設問の平均正答率は 58.9% であり、全国平均を 8.7 ポイント上回る。辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形の性質をもとに図形の弁別をすることに良好な状況が見られる。

測定 (全国平均との差 2.1 ポイント)

- はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む設問の平均正答率は 63.6% であり、全国平均を 2.7 ポイント上回る。ものの重さについて、示されたはかりの最小目盛りの大きさを捉え、適切に測定することに良好な状況が見られる。

変化と関係 (全国平均との差 1.1 ポイント)

- ハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ設問の平均正答率は 83.2% で全国平均を 0.4 ポイント上回り、全設問の中で正答率が最も高い。伴って変わる二つの数量関係に着目し、必要な数量を見いだすことに良好な状況が見られる。
- ハンドソープの内容量が、增量前の何倍かを選ぶ設問の平均正答率は 42.4% で、選択式の問題の中で最も低い。日常生活における割合が用いられる場面で、割合の表現の意味を解釈することに課題が見られる。

データの活用 (全国平均との差 1.8 ポイント)

- 大根の出荷量の表から、条件にあった都道府県を選ぶ平均正答率は 75.7% であり、全国平均を 4.1 ポイント上回る。二次元表から根拠となる数に着目し、データの特徴や傾向を捉えることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

数と計算

「数と計算」の領域では、数の表し方の仕組みや数量の関係に着目し、計算の仕方を既習の内容をもとに考えたり、統合的・発展的に考えたりすることが重要である。分数の加法や減法の計算の仕方については、形式的に通分をして計算するのではなく、通分することで共通する単位分数の個数に着目し、整数の加法、減法に帰着して考察できるようになることが大切である。また、計算の過程や結果を振り返り、数学的な表現を用いて伝え合う機会を設定することも効果的である。

変化と関係

「割合」では、問題場面の数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について考察し、数学的に表現・処理することが重要である。そのためには、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるようになることが大切である。

3 小学校第6学年 理科

平均正答率

(%)

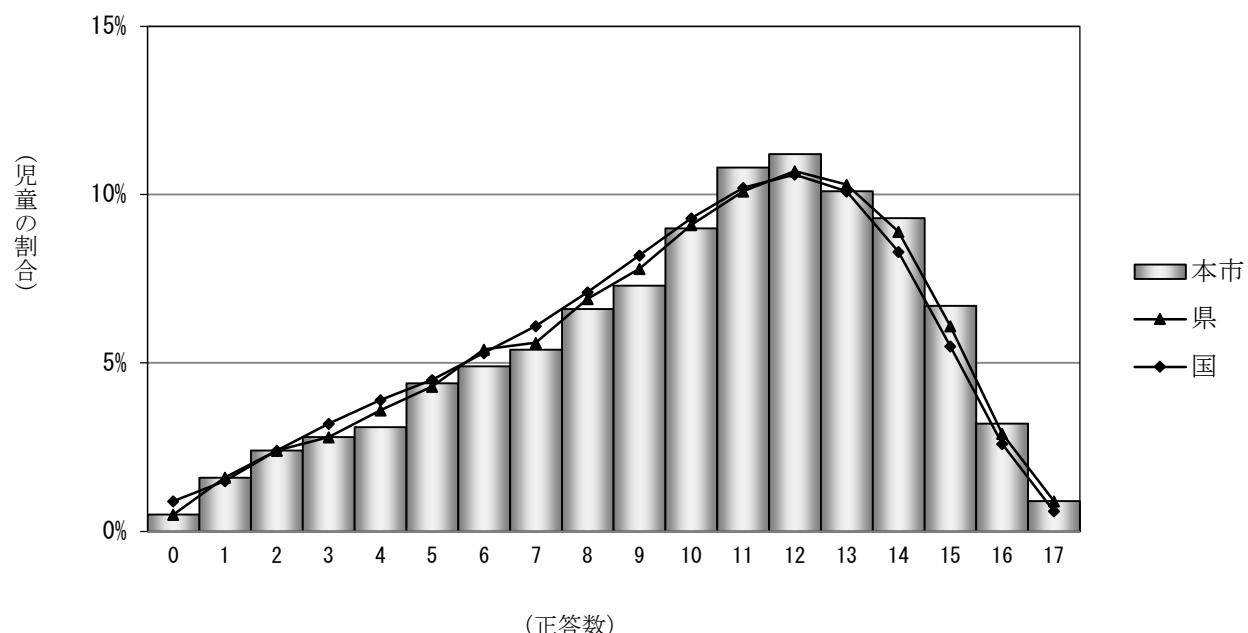
	宇都宮市(市立) a	栃木県(公立)	全国(公立) b	差 a-b
理科	59.0	58	57.1	1.9

分類・区別平均正答率

(%)

分類		区分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)	
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	48.6	47.9	46.7	1.9	
		「粒子」を柱とする領域	52.8	52.2	51.4	1.4	
	B区分	「生命」を柱とする領域	55.5	54.3	52.0	3.5	
		「地球」を柱とする領域	67.9	67.4	66.7	1.2	
評価の観点		知識・技能	57.5	57.2	55.3	2.2	
		思考・判断・表現	60.4	59.3	58.7	1.7	
		主体的に学習に取り組む態度					

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

「エネルギー」を柱とする領域 (全国平均との差 1.9 ポイント)

- 乾電池2個のつなぎ方について、直列つなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ設問の正答率は58.4%で、全国平均を3.3ポイント上回る。直列つなぎについての理解に良好な状況が見られる。
- アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ設問の正答率は、13.4%で、教科全体の中で最も低い。身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物の理解に課題が見られる。

「粒子」を柱とする領域 (全国平均との差 1.4 ポイント)

- 海にある氷がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ設問の正答率は61.4%で、全国平均を1.6ポイント上回る。海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することについて良好な状況が見られる。

「生命」を柱とする領域 (全国平均との差 3.5 ポイント)

- ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ設問の正答率は65.0%で、全国平均を3.0ポイント上回る。実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することについて良好な状況が見られる。
- レタスの種子の発芽の結果から、新たな問題を見いだして書く設問の正答率は33.3%で、全国平均を3.4ポイント上回るが、無解答率は11.3%であった。発芽の条件について、差異点や共通点を基に、表現することに課題が見られる。

「地球」を柱とする領域 (全国平均との差 1.2 ポイント)

- 水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ設問の正答率は62.7%で、全国平均を1.8ポイント上回る。氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、学習したことと関連付けた理解に良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

「エネルギー」を柱とする領域

物の性質について調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成することが必要である。また、実験の結果を表などに分類、整理するなど性質について考えたり、説明したりする活動の充実を図るようにすることが大切である。

「生命」を柱とする領域

植物の育ち方について関わる条件を制御しながら調べる活動を通して、変える条件と変えない条件を区別し、実験の操作とその意味を関連付けながら捉えていけるよう、解決の方法を発想し、表現する活動の充実を図るようにすることが大切である。

4 小学校質問調査

【児童質問調査の状況】調査結果（全71問から抜粋）

- 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と5ポイント以上差があり本市児童の特徴を表すものを取り上げた。
- 肯定的な回答の割合は「当てはまる（している）」、「どちらかといえば当てはまる（している）」等と回答した割合の合計である。（*それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均と の 差
1	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか	87.0%	2.1
2	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	87.1%	4.8
3	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	87.7%	4.4
4	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	80.4%	0.1
5	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか	78.7%	△0.7
6	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） * 1時間以上	57.1%	3.1
7	読書は好きですか	73.6%	3.9
8	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか *週3回以上	73.0%	1.3
9	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（6）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	88.1%	3.5
10	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか ・自分の考え方や意見を分かりやすく伝えることができる	81.1%	3.5
11	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか	80.8%	4.1
12	自分には、よいところがあると思いますか	88.9%	2.0
13	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	94.5%	1.5
14	将来の夢や目標を持っていますか	86.0%	2.9
15	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	95.1%	2.9
16	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	77.0%	6.4

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業や学習について (No. 1 ~ 7)

- No. 1, 3 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より 2.1 ポイント、4.4 ポイント上回っている。各学校においては、学級における話し合いの活動を通して、課題解決をしたり、自分の考えを深めたりするなど協働的に学ぶ授業の充実が図られているものと考えられる。
- No. 6 の肯定的回答の割合は、全国平均を 3.1 ポイント上回っている。各学校においては、家庭学習の時間の目安や具体例を示すなどの手立てを工夫していると考えられる。引き続き、家庭学習の取組を支援し、習慣化していくことが大切である。
- No. 5 の肯定的回答の割合は、全国平均より 0.7 ポイント下回っている。各学校においては、単元で計画的に振り返りを実施し、児童が自身の学びを自覚し、次の学習へとつなげることができるようにすることが必要である。

ICT 機器を活用した学習状況について (No. 8 ~ 11)

- No. 9, 10 の肯定的回答の割合は、いずれも全国平均より 3.5 ポイント上回っており、No. 11 では、4.1 ポイント上回っている。1 人 1 台端末の活用を踏まえた授業の工夫により、児童が自分の考えを発表することや、友達の考え方などを比べることなど、活用する効果を実感しながら学習活動に取り組んでいると考えられる。また、ICT 機器を効果的に活用し、児童の思考力や表現力を育成する授業の充実を図っていると考えられる。

自分自身のことについて (No. 12 ~ 14)

- No. 12, 14 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均を 2.0 ポイント、2.9 ポイント、上回っている。No. 12 の肯定的回答は、9 割以上であり、全国平均を 1.5 ポイント上回る。各学校においては、特色ある教育活動や授業の工夫改善が進められており、学校生活が充実するとともに、様々な活動や経験を通して、自己肯定感や自己有用感が育成されているものと考えられる。また、将来の夢や目標をもって前向きに生活していると考えられる。

周囲とのかかわりについて (No. 15, 16)

- No. 15, 16 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均を 2.9 ポイント、6.4 ポイント上回っている。各学校においては、児童のよさを認めるとともに、安心感をもって学校生活が送れるよう、教職員が日常的に児童とかかわりながら児童理解を深め、信頼関係を構築することで、効果的に教育活動が進められているものと考えられる。

【学校質問調査の状況】

調査結果（全84問から抜粋）

- 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と5ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。
- 肯定的な回答の割合は「行った」、「どちらかといえば行った」等と回答した割合の合計である。（*それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	100%	3.4
2	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100%	2.5
3	調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか	84.0%	△6.3
4	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていますか	84.0%	△5.2
5	調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	97.1%	4.4
6	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	98.5%	8.9
7	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	100%	1.4
8	令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	97.1%	0.6
9	令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか。（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	100%	11.0
10	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	89.8%	24.5
11	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との相互理解は深まりましたか	97.1%	3.8
12	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	98.6%	9.3
13	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか *週3回以上	97.1%	0.5
14	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか *持ち帰って活用	100%	11.0
15	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか *週3回以上	92.7%	14.7

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業中の指導や児童の学習状況について (No. 1 ~ 5)

- No. 1 の肯定的回答の割合は 100% であり、全国平均より 3.4 ポイント上回っている。各学においては、各教科の教育目標や内容の相互の関連を図りながら児童の資質・能力を育成するため、教育課程を編成していると考えられる。
- No. 2 の肯定的回答の割合は、全国平均より 2.5 ポイント上回っている。各学校においては、地域の方の協力や施設等の活用など効果的に取り入れながら指導計画を作成し、地域と連携しながら特色ある教育活動を展開していると考えられる。
- No. 5 の肯定的な回答の割合は、全国平均より 4.4 ポイント上回っている。各学校においては、探究的な学習の中で、児童が自ら進んで学習に取り組みながら、課題設定能力や情報収集能力などを高めることができるよう学習課題や学習活動を工夫するなど、主体的な学びの視点から、学習指導の充実が図られているものと考えられる。
- No. 3, 4 の肯定的な回答の割合は、8割以上であるが、全国平均よりそれぞれ 6.3 ポイント、5.2 ポイント下回っている。わかりやすい授業により学習内容を理解し、できしたことやわかったことを認め、興味をもたせるとともに、児童のつぶやきを拾い上げ、児童の発言のよさを全体に広めるなどして、自信を育てる指導が必要である。

研修など教職員の資質向上に関する状況について (No. 6, 7)

- No. 6 の肯定的回答の割合は、全国平均より 8.9 ポイント上回っており、No. 7 の肯定的回答の割合は 100% である。各学校において、授業力や学級経営力等の資質・能力の向上を目指した取組が推進されているものと考えられる。

学力・学習状況調査結果の活用について (No. 8, 9)

- No. 8, 9 の肯定的回答の割合は、9割以上と高く、それぞれ全国平均よりそれぞれ 0.6 ポイント、11 ポイント上回っている。学校全体で調査結果について分析を進め、学校全体で成果や課題を共有するとともに、保護者等への公表にも取り組むなど、教育活動のさらなる充実のために活用する取組が推進されているものと考えられる。

本市の推進する取組等について (No. 10~15)

- No. 10 の肯定的回答の割合は、全国平均より 24.5 ポイント高く、上回り方が大きい。小・中学校が連携を図り、義務教育 9 年間を見通した系統的な指導による確かな学力を育む教育が推進されているものと考えられる。
- No. 11, 12 の肯定的回答の割合は、全国平均よりそれぞれ 3.8 ポイント、9.3 ポイント上回っている。コミュニティスクールモデル校の取組や、各学校において魅力ある学校づくり地域協議会との連携強化を図るなど、保護者や地域の方々と教育課程の趣旨を共有しながら連携・協働した学校づくりが推進されているものと考えられる。
- No. 13 の肯定的回答は 9 割以上と高く、引き続き各学校における 1 人 1 台端末の効果的な活用の推進が必要である。No. 14, 15 の肯定的回答の割合はそれぞれ全国平均より 11 ポイント、14.7 ポイント上回っており、各学校における 1 人 1 台端末の家庭と連携した活用が図られている。

【児童質問調査と教科の正答率のクロス集計の状況】

- 学力層を上位から順に 25%ずつ、4層（A-D層）に分け、各層の肯定的な回答の割合を基に意識と平均正答率との相関を分析している。
- A-D層間の開きの大きい質問は、正答率の高い児童ほど、肯定的に回答している傾向が見られる質問であり、平均正答率との関係があるものと考えられる。

〈A-D層の差が 10 ポイント以上のものから抜粋〉

No.	質問の内容	宇都宮市	
		A-D層の差	肯定的な回答割合
1	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	29.9	94.5%
2	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	27.0	68.6%
3	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く） *100冊以上	25.6	73.2%
4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	23.6	81.4%
5	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	22.8	70.0%
6	算数の問題の解き方が分からぬときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	22.7	83.3%
7	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	21.3	80.7%
8	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いませんか	20.4	85.4%
9	理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想（仮説）を考えていますか	18.8	86.9%
10	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	17.7	78.9%
11	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	16.8	87.6%
12	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか	16.6	78.8%
13	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか	13.7	83.3%
14	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方へ気付いたりすることができますか	13.0	87.5%
15	分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	13.0	82.4%
16	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか	12.4	84.2%

傾向と考察及び指導の留意点

- 正答率が高い児童の方が、以下の点について肯定的に回答している傾向が見られる。
- 指導の留意点等は、「➡」以下に示した。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について

- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
- ・各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめている。

➡ 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童ほど、正答率が高い。課題の解決に向けて、知識・技能を生かし、自分の考えをまとめ、効果的に伝えるなど思考・判断・表現の過程を重視し、児童の資質・能力を育成することが大切である。

主体的な学習の調整について

- ・学習内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。
- ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしている。
- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。

➡ 児童が見通しをもって学習に取り組み、学習を振り返って次につなげ、主体的に学習に取り組んでいる児童の方が、正答率が高い。単元を通して、既習事項やこれまでの学び方を用いて課題解決の見通しをもたせる場面や、学んだことを実感し、次の学習や実生活に生かせるように振り返る場面を計画的に実施することが必要である。

ICTの活用について

- ・ICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成している。
- ・ICT機器を使って情報を整理（図、表、グラフ・思考ツールなどを使ってまとめている）している。
- ・自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている。
- ・話し合う活動を通じて、考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりしている。

➡ ICT機器を活用することができると考えている児童ほど、各教科の正答率が高い。また、1人1台端末を有効に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現のために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推進していく。

各教科の見方・考え方を働かせることについて

- ・国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている。
- ・算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。
- ・理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるか予想を立てている。

➡ 教科等の物事を捉える視点や考え方、思考の仕方を意識させながら、資質・能力を身に付けさせることができるよう、教材や課題設定、発問等により意図的に働きかけをするなど、各教科等の特質を踏まえた上での指導を重ねることが重要である。

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果について【中学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るために、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本市立中学校生徒の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「全国学力・学習状況調査」について

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善（学力向上P D C A）サイクルを確立する。

2 調査期日・調査対象 令和7年4月17日（木） 第3学年



3 調査内容

（1）教科に関する調査

- ① 国語
- ② 数学
- ③ 理科

（2）質問調査

- ① 生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸侧面等に関するこ
- ② 学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関するこ

4 本市の参加状況

- （1）学校数 宇都宮市立中学校 25校（25校中）
- （2）生徒数 国語3,787人 数学3,793人 理科3,782人

5 留意事項

（1）調査結果について

本調査は対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

（2）教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を分かりやすく示すために、教科全体及び分類・区別別の平均正答率、正答数度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 国語、数学については、「平均正答率」、「正答数の分布」について状況を記載した。理科については、「平均IRTスコア」、「IRTバンド分布」及び「公表問題の平均正答率」について状況を記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、分類・区分ごとに、良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを分類・区分ごとに記載した。

（3）質問調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び全国との比較において本市の特徴が見られる質問等を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、クロス集計結果も踏まえた指導の留意点、改善のポイントを併せて記載した。

1 中学校第3学年 国語

平均正答率

(%)

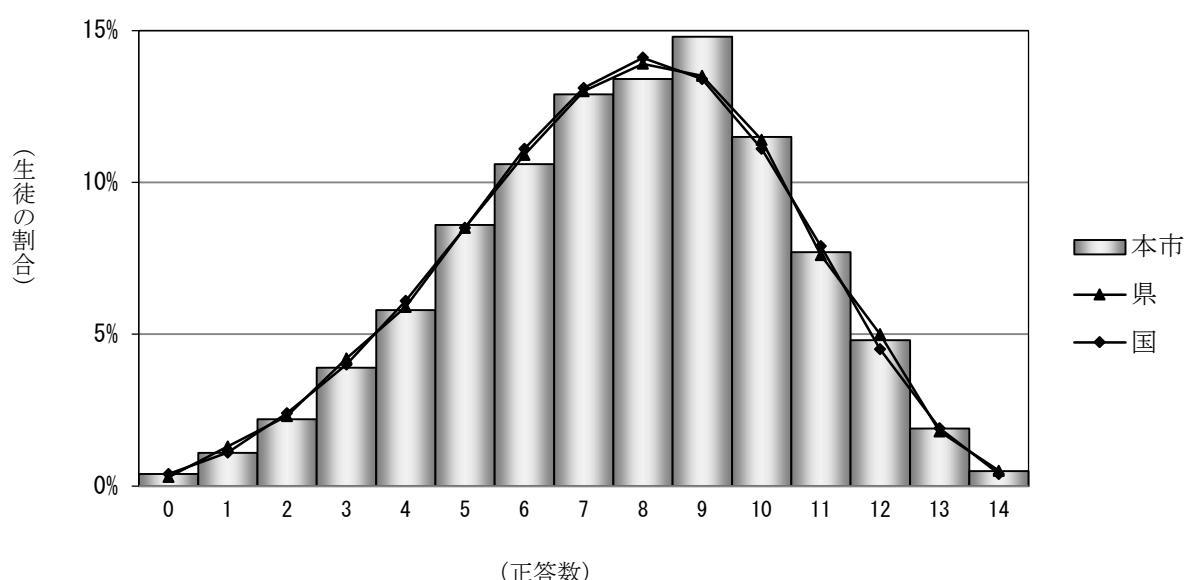
	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立)	全国 (公立) b	差 a - b
国語	54.7	54	54.3	0.4

分類・区分別平均正答率

(%)

分類	区分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	51.1	48.9	48.1
		(2)情報の扱い方に関する事項			
		(3)我が国の言語文化に関する事項			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	53.2	53.0	53.2
		B 書くこと	53.1	53.1	52.8
		C 読むこと	61.8	61.9	62.3
評価の観点	知識・技能	51.1	48.9	48.1	3.0
	思考・判断・表現	55.3	55.3	55.3	0.0
	主体的に学習に取り組む態度				

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (全国平均との差 3.0 ポイント)

- 言葉の意味として適切なものを選ぶ設問の正答率は 65.8%で、全国平均を 4.8 ポイント上回る。語彙を正しく理解することに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (全国平均との差 0.0 ポイント)

- 話合いにおいて、「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選ぶ設問の正答率は 73.5%で、全国平均を 0.1 ポイント上回る。論理の展開に注意して、話の構成を工夫することに良好な状況が見られる。
- 発表の内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、自分の考えを書く設問の正答率は 23.1%で、全国平均を 0.1 ポイント下回る。自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題が見られる。

書くこと (全国平均との差 0.3 ポイント)

- ちらしの中の情報について、示す位置を変更した意図を説明したものとして適切なものを選ぶ設問の正答率は 65.3%で、全国平均を 2.0 ポイント上回る。書く内容の中心が明確になるように、内容のまとめを意識して文章の構成や展開を考えることに良好な状況が見られる。
- ちらしの読み手に向けて、イベントの工夫について伝える文章を書く設問の正答率は 30.2%で、全国平均を 0.8 ポイント下回る。自分の考えが伝わる文章になるように、資料から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして書くことに課題が見られる。

読むこと (全国平均との差△0.5 ポイント)

- 物語の始めに問い合わせが示されていることの効果の説明として適切なものを選ぶ設問の正答率は 78.9%で、全国平均を 1.1 ポイント下回る。表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題が見られる。

指導の工夫・改善

話すこと・聞くこと

回答類型からは、自分の考えは書けたものの、考えの根拠となる部分について適切に取り上げることができなかった生徒の割合は 22.2%であった。

自分の考えが分かりやすく伝わるよう表現を工夫するためには、自分の考えを支える根拠が示されていることや、筋道の通った論理の展開となっていること、資料で示した図表などが自分の考えを補足したり、強調したりするものになっていることなどの要素が満たされている必要があり、その適切さの吟味について、話し手の立場からだけでなく聞き手の立場に立って考えさせるなど、指導を工夫することが重要である。

書くこと

実用的な文章を書く活動において、自分の考えが伝わるよう、根拠を明確にして書くためには、〔知識及び技能〕の「情報の扱い方に関する事項」との関連を図り、相手や目的に応じて伝えるべき事柄を選択したり再構築したりするなど、情報と情報とを適切に関係付けながら、考えを簡潔に分かりやすく書くことができるよう指導することが必要である。

そのため、実用的な文章を書く言語活動を設定する際には、他教科等の学習や学校の教育活動全体との関連を図り、実際に書いて伝えたり、読み手の反応を受け取ったりすることができるよう計画を工夫することが考えられ、書くために集めた情報や、伝え合う活動を通して得られた情報を整理したり、関係付けたりしながら文章を書く時間を設定するなど、生徒が主体的に活動に取り組めるよう指導することが重要である。

2 中学校第3学年 数学

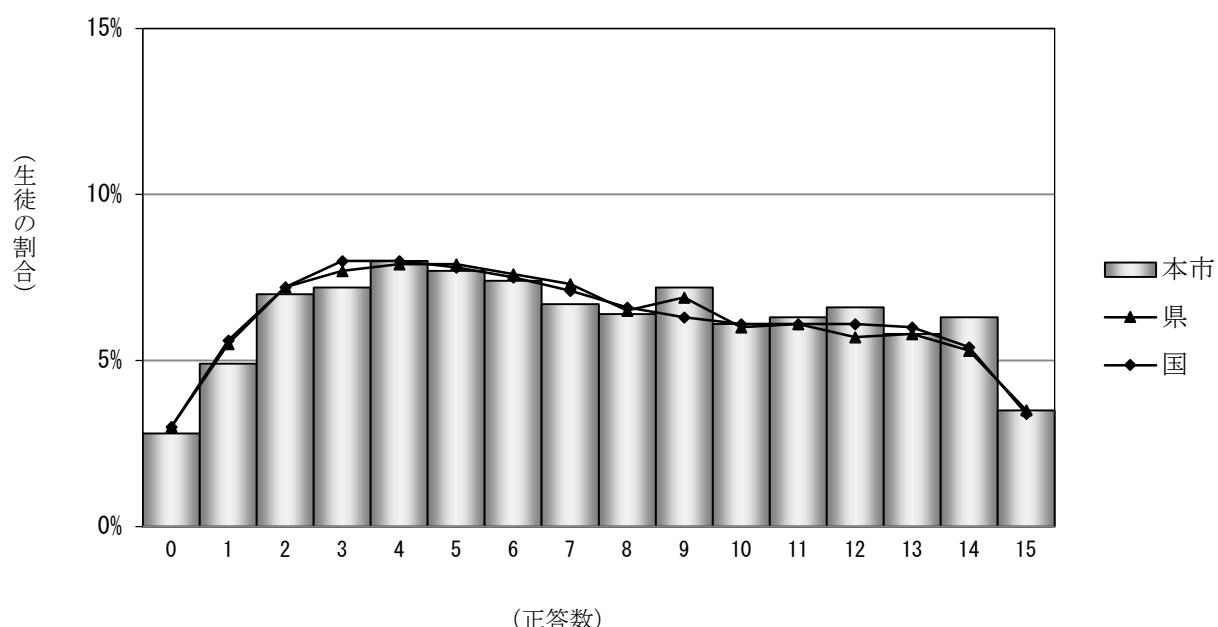
平均正答率

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立）	全国（公立） b	差 a-b
数学	49.6	48	48.3	1.3

分類・区分別平均正答率

分類	区分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導 要領の 領域	A 数と式	45.0	43.2	43.5	1.5
	B 図形	47.2	45.3	46.5	0.7
	C 関数	48.5	47.5	48.2	0.3
	D データの活用	61.6	60.8	58.6	3.0
評価の 観点	知識・技能	55.6	54.3	54.4	1.2
	思考・判断・表現	40.7	39.0	39.1	1.6
	主体的に学習に取り組む態度				

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と式 (全国平均との差 1.5 ポイント)

- 連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する設問の平均正答率は48.3%であり、全国平均を3.1ポイント上回る。目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することについて良好な状況が見られる。
- $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する設問の平均正答率は27.6%であり、全国平均を1.9ポイント上回るが、教科全体の中で最も低い。式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明することについて課題が見られる。

図形 (全国平均との差 0.7 ポイント)

- 平行四辺形の一組の対辺を同じ長さだけ延長したときにできる四角形が平行四辺形になることの証明を完成する設問の平均正答率は39.3%であり、全国平均を3.0ポイント上回る。統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することについて良好な状況が見られる。

関数 (全国平均との差 0.3 ポイント)

- A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離がわかるかを選ぶ設問の平均正答率は73.1%であり、全国平均を1.2ポイント上回る。事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることに良好な状況が見られる。
- A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する設問の平均正答率は37.7%であり、全国平均を0.3ポイント下回る。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。

データの活用 (全国平均との差 3.0 ポイント)

- ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める設問の平均正答率は51.2%であり、全国平均を8.7ポイント上回る。相対度数の意味を理解すること良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

数と式

文字を用いた式で数量の関係を捉え説明するためには、文字を用いた式を使って、ある事柄が成り立つことを説明する場面で、文字を用いて表現したり、式の意味を読み取ったり、計算したりする学習に総合的に取り組むことが重要である。そのために、偶数や奇数、ある数の倍数などの文字を用いた式での表し方などの知識・技能を定着させ、式の形によって表す意味が変わることについて指導することで、説明したい事柄に即して式を変形させることの必要性を感じさせることが大切である。

関数

関数の学習においては、表・式・グラフを用いて表すことのよさを実感し、相互に関連付けて理解できるようにすることが重要である。日常の事象の中には、問題を解決するために比例や反比例とみなして結論を得ることがあり、二つの数量の関係を表やグラフで表し、その関係を理想化、単純化することで未知の状況を予測できるようになることを理解させることが大切である。

3 中学校第3学年 理科

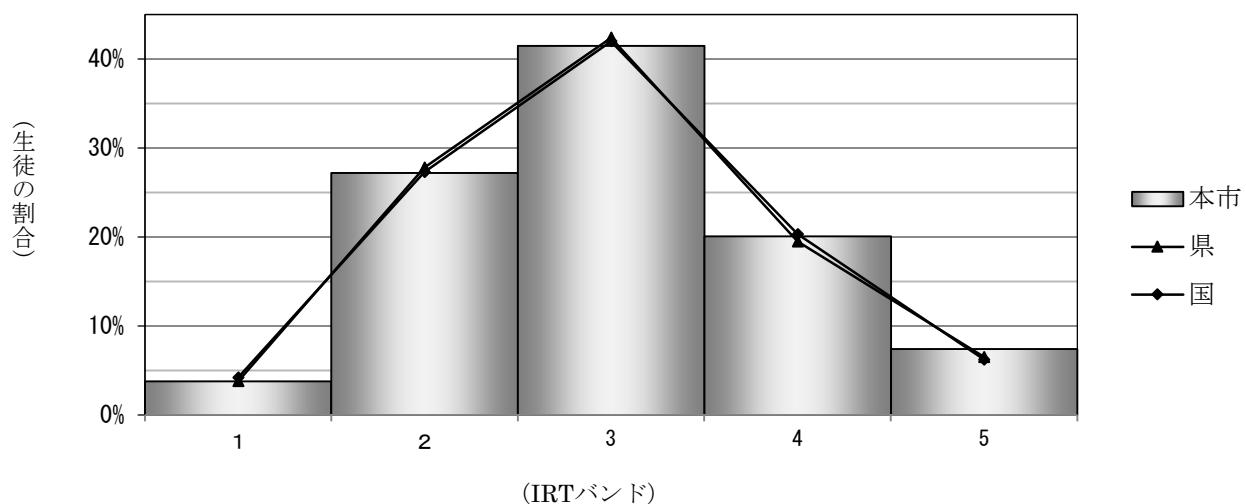
※ 中学理科はC B T (コンピュータを用いたテスト)で実施され、IRT (項目反応理論)に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

※ 公開問題22問 (共通問題6問と実施日によって異なる問題16問)と非公開問題16問 (生徒ごとに異なる問題)が出題されており、生徒一人が取り組んだ問題は、26問である。

平均IRTスコア (スコア)

	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立)	全国 (公立) b	差 a - b
理 科	507	504	503	4

IRTバンド分布



※ IRTバンドは、1～5の5段階で5が最も高い。

公開問題の平均正答率 (%)

分類		区分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)	
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	54.5	54.8	56.1	△1.6	
		「粒子」を柱とする領域	62.2	61.4	61.7	0.5	
	B区分	「生命」を柱とする領域	46.5	45.0	44.8	1.7	
		「地球」を柱とする領域	36.7	36.4	37.3	△0.6	
評価の観点		知識・技能	67.0	65.7	66.8	0.2	
		思考・判断・表現	38.3	38.5	38.8	△0.5	
		主体的に学習に取り組む態度					

※ 公開問題22問の調査結果を集計した値である。

傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

「エネルギー」を柱とする領域 (全国平均との差 △1.6 ポイント)

- 考察をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する設問の正答率は11.1%で、教科全体の中で最も低い。音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題が見られる。

「粒子」を柱とする領域 (全国平均との差 0.5 ポイント)

- 水道水と精製水に関する探究の過程における振り返りを記述する設問の正答率は80.7%で、全国平均を1.3 ポイント上回る。科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することに良好な状況が見られる。
- プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断する設問の正答率は57.2%で、全国平均を6.8 ポイント上回る。ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈することに良好な状況が見られる。

「生命」を柱とする領域 (全国平均との差 1.7 ポイント)

- 消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する設問の正答率は57.4%で、全国平均を5.8 ポイント上回る。これまで学習した理科の知識及び技能を基に、分解の概念の理解に良好な状況が見られる。

「地球」を柱とする領域 (全国平均との差 △0.6 ポイント)

- クリーンルームの他に気圧を利用している身近な事象を選択する設問の正答率は54.4%で、全国平均を3.7 ポイント下回る。気圧の概念の理解に課題が見られる。

指導の工夫・改善

「エネルギー」を柱とする領域

考察をより確かなものにするために、適切な実験の設定とその結果の予測ができるようになるには、何を明らかにしたいのか、仮説はどうなっているのかをはっきりさせることで、必要なデータや検証すべきポイントを明確にすることが必要である。また、音の性質においては、音の高さや大きさと発音体の振動の仕方を分析・解釈して、規則性を見いだす活動の充実を図るようにすることが大切である。

「地球」を柱とする領域

大気圧については、観察、実験を通してその結果を空気の重さと関連付けて理解させることが大切である。その際、空気中にある物体にはあらゆる向きから圧力が働くことにも触れる。例えば、空き缶を大気圧による力でへこませる実験などを行い、空気の圧力の存在を理解させる。また、圧力容器などに詰まった空気を大気中に放出して、その前後の質量を測定し、空気には重さがあることを見いださせ、空気の重さと大気圧を関連付けて捉えさせていくことが大切である。

4 中学校質問調査

【生徒質問調査の状況】調査結果（全72問から抜粋）

- 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と5ポイント以上差があり本市生徒の特徴を表すものを取り上げた。
- ランダム方式で実施された項目は集計から除外されている。
- 肯定的な回答の割合は「当てはまる（している）」、「どちらかといえば当てはまる（している）」等と回答した割合の合計である。（*それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	81.7%	4.0
2	1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	75.8%	5.2
3	1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	70.4%	7.4
4	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	87.4%	7.9
5	学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	82.9%	5.6
6	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） * 1時間以上	68.6%	7.0
7	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	74.7%	11.4
8	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか	89.7%	6.1
9	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	85.9%	9.3
10	自分には、よいところがあると思いますか	88.2%	2.0
11	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	92.6%	1.0
12	将来の夢や目標を持っていますか	70.9%	3.4
13	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	94.9%	2.7
14	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	78.2%	5.0
15	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	81.2%	2.0
16	地域や社会をよくするために何かしたいと思いますか	79.3%	4.0

授業や学習について (No. 1 ~ 6)

- No. 1, 2, 4 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より 4.0 ポイント、5.2 ポイント、7.9 ポイント上回っている。各学校においては、生徒が課題を見出し、見通しをもって学習活動に取り組めるよう工夫したり、振り返りにおいて学びを次に生かしたりすることができるよう、主体的な学びの視点からの授業改善が進められているものと考えられる。
- No. 3, 5 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より 7.4 ポイント、5.6 ポイント上回っている。各学校においては、自分の考えを資料や文章にまとめて工夫して発表する学習を推進するとともに、学級活動での話し合いを通して、意思決定をする活動を充実させるなど、対話的な学びの視点からの授業改善が進められているものと考えられる。
- No. 6 の肯定的回答の割合は、全国平均より 7 ポイント高いが、7 割以下である。家庭学習を充実させるために、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて取り組むことができるよう具体例を示すなどの手立てが必要である。

ICT 機器を活用した学習状況について (No. 7 ~ 9)

- No. 7 ~ 9 の肯定的回答の割合は、それぞれ、全国平均より 11.4 ポイント、6.1 ポイント、9.3 ポイント上回っている。1 人 1 台端末の活用を踏まえた授業の工夫により、生徒が情報を整理することや文章を作成して自分の考えを発表することなどに有効に活用できることを実感しながら学習活動に取り組んでいると考えられる。各学校においては、1 人 1 台端末の活用の推進を継続していく必要がある。

自分自身のことについて (No. 10~12)

- No. 10~12 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均を 2.0 ポイント、3.4 ポイント上回っている。No. 11 の肯定的回答は、9 割を超えている。各学校においては、各学校においては、特色ある教育活動や授業の工夫改善が進められている中で、様々な活動や経験を通して、自己肯定感や自己有用感が育成されており、将来の夢や目標をもつて前向きに生活しているものと考えられる。

周囲とのかかわりについて (No. 13~16)

- No. 13, 14 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均を 2.7 ポイント、5.0 ポイント上回っている。各学校においては、生徒のよさをみとめるとともに、安心感をもって学校生活が送れるよう、教職員が日常的に生徒とかかわりながら生徒理解を深め、信頼関係を構築することで、効果的に教育活動が進められているものと考えられる。
- No. 16 の肯定的回答の割合は、全国平均を 4.0 ポイント上回っている。各学校においては、地域未来会議の活動などを通して、地域の方々と話し合いなどから、自分たちができる活動により参画しようとする意識が高まっているものと考えられる。

【学校質問調査の状況】

調査結果（全84問から抜粋）

- 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と5ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。
- 肯定的な回答の割合は「行った」、「どちらかといえば行った」等と回答した割合の合計である。（*それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	100%	5.6
2	調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	96.0%	13.2
3	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	100%	9.2
4	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	100%	5.0
5	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	100%	8.5
6	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	92.0%	4.5
7	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	100%	4.7
8	令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するため活用しましたか	100%	6.0
9	令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	100%	16.6
10	前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	100%	28.3
11	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか *5日以上	100%	92.0
12	地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか	100%	20.5
13	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか *週3回以上	100%	5.5
14	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	100%	12.8
15	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか *週3回以上	92.0%	13.7

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業中の指導や生徒の学習状況について (No. 1 ~ 5)

- No. 1 の肯定的回答の割合は 100% であり、全国平均より 5.6 ポイント上回っている。各学校においては、教育目標の実現に向けた取組が行われる中で、生徒に必要な資質・能力を育成するための指導が、計画的・組織的に推進されているものと考えられる。
- No. 3, 4 の肯定的な回答の割合は、それぞれ全国平均より 9.2 ポイント、5 ポイント上回っている。各学校においては、互いの考えを伝えたり、異なる視点から考えたりするなど、協働的に学ぶことができるよう対話的な視点から学習課題を工夫するなど指導改善を図っているものと考えられる。
- No. 2, 5 の肯定的な回答の割合は、それぞれ全国平均より 13.2 ポイント、8.5 ポイント上回っている。各学校においては、探究的な学習の中で、生徒が自ら進んで学習に取り組みながら、知識や技能を身に付けるとともに、課題設定能力や情報収集能力などを高めることができるよう、学習課題や学習活動を工夫するなど、主体的な学びの視点から、学習指導の充実が図られているものと考えられる。

研修など教職員の資質向上に関する状況について (No. 6, 7)

- No. 7 の肯定的回答の割合は、全国平均より 4.7 ポイント上回る。各学校において、授業力や学級経営力等の資質・能力の向上を目指した取組が推進されているものと考えられる。

学力・学習状況調査結果の活用について (No. 8, 9)

- No. 8, 9 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より 6.0 ポイント、16.6 ポイント上回っている。自校の調査結果について分析を進め、学校全体で成果や課題を共有するとともに、保護者等への公表にも取り組むなど、教育活動のさらなる充実のために活用する取組が推進されているものと考えられる。

本市の推進する取組等について (No. 10~15)

- No. 10 の肯定的回答の割合は、全国平均より 28.3 ポイント高く、上回り方が大きい。小・中学校が連携を図り、義務教育 9 年間を見通した系統的な指導による確かな学力を育む教育が推進されているものと考えられる。
- No. 11 の肯定的回答の割合は、全国平均より 92 ポイント高く、5 日間連続した職場体験を通してキャリア教育を推進している成果が表れている。
- No. 12 の肯定的回答の割合は、全国平均より 20.5 ポイント上回っている。各学校においては、魅力ある学校づくり地域協議会との連携強化を図るなど、保護者や地域の方々と連携・協働した学校づくりが推進されているものと考えられる。
- No. 13~15 の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より 5.5 ポイント、12.8 ポイント、13.7 ポイント上回っている。各学校においては、1 人 1 台端末を効果的に活用することができるよう、学習活動の充実に向けた指導が推進するとともに、家庭と連携しながら I C T を活用していると考えられる。

【生徒質問調査と教科の正答率のクロス集計の状況】

- 学力層を上位から順に25%ずつ、4層（A-D層）に分け、各層の肯定的な回答の割合を基に意識と平均正答率との相関を分析している。
- A-D層間の開きの大きい質問は、正答率の高い生徒ほど、肯定的に回答している傾向が見られる質問であり、平均正答率との関係があるものと考えられる。

〈A-D層の差が10ポイント以上のものから抜粋〉

No.	質問の内容	宇都宮市	
		A-D層の差	肯定的な回答割合
1	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※2時間以上	27.7	41.6%
2	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか	26.7	75.2%
3	数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	24.8	63.4%
4	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	23.9	81.7%
5	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	22.8	70.3%
6	1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	20.9	75.7%
7	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	19.4	80.1%
8	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思っていますか	19.1	86.0%
9	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思っていますか	18.1	74.6%
10	国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか	17.6	77.0%
11	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	17.2	87.5%
12	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方には付いたりすることができますか	14.6	86.4%
13	理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか	14.4	72.8%
14	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか	12.6	78.2%

傾向と考察及び指導の留意点

- 正答率・スコアが高い生徒の方が、以下の点について肯定的に回答している傾向が見られる。
- 指導の留意点等は、「→」以下に示した。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について

- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
- ・各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめている。

→ 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える生徒ほど、正答率・スコアが高い。課題の解決に向けて、知識・技能を生かし、自分の考えをまとめ、効果的に伝えるなど思考・判断・表現の過程を重視し、生徒の資質・能力を育成することが大切である。

主体的な学習の調整について

- ・学習内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。
- ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしている。
- ・分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。

→ 生徒が見通しをもって学習に取り組み、学習を振り返って次につなげ、主体的に学習に取り組んでいる生徒の方が、正答率が高い。単元を通して、既習事項やこれまでの学び方を用いて課題解決の見通しをもたせる場面や、学んだことを実感し、次の学習や実生活に生かせるように振り返る場面を計画的に実施することが必要である。

ICTの活用について

- ・ICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成している。
- ・ICT機器を使って情報を整理（図、表、グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる）している。
- ・自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている。
- ・話し合う活動を通じて、考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりしている。

→ ICT機器を活用することができると考えている生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い。また、1人1台端末を有効に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現のために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推進していく。

各教科の見方・考え方を働かせることについて

- ・国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えている。
- ・数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。
- ・理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っています

→ 教科等の物事を捉える視点や考え方、思考の仕方を意識させながら、資質・能力を身に付けさせることができるよう、教材や課題設定、発問等により意図的に働きかけをするなど、各教科等の特質を踏まえた上での指導を重ねることが重要である。

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果について【小学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るために、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考え方から、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本市立小学校児童の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「とちぎっ子学習状況調査」について

1 目的

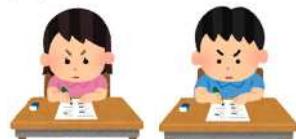
本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善（学力向上P D C A）サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日・調査対象 令和7年4月17日（木） 第4学年、第5学年

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ① 調査教科 国語・算数・理科
- ② 出題範囲 調査する学年の前学年までの学習内容
- ③ 出題内容 学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関わる内容



(2) 質問調査

※ I C T端末を用いたオンライン方式にて実施

- ① 児童質問調査 学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等に関すること
- ② 学校質問調査 指導に関する取組や学習環境等に関すること 等

4 本市の参加状況

(1) 学校数 宇都宮市立小学校 69校（69校中）

(2) 児童数 第4学年 国語 4,031人 算数 4,035人 理科 4,044人

第5学年 国語 4,177人 算数 4,176人 理科 4,181人

5 留意事項

(1) 調査結果について

本調査は、対象となる学年や実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2) 教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を示すために、教科全体及びカテゴリー別の平均正答率、正答率度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、領域等ごとに良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
 - ※「良好な状況が見られるもの」と「課題が見られるもの」は、正答率が県平均より高い（低い）設問などを基に考察した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを中心に記載した。

(3) 質問調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び県との比較において本市の特徴が見られる質問を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、指導の工夫・改善のポイントを記載した。

1 小学校第4学年 国語

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立）a	栃木県（公立）b	差 a-b
教科全体	68.3	68.3	0.0

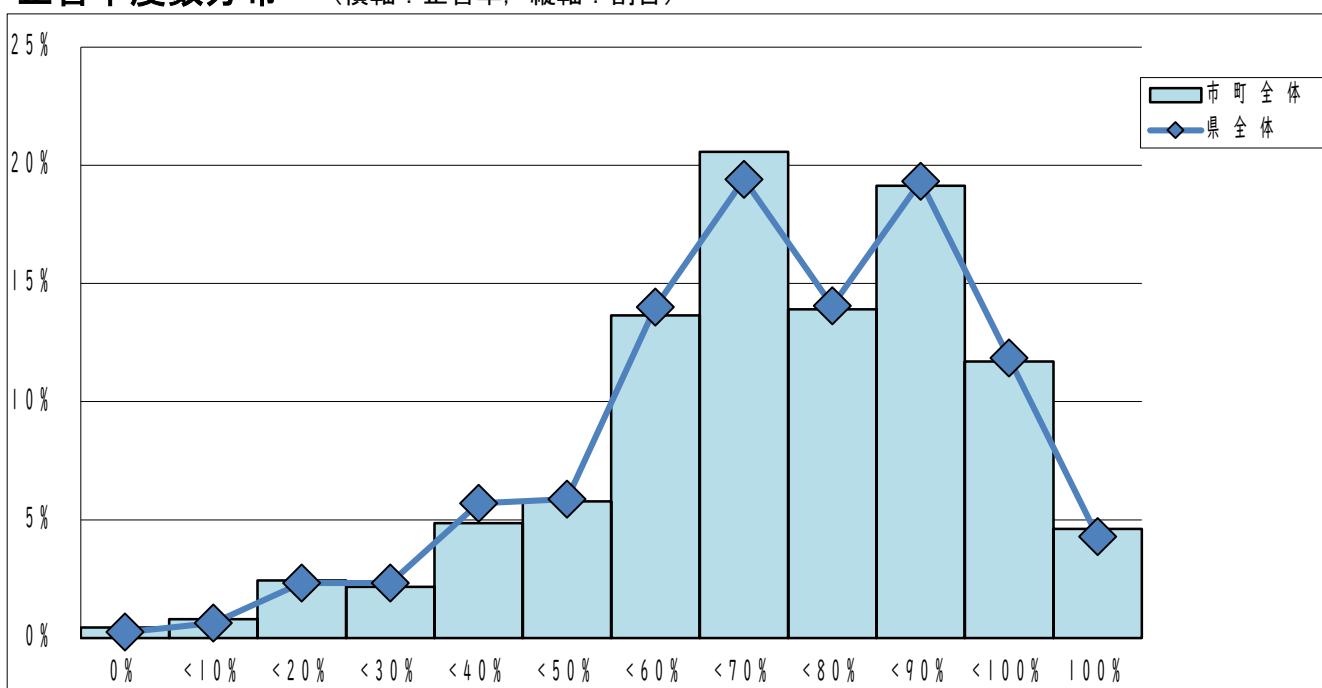
カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.6	76.9	1.7
	情報の扱い方に関する事項	72.2	73.1	△0.9
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	81.0	81.1	△0.1
	書くこと	47.2	52.8	△5.6
	読むこと	60.5	59.3	1.2
観点別	知識・技能	78.0	76.5	1.5
	思考・判断・表現	62.3	63.1	△0.8

正答率度数分布

(横軸: 正答率, 縦軸: 割合)



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 1.7 ポイント)

○ 漢字の読み書きに関する設問の正答率は 79.5%で、県平均を 3.1 ポイント上回る。漢字を正しく読んだり、書いたりすることに良好な状況が見られる。

情報の扱い方に関する事項 (県平均との差 △0.9 ポイント)

● 国語辞典に掲載されている順番として正しいものを選ぶ設問の正答率は 72.2%で、県平均を 0.9 ポイント下回る。国語辞典の使い方の理解に課題が見られる。

話すこと・聞くこと (県平均との差 △0.1 ポイント)

○ 司会者の発言として適切なものを選ぶ設問の正答率は 70.9%で、県平均を 1.6 ポイント上回る。話合いの内容を基に考えをまとめることに良好な状況が見られる。

● 自分の考えとその理由を書く設問の正答率は 80.8%で、県平均を 1.2 ポイント下回る。理由を挙げながら話すことに課題が見られる。

書くこと (県平均との差 △5.6 ポイント)

● 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くことの正答率は 43.8%で、県平均を 5.8 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。

● 自分の考えとそれを支える理由を書くことの正答率は 50.3%で、県平均を 5.4 ポイント下回る。理由を明確にして文章を書くことに課題が見られる。

読むこと (県平均との差 1.2 ポイント)

○ 物語を読んで人物の行動の理由や気持ちを捉える設問の正答率は 78.6%で、県平均を 1.6 ポイント上回る。叙述を基に、人物や場面の様子を適切に捉えることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

情報の扱い方に関する事項

文章を正確に理解するために、国語辞典を引くことは重要である。そのため、国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解させるとともに、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような環境をつくっておくことが必要である。その上で、国語辞典に示される意味について吟味、検討し、文章中の意味として適切なものを捉えられるように指導することが大切である。

書くこと

文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で自分の立場を明確にすること、二段落目にその考えを支える理由を書くことが求められた。学習指導要領の、第3学年及び第4学年の「書くこと」の指導事項には、内容のまとまりで段落をつくることや、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことが示されている。調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を通して、段落の役割や段落相互の関係に注意して構成を考える学習や、理由や事例を記述する際の表現（「なぜなら～」「例えれば～」等）を用いて書く学習が必要である。

2 小学校第4学年 算数

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立）a	栃木県（公立）b	差 a - b
教科全体	55.9	55.4	0.5

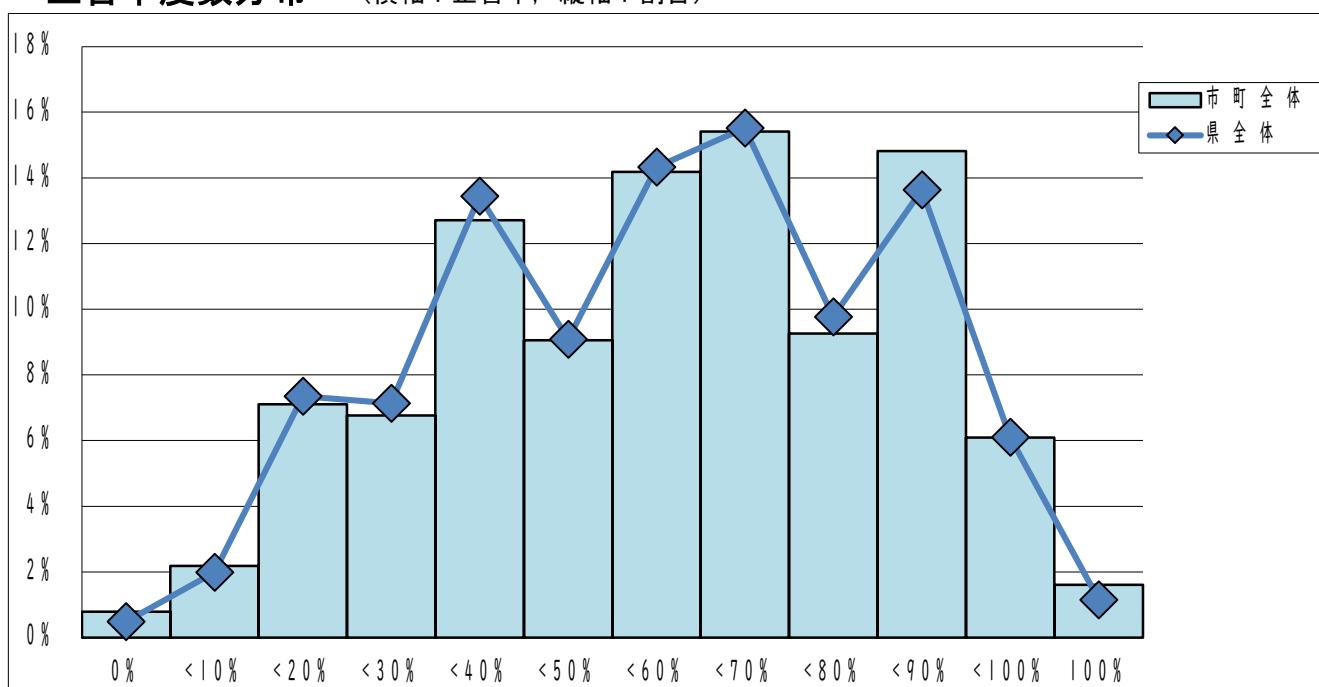
カテゴリー別平均正答率

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	数と計算	57.4	56.9	0.5
	図形	58.7	60.1	△1.4
	測定	48.1	45.7	2.4
	データの活用	54.9	54.3	0.6
観点別	知識・技能	56.6	56.2	0.4
	思考・判断・表現	54.5	53.8	0.7

正答率度数分布

(横軸：正答率、縦軸：割合)



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と計算 (県平均との差 0.5 ポイント)

- 数量の関係について□を使って表された正しい図を選択する設問の正答率は 81.0% であり、県平均を 0.7 ポイント上回る。問題場面から数量関係を捉え、分からぬ数を □ として図に表すことに良好な状況が見られる。
- 余りの考えをもとに計算の間違いを説明する設問の正答率は 25.0% であり、県平均を 0.8 ポイント下回る。また、無解答率が 34.4% であり、県平均を 2.8 ポイント上回る。あまりの意味を理解し、わる数とあまりの関係を読み取り、判断の根拠となることを説明することに課題が見られる。

図形 (県平均との差 △1.4 ポイント)

- 球を平面で切ったときの切り口の形を選ぶ設問の正答率は 69.7% であり、県平均を 4.3 ポイント下回る。球の切断面についての理解に課題が見られる。

測定 (県平均との差 2.4 ポイント)

- 単位をそろえて 2 つの道のりを比較する設問の正答率は、53.3% であり県平均を 1.6 ポイント上回る。長さの単位について理解し、2 つの道のりを比べ説明することに良好な状況が見られる。

データの活用 (県平均との差 0.6 ポイント)

- 二次元の表の合計欄に当てはまる数を答える設問の正答率は 61.0% であり、県平均を 1.3 ポイント上回る。二つの観点からデータを分類整理し、二次元表の読み方や表し方を理解することに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

数と計算

計算の指導においては、筆算での計算の仕方を形式的に教えるのではなく、数の仕組みや計算の意味に基づいて考えさせることが大切である。その際に、計算の仕方を主体的に考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだし、その性質を計算の工夫や確かめに活用したりするとともに、日常場面に即してより適切な答えを考えるなど日常生活に生かすことが重要である。

図形

円と球の学習では、具体物の観察、作図などの活動を通して、概念や性質を理解することが必要である。球については平面で切ると切り口は全て円になる、二等分した切り口が最大で、その半径と直径が球の半径と直径になる等の特徴について、模型の操作や観察など実感を伴う活動を取り入れ、円の学習と結び付けながら球の性質を捉えすることが有効である。

3 小学校第4学年 理科

平均正答率

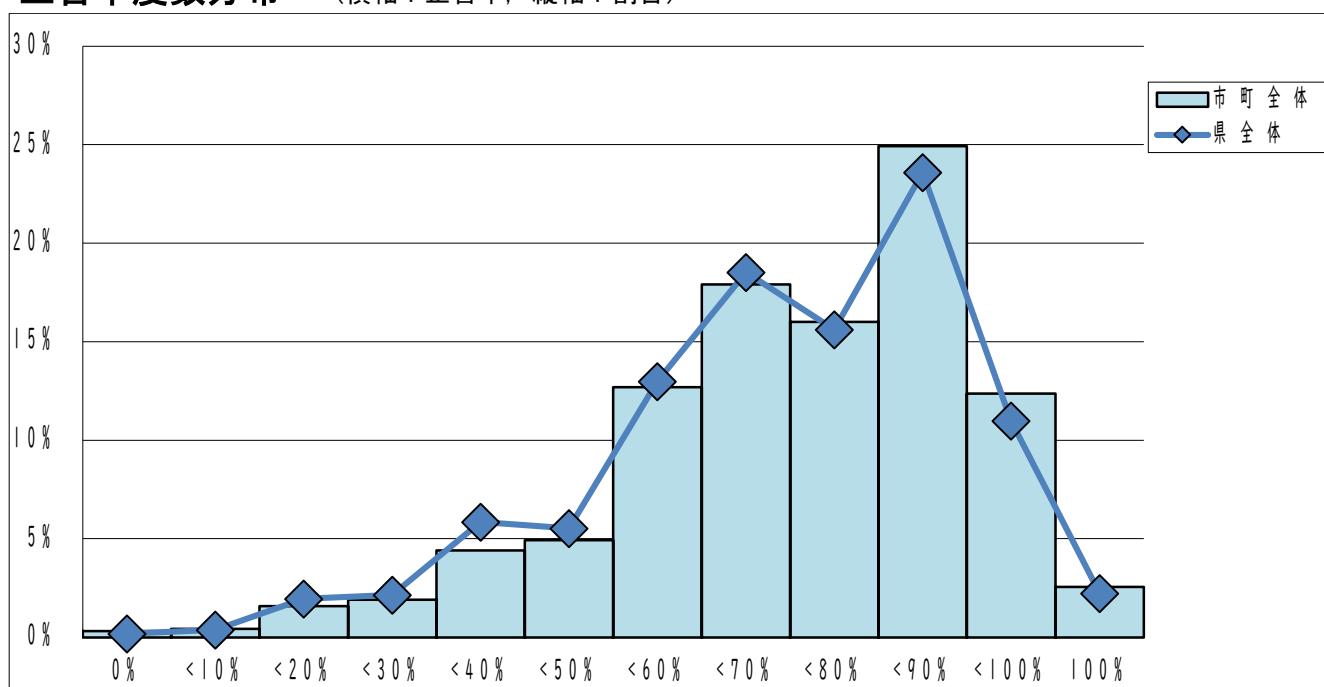
	宇都宮市（市立）a	栃木県（公立）b	差 a-b	(%)
教科全体	70.5	68.9	1.6	

カテゴリー別集計結果

		宇都宮市 a	栃木県 b	a-b	(%)
領域等別	「エネルギー」を柱とする領域	71.4	69.1	2.3	
	「粒子」を柱とする領域	59.3	58.3	1.0	
	「生命」を柱とする領域	74.5	73.8	0.7	
	「地球」を柱とする領域	72.0	70.1	1.9	
観点別	知識・技能	72.5	70.9	1.6	
	思考・判断・表現	68.8	67.1	1.7	

正答率度数分布

(横軸：正答率、縦軸：割合)



「エネルギー」を柱とする領域 (県平均との差 2.3 ポイント)

- 風が強くなるとともに動かすはたらきが大きくなることについての設問の正答率は 74.4%で、県平均を 5.0 ポイント上回る。実験結果から、風の強さと物を動かすはたらきの関係について解釈し、表現することに良好な状況が見られる。

「粒子」を柱とする領域 (県平均との差 1.0 ポイント)

- 粘土の重さを測る実験の様子を示した図を基に、実験結果が異なった理由を答える設問の正答率は 85.0%で、県平均を 1.6 ポイント上回る。重さを比較しながら調べる際に、秤を用いて正しく調べる技能に良好な状況が見られる。
- 粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶ設問の正答率は 27.0%で、教科全体の中で最も低い。物の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を思考・判断することに課題が見られる。

「生命」を柱とする領域 (県平均との差 0.7 ポイント)

- モンシロチョウの卵と幼虫について適切に説明した文章を選ぶ設問の正答率は 91.2%で、県平均を 1.9 ポイント上回る。昆虫の育ち方の理解について良好な状況が見られる。
- ホウセンカが育つ順番に並び替える設問の正答率は 61.7%で県平均を 1.4 ポイント下回る。植物の成長の過程の理解について課題が見られる。

「地球」を柱とする領域 (県平均との差 1.9 ポイント)

- 太陽と日陰の位置関係と、日影ができる方角を選ぶ設問の正答率は 79.3%で、県平均を 1.5 ポイント上回る。太陽と日陰の位置関係と、建物によって日光が遮られてできた影の位置を関連付けて思考・判断することに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

「粒子」を柱とする領域

物の形の違いによる重さの変化については、身の回りにある形を広げたりいくつかに分けて丸めたりするなどして形を変え、手ごたえなどの体感を基に、電子天秤を用いて重さを数値化して、重さを比較しながら調べることが大切である。問題解決の活動の中で、互いの考えを尊重しながら話し合い、既にもっている自然の事物・現象についての考えを柔軟に変容させていくことも必要である。提示された予想を正確に把握するために、イメージ図等を用いて予想内容を視覚化する等、予想が正しい場合の結果を考え、説明できるよう指導していくことが望まれる。

「生命」を柱とする領域

植物の成長の過程については、複数の種類の植物の成長の過程を比較しながら、成長による体の変化を調べることが大切である。これらの活動を通して、差異点や共通点を基に、植物の育ち方についての問題を見いだし、表現するとともに、植物の育ち方には、種子から発芽し子葉が出て、葉がしげり、花が咲き、果実がなって種子ができた後に個体は枯死するという、一定の順序があることを捉えられるよう指導していくことが望まれる。

4 小学校第5学年 国語

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立）a	栃木県（公立）b	差 a-b
教科全体	65.3	65.6	△0.3

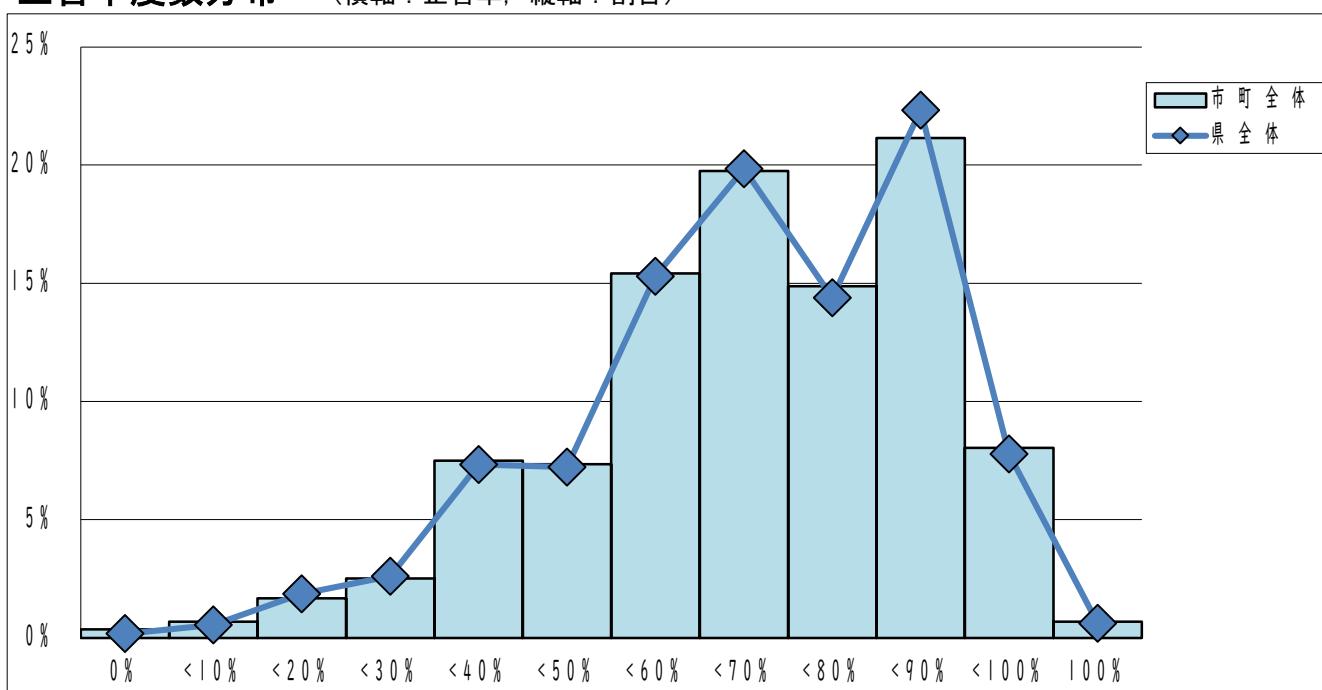
カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.7	64.1	0.6
	情報の扱い方に関する事項			
	我が国の言語文化に関する事項	83.1	81.9	1.2
	話すこと・聞くこと	83.3	83.4	△0.1
	書くこと	42.8	48.2	△5.4
	読むこと	66.1	65.1	1.0
観点別	知識・技能	66.5	65.9	0.6
	思考・判断・表現	64.6	65.5	△0.9

正答率度数分布

(横軸：正答率、縦軸：割合)



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 0.6 ポイント)

- 文を読み、気持ちを表す語として適切な語を選ぶ設問の正答率は 93.0%で、県平均を 1.8 ポイント上回る。気持ちを表す語を文章の中で使うことに良好な状況が見られる。
- 被修飾語を選ぶ設問の正答率は 12.4%で、県平均を 2.3 ポイント下回る。文の中における連用修飾の関係や被修飾語を捉えることに課題が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 1.2 ポイント)

- 正しいことわざの使い方を選ぶ設問の正答率は 83.1%で、県平均を 1.2 ポイント上回る。慣用句の意味を理解し、使うことに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (県平均との差 △0.1 ポイント)

- 理由を挙げながら自分の考えをまとめる設問の正答率は 85.8%で、県平均を 0.9 ポイント上回る。話合いの目的に合わせて考えをまとめることに良好な状況が見られる。
- 参加者の発言を踏まえて司会者が発言すべき内容を書く設問の正答率は 77.1%で、県平均と同等であるが、「話すこと・聞くこと」の領域の中では最も正答率が低い。話合いの内容から考えをまとめることに課題が見られる。

書くこと (県平均との差 △5.4 ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くことの正答率は 44.4%で、県平均を 6.7 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。
- 自分の考えを書くことの正答率は 46.0%で、県平均を 6.3 ポイント下回る。資料から読み取ったことを基に、自分の考えを明確にして文章を書くことに課題が見られる。

読むこと (県平均との差 1.0 ポイント)

- 登場人物の心情の変化として適切なものを選ぶ設問の正答率は 83.5%で、県平均を 1.9 ポイント上回る。人物の心情の変化を具体的に想像することに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

言葉の特徴や使い方に関する事項

修飾と被修飾との関係を理解する学習では、主語と述語が照応することを想起させ、修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾との関係に気を付けて、文の構成を理解する必要がある。そのために、「詳しく説明している言葉（修飾語）はどれか」、「どの言葉を詳しく説明（修飾）しているか」などと、修飾と被修飾の両面から発問するとともに、修飾語と被修飾語の位置関係が近い文と遠い文を例示するなど、多様な例文により意図的に発問することが有効である。また、児童が作文を書く場面においても、文や文章の内容の理解だけでなく、語句相互の関係に気を付けて文を組み立てることを意識することができるよう指導することが大切である。

書くこと

文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で資料から読み取ったことを書くこと、二段落目に資料から読み取ったことを基に自分の考えを書くことが求められた。学習指導要領の、第3学年及び第4学年の「書くこと」の指導事項には、内容のまとまりで段落をつくることや、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことが示されている。調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を通して、段落の役割や段落相互の関係に注意して構成を考える学習や、理由や事例を踏まえて自分の考えを書く学習が必要である。

5 小学校第5学年 算数

平均正答率

(%)

	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立) b	差 a - b
教科全体	64.7	64.6	0.1

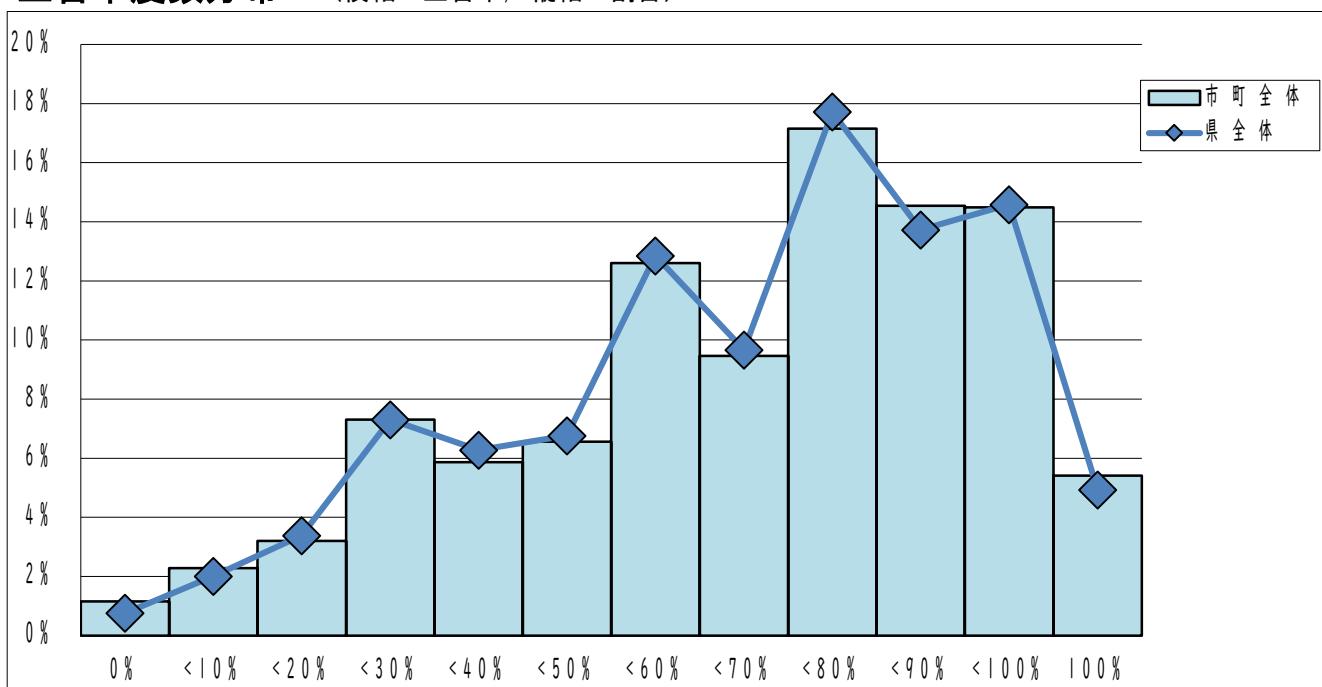
カテゴリー別平均正答率

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	数と計算	63.0	63.3	△0.3
	図形	69.2	68.3	0.9
	変化と関係	54.8	55.0	△0.2
	データの活用	73.1	72.3	0.8
観点別	知識・技能	62.3	62.1	0.2
	思考・判断・表現	68.7	68.7	0.0

正答率度数分布

(横軸: 正答率, 縦軸: 割合)



数と計算 (県平均との差 △0.3 ポイント)

- 式の意味を表したものとして、正しい文章を選ぶ設問の正答率は 74.7% であり、県平均と同等である。式の意味を捉えることに良好な状況が見られる。
- 2つの小数について、もとにする小数のいくつ分かで大きさを比べる設問の正答率は 50.3% であり、県平均を 4.3 ポイント下回る。小数の仕組みを理解し、もとにする数を変えて相対的な大きさで捉え、大小関係を比較することに課題が見られる。また、整数と小数の減法・乗法の計算をする設問の正答率は、県平均を 0.3~1.4 ポイント下回り、小数を用いた筆算などの技能の確実な定着に課題が見られる。

図形 (県平均との差 0.9 ポイント)

- 平面上にある点の位置の表し方から、もとにする位置を選ぶ設問の正答率は 65.4% であり、県平均を 2.8 ポイント上回る。ものの位置の表し方を理解し、基準となる位置を考えることに良好な状況が見られる。

変化と関係 (県平均との差 △0.2 ポイント)

- 二人の年齢差の関係を式に表す設問の正答率は 49.0% であり、県平均より 1.8 ポイント下回る。伴って変わる 2 つの数量の関係を読み取り、式に表すことに課題が見られる。

データの活用 (県平均との差 0.8 ポイント)

- 飼っているペットについて調べた結果を二次元表に表す設問の正答率は 74.3% であり、県平均を 2.0 ポイント上回る。二次元表の意味を理解し、必要な情報を読み取ることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

数と計算

小数の仕組みとその計算の学習においては、小数が整数と同じ仕組みで表されていることの理解を深めるとともに、ある位の単位に着目してそのいくつ分と見る相対的な大きさについて考察することが必要である。計算の仕方を考える際に、乗法における積の小数点の位置や除法における商の小数点の位置などについて、整数の場合と比べながら考えられるよう、数を構成する単位に着目させ、指導することが大切である。

変化と関係

変化と関係の学習では、日常生活の具体的な場面において、表や式、グラフを用いて変化の様子を表したり、変化の特徴を読み取ったりすることができるようになるとともに、伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する活動を充実させることが重要である。

6 小学校第5学年 理科

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立）a	栃木県（公立）b	差 a-b
教科全体	62.2	61.6	0.6

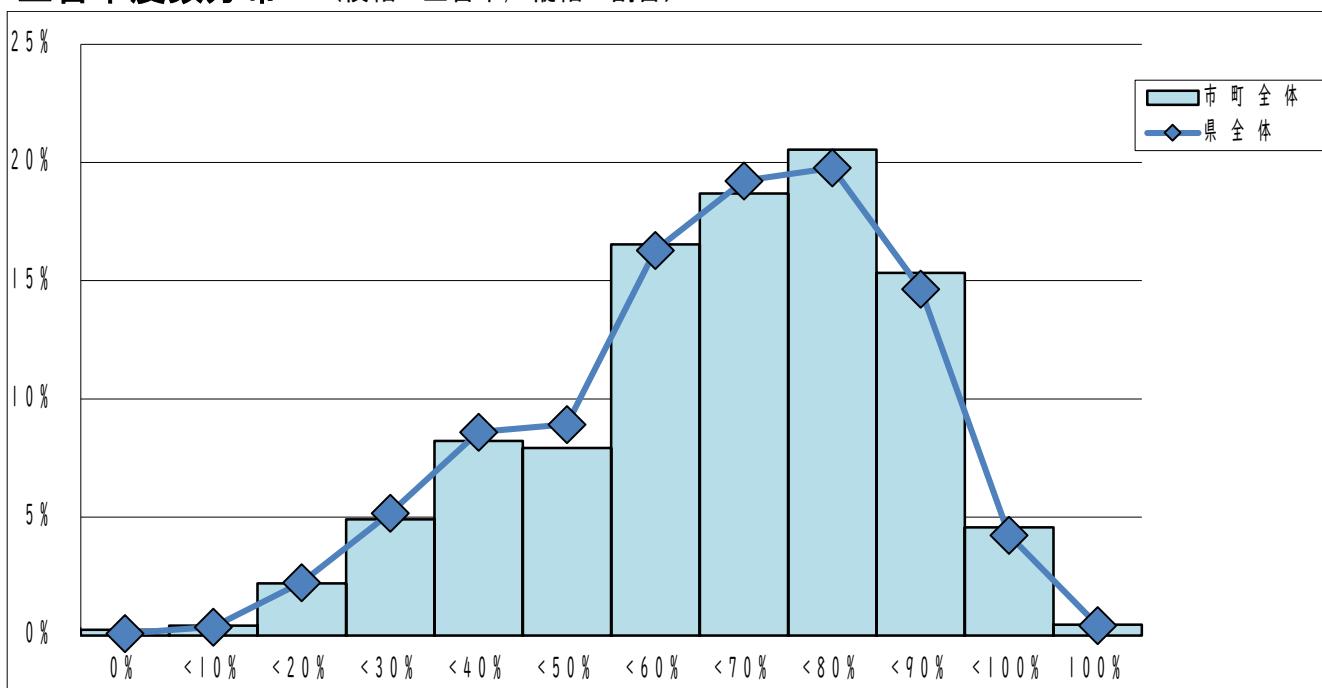
カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	a-b
領域等別	「エネルギー」を柱とする領域	64.3	63.2	1.1
	「粒子」を柱とする領域	55.4	55.1	0.3
	「生命」を柱とする領域	80.1	79.3	0.8
	「地球」を柱とする領域	56.4	55.8	0.6
観点別	知識・技能	66.0	65.3	0.7
	思考・判断・表現	57.9	57.4	0.5

正答率度数分布

(横軸：正答率、縦軸：割合)



「エネルギー」を柱とする領域 (県平均との差 1.1 ポイント)

- 回路の乾電池の向きを入れ替えた際の、簡易検流計の針のふれ方を示した図を選ぶ設問の正答率は 65.5%で、県平均を 2.4 ポイント上回る。検流計の仕組みや、乾電池のつなぎ方を変えた時の電流の向きや大きさについての理解に良好な状況が見られる。

「粒子」を柱とする領域 (県平均との差 0.3 ポイント)

- ピストンを使って閉じ込めた空気を圧した場合の手応えの変化を答えることについての設問の正答率は 91.4%で、県平均を 0.9 ポイント上回る。閉じ込めた空気を圧した時の圧し返す力についての理解に良好な状況が見られる。
- 湯気について適切に述べた文章を選ぶ設問の正答率は 28.8%で、県平均を 0.8 ポイント下回る。湯気について理解することに課題が見られる。

「生命」を柱とする領域 (県平均との差 0.8 ポイント)

- オオカマキリとトノサマガエルの越冬について適切に比較してまとめた考察を選ぶ設問の正答率は 88.8%で、県平均を 1.5 ポイント上回る。動物の越冬について調べた結果を基に、考察を思考することに良好な状況が見られる。

「地球」を柱とする領域 (県平均との差 0.6 ポイント)

- 雨の日の気温を示したグラフを選び、1日の気温の変化に着目して選んだ理由を答える設問の正答率は 65.7%で、県平均を 1.8 ポイント上回る。雨の時の気温の変化を表したグラフを指摘し、選んだ理由を記述することに良好な状況が見られる。
- 窓に結露が発生する理由と、結露の水滴がつく場所について述べた文章にあてはまる語句を選ぶ設問の正答率は 30.5%で、県平均を 1.1 ポイント下回る。空気中の水蒸気が冷やされると結露して液体の水になることを、窓に付いた水滴と関連付けて思考することに課題が見られる。

指導の工夫・改善

「粒子」を柱とする領域

水の性質についての学習では、水の状態に着目して、温度の変化と関係付けて、水の状態の変化を調べることが大切である。既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するとともに、水は温度によって水蒸気や氷に変わることを捉えられるよう、状態が変化することを図や絵を用いて表現したり、水の性質について考えたり、説明したりする活動の充実を図ることが望まれる。

「地球」を柱とする領域

自然界の水の様子についての学習では、冷えた物を常温の空気中に置くとその表面に水滴が付く現象などから空気中には蒸発した水が水蒸気として存在していること等、日常生活との関連した現象を取り上げることが考えられる。

7 小学校質問紙調査

【児童質問調査】

調査結果（全94問から抜粋）

- 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、4・5年生とともに県平均と3ポイント以上差がある本市児童の特徴を表すものを取り上げた。（教科等別の学習に関する設問を除く）
- 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合			
		4年生		5年生	
		宇都宮市	県平均との差	宇都宮市	県平均との差
1	授業を集中して受けている。	91.1%	△0.2	91.8%	△0.5
2	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。	71.1%	△3.6	70.6%	△3.3
3	勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。	84.0%	1.7	85.5%	1.8
4	授業では、授業の目標（めあて・ねらい）が示されている。	89.4%	△0.6	93.6%	0.5
5	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。	87.7%	△1.7	92.3%	△1.2
6	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。	75.9%	△2.1	79.6%	△2.2
7	グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。	78.5%	1.4	78.2%	0.2
8	クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	75.5%	0.0	78.5%	0.2
9	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	51.4%	0.7	49.6%	1.9
10	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない。	34.7%	△1.3	37.1%	△1.2
11	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	71.7%	△2.6	73.1%	△1.9
12	家で、学校の授業の復習をしている。	59.1%	△5.9	62.1%	△4.7
13	家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	61.9%	△0.8	61.4%	1.6
14	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間（学習塾や家庭教師を含む） ※1時間以上	38.0%	△4.3	50.0%	0.0
15	自分には、よいところがあると思う。	87.4%	2.8	83.6%	0.4
16	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。	72.4%	0.8	75.2%	2.5
17	先生は学習のことについてほめてくれる。	90.8%	1.9	90.6%	1.4
18	家の人は、ほめてもらいたいことをほめてくれる。	88.3%	0.5	89.0%	1.4
19	家の人と将来のことについて話すことがある。	68.1%	0.7	71.7%	4.3
20	家の人と学習について話している。	77.7%	0.6	80.6%	2.7
21	普段（月～金曜日）、1日当たりのテレビゲームをする時間 ※1時間未満	33.7%	1.7	30.2%	2.4
22	普段（月～金曜日）、1日当たりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間 ※1時間未満、持っていない	75.3%	2.8	73.8%	2.2

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

学ぶ意欲・授業について (No. 1 ~ 10)

- No. 1 の肯定的な回答の割合は、90%以上であり高い。学習のきまりを作成・活用するなどして学習規律の徹底を図る指導が行われているものと考えられる。
- No. 3 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。教材や発問を工夫し、児童の知的好奇心を大切にした指導が行われているものと考えられる。
- No. 2, 5, 6 の肯定的割合は、県平均を下回っており、課題解決への見通しを持たせたり、本時の学びや自己の変容を振り返ったりするなど、自ら課題を見つけ解決する学習過程を一層工夫し、主体的に学習に取り組む態度を育てる必要がある。
- No. 9 の肯定的な回答の割合は 50%前後に留まっているとともに、No. 10 については県平均を下回っている。自分の考えを話したり、書いたりして表現する力を育む指導を工夫するとともに、特に、文章にまとめて書く活動を充実させる必要がある。

家庭学習について (No.11~14)

- No. 11, 12 の肯定的な回答の割合について、県平均を下回っている。家庭学習の習慣化に向けた指導を一層推進していく必要があるものと考えられる。

自分自身のこと・家の人や先生について (No.15~20)

- No. 15, 17 の肯定的な回答の割合は県平均より高く、児童のよさや努力を認め、励ます指導の充実が図られているものと考えられる。
- No. 16 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。地域の教育資源を活用した学習や、社会の問題について考える学習が積極的に取り入れられているものと考えられる。
- No. 18~20 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。家庭の理解や協力を得る取組が推進され、連携が図られているものと考えられる。

毎日の生活について (No.21, 22)

- No. 21, 22 のテレビゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンの使用時間について、1日1時間未満の児童の割合は県平均を上回っており、「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に基づく取組などの一定の効果が表れているものと考えられる。

【学校質問調査】

調査結果（全74問から抜粋）

- 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と10ポイント以上差があり（児童の様子については4・5年生ともに10ポイント以上差のあるもの）本市の特徴を表すものを取り上げた。（本調査問題及び全国学力・学習状況調査問題活用に関する設問を除く）
- 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。（No.9～13の肯定的な回答の割合は、「学校全体で」「どちらかといえば、学校全体で」の割合の合計）

〈児童の様子〉

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合			
		4年生		5年生	
		宇都宮市	県平均との差	宇都宮市	県平均との差
1	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。	91.2%	10.7	94.1%	6.3
2	児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている。	85.3%	3.6	92.7%	2.4
3	児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることができている。	92.7%	3.9	86.8%	△0.7
4	児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	75.0%	△2.4	82.4%	4.9

〈学校の取組〉

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
5	児童の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。	100%	2.4
6	自分の考えを文章にまとめる指導（記述）を重点的に行っている。	94.1%	3.3
7	授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。	89.7%	0.4
8	「ねらい」「指導」「評価」のつながりを意識した授業づくりを行っている。	100%	1.5
9	児童の実態を把握して、宿題を出している。	95.6%	11.4
10	やり方を児童に十分説明して、宿題を出している。	95.6%	10.8
11	児童が自主的に取り組むような宿題を出している。	95.6%	12.1
12	宿題の内容に応じて評価し、児童に伝える工夫をしている。	85.3%	13.3
13	宿題の意図について保護者へ説明をしている。	95.6%	8.4
14	教職員間で、互いの授業を見せ合っている。	98.5%	4.9
15	学年やブロックなどの小集団で授業研究を行うなど、組織的に授業づくりに取り組んでいる。	100%	4.6
16	授業研究を伴う校内研修の回数 ※年間4回以上	76.5%	0.5
17	本調査実施後、調査対象学年の児童に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、課題の改善状況を確認している。	86.8%	△5.6
18	本調査実施後、調査対象学年の1学年下の児童に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	78.0%	△3.5
19	調査結果の分析を全教職員で行っている。	100%	1.2

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

児童の様子 (No. 1 ~ 4)

○ No. 1 の肯定的な回答の割合は、県平均を大きく上回っている。学習規律の維持徹底を図る指導が行われているものと考えられる。

授業における学習指導 (No. 5 ~ 8)

○ No. 5, 8 の肯定的な回答の割合は 100% であり、特に高い。思考力や表現力を育むための言語活動の充実や、指導と評価の一体化を念頭に置いた授業づくりが意識されているものと考えられる。

○ No. 6, 7 の肯定的な回答の割合は県平均を上回っている。自分の考えを話したり書いて文章にまとめたりすることにより、表現する力を育む指導の充実が図られているものと考えられる。

家庭学習の指導 (No. 9 ~ 13)

○ No. 9 ~ 13 の肯定的な回答の割合は、県平均を上回っている。家庭学習の習慣化に向けた取組が推進されているものと考えられる。

校内研修の充実 (No. 14 ~ 16)

○ No. 14, 15 の肯定的な回答の割合は 90% 以上であり特に高く、No. 16 の授業研究を伴う校内研修が 4 回を超える割合は、県平均を上回っている。各学校において目指す授業の方向性を共通理解した上で、授業力向上を目指す実践が定着しているものと考えられる。

学力調査の活用 (No. 17 ~ 19)

○ No. 19 の肯定的な回答の割合は 100% であり、特に高い。調査結果をもとに成果や課題を把握し、学校全体で指導改善に生かす取組が推進されているものと考えられる。

● No. 17, 18 の肯定的な回答の割合は、県平均を下回っている。学習内容の習得状況や課題の改善状況を確認するために、学力調査の問題の活用を工夫する必要があると考えられる。

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果について【中学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るために、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考え方から、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本市立中学校生徒の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「とちぎっ子学習状況調査」について

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善（学力向上P D C A）サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日・調査対象 令和7年4月17日（木） 第2学年



3 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ① 調査教科 国語・社会・数学・理科・英語
- ② 出題範囲 調査する学年の前学年までの学習内容
- ③ 出題内容 学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関わる内容

(2) 質問調査

※ I C T 端末を用いたオンライン方式にて実施

- ① 生徒質問調査 学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等に関するこ
- ② 学校質問調査 指導に関する取組や学習環境等に関するこ 等

4 本市の参加状況

(1) 学校数 宇都宮市立中学校 25校（25校中）

(2) 生徒数 国語 3,742人 社会 3,746人 数学 3,750人 理科 3,751人 英語 3,755人

5 留意事項

(1) 調査結果について

本調査は、対象となる学年や実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2) 教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を示すために、教科全体及びカテゴリー別の平均正答率、正答率度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、領域等ごとに良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
 - ※「良好な状況が見られるもの」と「課題が見られるもの」は、正答率が県平均より高い（低い）設問などを基に考察した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを中心に記載した。

(3) 質問調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び県との比較において本市の特徴が見られる質問を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、指導の工夫・改善のポイントを記載した。

1 中学校第2学年 国語

平均正答率

(%)

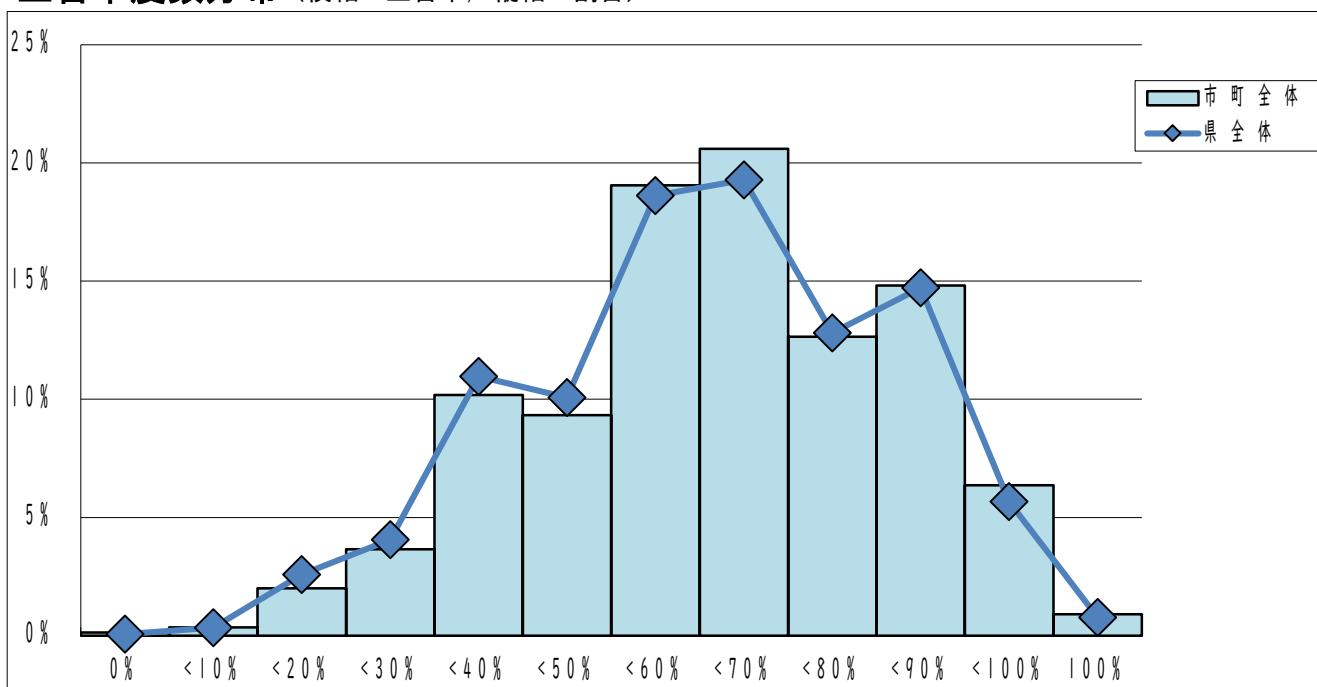
	宇都宮市（市立）a	栃木県（公立）b	差	a-b
教科全体	61.6	60.6		1.0

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.5	62.3	2.2
	我が国の言語文化に関する事項	48.7	41.1	7.6
	話すこと・聞くこと	72.1	71.2	0.9
	書くこと	43.1	48.5	△5.4
	読むこと	63.9	61.8	2.1
観点別	知識・技能	62.9	60.1	2.8
	思考・判断・表現	60.8	60.8	0.0

正答率度数分布 (横軸: 正答率, 縦軸: 割合)



言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 2.2 ポイント)

- 漢字の読み書きに関する設問の正答率は 67.6% で、県平均を 2.1 ポイント上回る。漢字を正しく読んだり、書いたりすることに良好な状況が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 7.6 ポイント)

- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く設問の正答率は 48.7% で、県平均を 7.6 ポイント上回る。歴史的仮名遣いを読むことに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (県平均との差 0.9 ポイント)

- 話合いで意見を提案する際の話し方として適切なものを選ぶ設問の正答率は 86.6% で、県平均を 1.0 ポイント上回る。話の展開を捉えることに良好な状況が見られる。

- 話し合われた内容をまとめ書く設問の正答率は 22.0% で、県平均とほぼ同等である。話題や展開を捉え、互いの発言を結び付けて考えをまとめることに課題が見られる。

書くこと (県平均との差 △5.4 ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くことの正答率は 49.2% で、県平均を 5.7 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。

- 資料から読み取れることを書く設問の正答率は 45.2% で、県平均を 5.7 ポイント下回る。二つの資料の内容を関係付けて書くことに課題が見られる。

読むこと (県平均との差 2.1 ポイント)

- 登場人物の心情として適切なものを選ぶ設問の正答率は 71.1% で、県平均を 2.6 ポイント上回る。描写を基に人物の心情の変化を捉えることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

話すこと・聞くこと

話合いで重要なことは、話合いで円滑に進めながら、互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりすることである。効果的に話合いで進めるためには、事前に何について話し合うかを明確にするとともに、話題や展開を捉え、互いの立場や考えを尊重しながら話し合うことが大切である。また、互いの発言を踏まえるためには、互いの考えを比較しながら聞くことや、つなぎ言葉を使って話すことが必要であり、これらを生徒が実践できるよう指導することが重要である。

書くこと

文章を書く設問では、二つの異なるグラフが示され、それらの資料から読み取れることをまとめて書く課題が設定された。資料を読み取るには、文章やグラフに含まれている情報を取り出し、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などに整理して関係を捉えることが必要である。また、資料から読み取れることをまとめて書くには、整理した情報の中から、関連する情報と情報を関係付けて示すことが求められる。そのため、指導の際には、どのような視点で情報を整理することが適切か、どのような視点から情報と情報を関係付けることができるかなどについて、思考したことを表や図を使いながらまとめた上で文章化していく授業展開が有効である。

2 中学校第2学年 社会

平均正答率

(%)

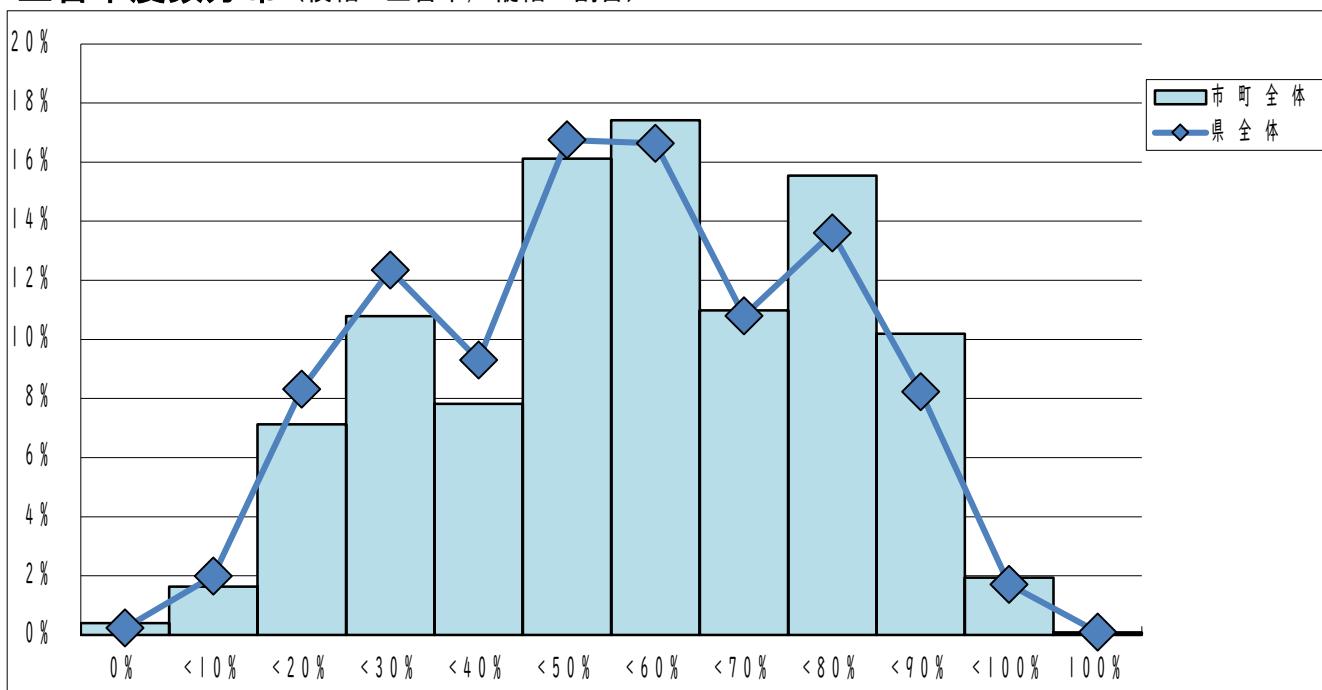
	宇都宮市（市立）a	栃木県（公立）b	差 a - b
教科全体	52.8	50.3	2.5

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	地理	58.7	56.6	2.1
	歴史	45.4	42.4	3.0
観点別	知識・技能	50.7	48.2	2.5
	思考・判断・表現	56.9	54.4	2.5

正答率度数分布 (横軸: 正答率, 縦軸: 割合)



地理的分野 (県平均との差 2.1 ポイント)

- 日本とイタリアを比較した3つの資料から、イタリアが地中海性気候に属し、正しい特徴を表している文を選択する設問の正答率は64.5%で、県の平均を4.3 ポイント上回る。温帯の気候とその地域の特色に関する基礎的・基本的な知識の定着について良好な状況が見られる。
- 東南アジアの国々の統計情報をまとめた表から読み取れる内容について、正しい文を全て選択する設問の正答率は20.4%であり、統計資料について複数の項目を関連付け、比較しながら情報を読み取る技能に課題が見られる。

歴史的分野 (県平均との差 3.0 ポイント)

- 遣唐使の派遣が停止された理由について、唐の勢力の衰えや使節派遣の危険性について述べている文を選択する設問の正答率は、62.6%で、県平均を3.4 ポイント上回る。資料から読み取れる適切な内容を考察する力に良好な状況が見られる。
- 古代と中世を表した資料を基に、中世の日本の学習において作った学習課題について適切に述べた文を選択する設問の正答率は62.6%で、県平均を2.3 ポイント上回る。複数の資料から変化を読み取り、考察する力に良好な状況が見られる。
- 桓武天皇が行った軍隊の派遣と建設事業について、複数の時代を表した地図資料と建設物の名称から、適切なものをそれぞれ選択する設問の正答率は7.8%であり、各時代の事象に関する知識の定着と活用に課題が見られる。

指導の工夫・改善**地理的分野**

単元を貫く学習課題を設定し、予想や見通しを立てて課題を追究したり解決したりする活動を通して、地形図や主題図、図表やグラフなどの様々な資料から、課題の解決に必要な情報を読み取りながら、知識と技能を一体的に身に付けたり、地理的な見方・考え方を働かせて考察したりして表現する学習活動を充実させることが重要である。特に、個別の知識の統合を促し、単元の学習内容について概念的に理解することができるよう、説明や議論、または振り返る学習活動を計画的に設定し、指導と評価の充実を図ることが大切である。

歴史的分野

社会的事象を時期や推移などに着目して、社会の変化の様子について比較や相互を関連付けて捉え、歴史の大きな流れの中で理解することができるよう、生徒が、歴史的な見方・考え方を働かせられる適切な問いと資料を提示し、思考力・判断力・表現力等を育成する学習活動の充実を図ることが大切である。

3 中学校第2学年 数学

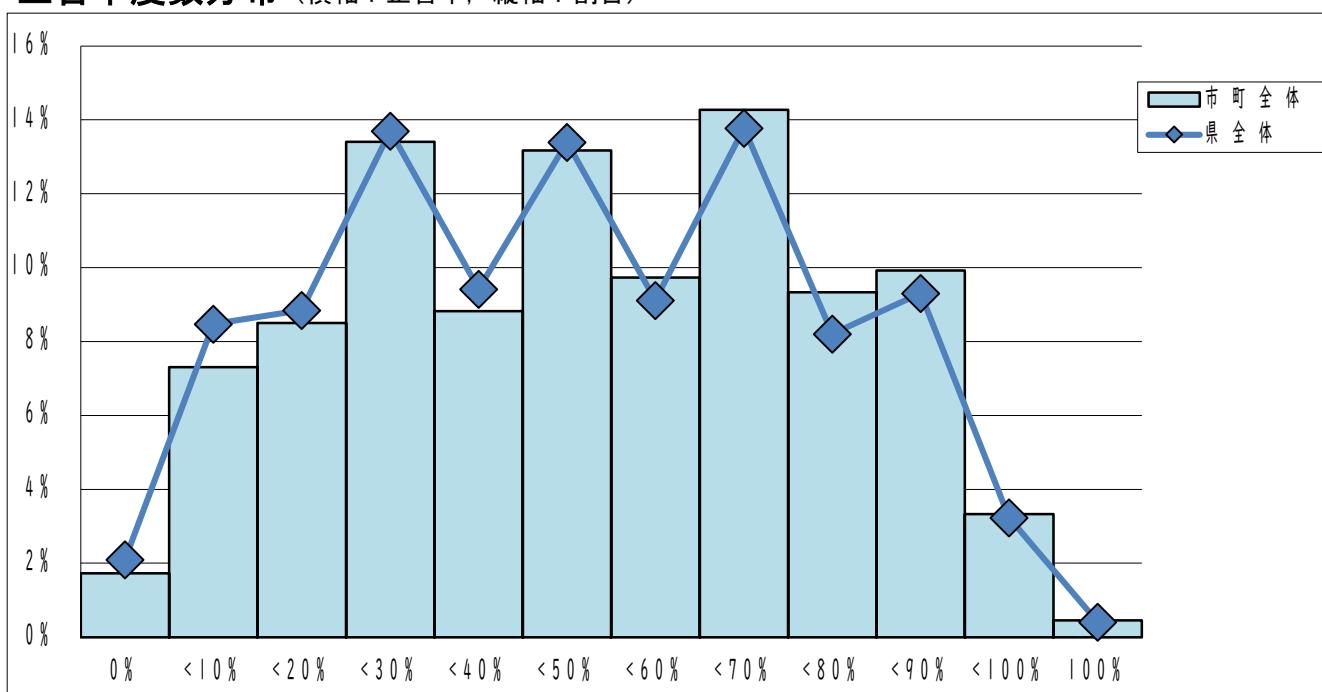
平均正答率

	宇都宮市（市立）a	栃木県（公立）b	差 a-b	(%)
教科全体	46.7	45.2	1.5	

カテゴリー別集計結果

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b	(%)
領域等別	数と式	49.7	47.6	2.1	
	図形	49.2	47.7	1.5	
	関数	38.0	36.8	1.2	
	データの活用	49.6	48.5	1.1	
観点別	知識・技能	54.0	52.5	1.5	
	思考・判断・表現	35.8	34.1	1.7	

正答率度数分布 (横軸: 正答率, 縦軸: 割合)



数と式 (県平均との差 2.1 ポイント)

- 前日の最低気温について、正しい計算をしている式を選ぶ設問の正答率は 48.7% であり、県平均を 3.3 ポイント上回る。求めたい数量や式が表す意味を考えることに良好な状況が見られる。
- 与えられた情報をもとに、数量の関係や法則などを文字を用いた式で表す設問の正答率は 17.5% であり、県平均を 1.4 ポイント上回るが、無解答率が 23.2% で県平均を 0.4 ポイント上回る。考え方方が示された、規則的に変化する図の意味を読み取り、立式することに課題が見られる。

図形 (県平均との差 1.5 ポイント)

- 回転移動したときに重なる図形を選ぶ設問の正答率は 76.5% であり、県平均を 3.1 ポイント上回る。図形をある点を回転の中心として一定の角度だけ回転させる移動の意味の理解に良好な状況が見られる。

関数 (県平均との差 1.2 ポイント)

- 道のりが一定で、速さが変わる場合について、反比例を用いて答えを求める設問の正答率は 49.0% であり、県平均を 1.6 ポイント上回る。比例、反比例の関係について式を用いて表すことに良好な状況が見られる。
- 比例のグラフの直線が途中で止まっている理由を、 y の変域を示して説明する設問の正答率は 12.7% であり、県平均を 1.1 ポイント上回るが、無解答率は 36.4% であり、教科全体の中で最も低い。具体的な事象において、変域を意識しながら事象を捉え考察し表現することに課題が見られる。

データの活用 (県平均との差 1.1 ポイント)

- 度数分布表から、ある階級の相対度数や累積度数を求める設問において正答率が、県平均を 1.4~2.7 ポイント上回る。データの傾向を読み取る際に用いる用語の意味の理解に良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

数と式

規則性を見出して数量の関係を式で表す学習では、多様な考え方を文字を使って表すという活動を通して、自分の思考の過程を表現し、他者に的確に伝達できるという文字を用いた式のよさを実感し、必要性や意味を理解できるようにすることが大切である。また、式を解釈する力を育む上で、他者が立てた式について考え、説明する活動を取り入れるなど指導の工夫も必要である。

関数

関数についての思考力・判断力・表現力等を深めるために、日常生活や社会の事象とのつながりを意識させ、変化や対応の様子を実感させることが必要である。その上で、関数関係に着目し、その特徴を表・式・グラフを相互に関連づけて考察できるように指導し、目的に応じて数学的表現を適切に選択できるようにすることが大切である。その際、具体的な事象においては、変域を意識しながら事象を捉え、考察し表現できるようにすることが重要である。

4 中学校第2学年 理科

平均正答率

(%)

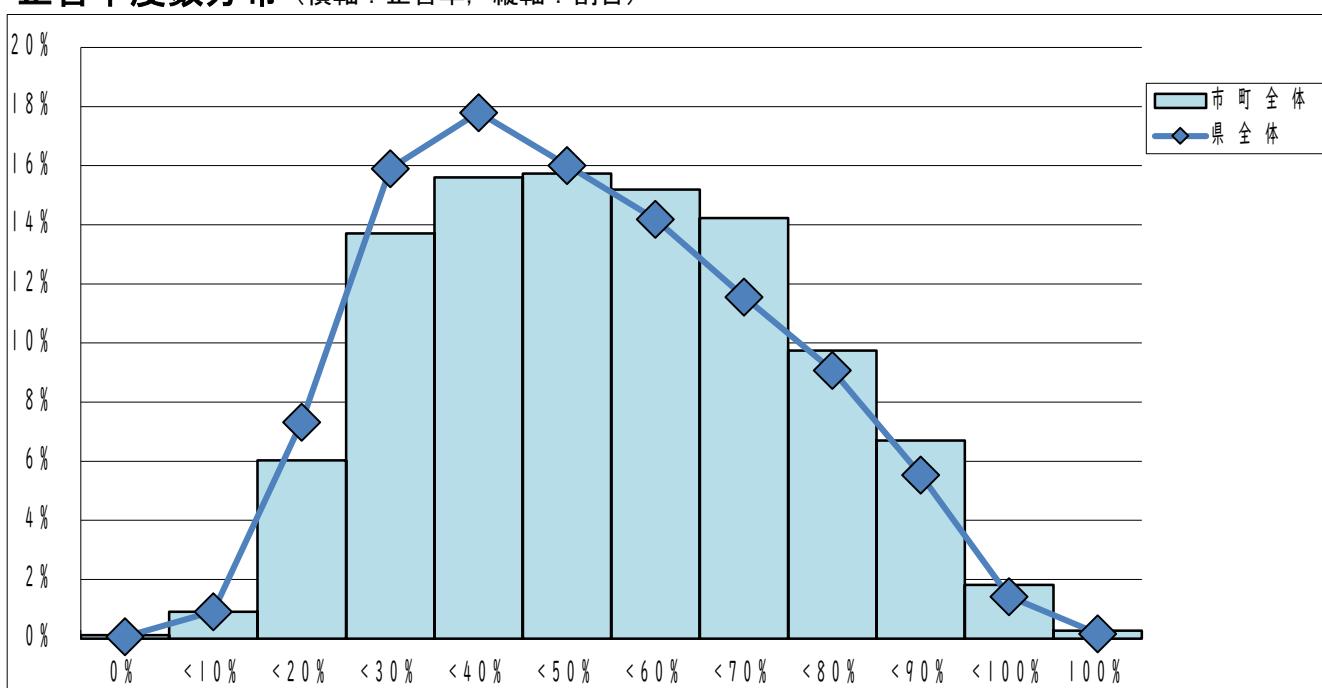
	宇都宮市（市立）a	栃木県（公立）b	差	a - b
教科全体	49.5	46.8		2.7

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	「エネルギー」を柱とする領域	52.7	50.5	2.2
	「粒子」を柱とする領域	48.3	44.9	3.4
	「生命」を柱とする領域	67.6	64.4	3.2
	「地球」を柱とする領域	34.4	32.3	2.1
観点別	知識・技能	50.7	47.6	3.1
	思考・判断・表現	47.6	45.6	2.0

正答率度数分布（横軸：正答率、縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

「エネルギー」を柱とする領域 (県平均との差 2.2 ポイント)

- 実像の名称を答える設問の正答率は 65.7% で、県平均を 4.4 ポイント上回る。実像についての理解に良好な状況が見られる。

「粒子」を柱とする領域 (県平均との差 3.4 ポイント)

- 状態変化の名称を答える設問の正答率は 77.9% で、県平均を 3.6 ポイント上回る。状態変化についての理解に良好な状況が見られる。
- 二酸化炭素を発生させる方法と確かめる方法の組み合わせを選ぶ設問の正答率は 65.7% で、県平均を 4.5 ポイント上回る。気体の発生方法と確かめる方法についての理解に良好な状況が見られる。
- 食塩の水溶液のモデルを選ぶ設問の正答率は 17.3% であり、水溶液のモデルでの表し方についての理解に課題が見られる。

「生命」を柱とする領域 (県平均との差 3.2 ポイント)

- 脊椎動物の共通点と差異点に着目し、分類の観点を選ぶ設問の正答率は 85.2% で、県平均を 3.3 ポイント上回る。脊椎動物の体の表面の様子や子の生まれ方等の特徴を分類の観点や基準にすると、分類できることについての理解に良好な状況が見られる。

「地球」を柱とする領域 (県平均との差 2.1 ポイント)

- 震度とマグニチュードの違いをまとめた文章を完成することについての設問の正答率は 37.3% で、県平均を 6.5 ポイント上回る。震度とマグニチュードの違いの理解に良好な状況が見られる。
- 緊急地震速報と地震の揺れの伝わり方を結び付けて考え、震源からの距離を選ぶ設問の正答率は 13.4% で、教科全体の中で最も低い。緊急地震速報と地震の揺れの伝わり方を結び付けて思考することに課題が見られる。

指導の工夫・改善

「粒子」を柱とする領域

小学校では第5学年で、水溶液の中では、溶けている物が均一に広がることを学習していることを踏まえ、物質の水への溶解を粒子のモデルを用いて微視的に捉えさせるようにするとともに、粒子のモデルで均一になる様子について説明させるなど、指導方法を工夫することが大切である。

「地球」を柱とする領域

地震の揺れの伝わり方については、震源からの距離の異なる場所に置かれた地震計の記録を基に揺れの伝わる速さを推定させたり、地震の揺れがほぼ同心円状に伝わることを捉えさせたりすることが大切である。一般に震度は、震源からの距離によって異なることなどの規則性にも気付かせ、初期微動継続時間の長さが震源からの距離に関係していることにも触れ、「緊急地震速報」との関連にも触れることが有効である。

5 中学校第2学年 英語

平均正答率

(%)

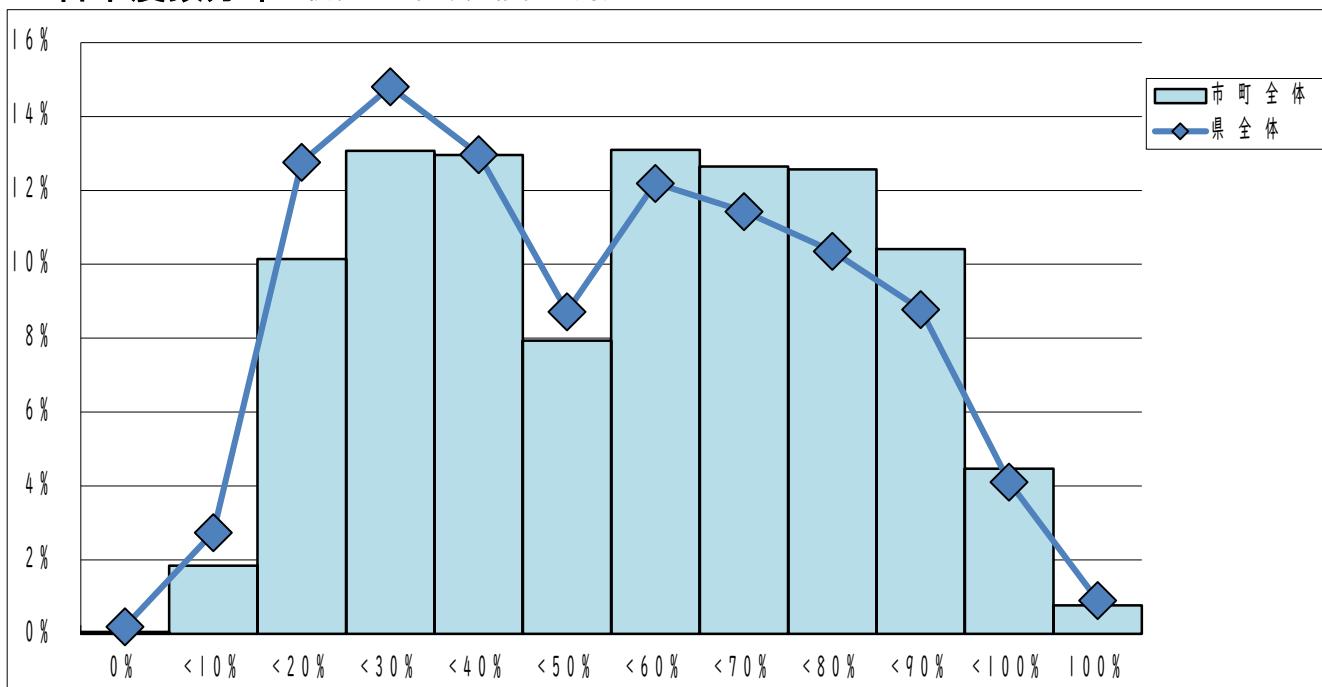
	宇都宮市（市立）a	栃木県（公立）b	差 a - b
教科全体	51.5	48.2	3.3

カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	聞くこと	55.8	53.5	2.3
	読むこと	56.0	53.8	2.2
	書くこと	45.6	40.9	4.7
観点別	知識・技能	54.3	50.2	4.1
	思考・判断・表現	42.9	42.1	0.8

正答率度数分布 (横軸: 正答率, 縦軸: 割合)



聞くこと (県平均との差 2.3 ポイント)

- 場所を表す英文を聞き取る設問の正答率は 88.0%で、県平均を 15.8 ポイント上回る。また、対話の内容を聞き取り、適切に応答しているものを選ぶ設問の正答率は 71.3%で、県平均を 1.3 ポイント上回る。必要な情報を聞き取ることや聞き取った英語の内容を正確に把握することに良好な状況が見られる。
- 日付を質問する英文を聞き取る設問の正答率は 45.6%で、県平均を 1.2 ポイント下回る。似たような音声の違いを聞き取り、正確に把握することに課題が見られる。

読むこと (県平均との差 2.2 ポイント)

- 対話から情報を正確に読み取る設問の正答率は 70.2%で、県平均を 1.3 ポイント上回る。また、日常的な話題の対話を読み取り適切なグラフを選択する設問の正答率は 62.4%で、県平均を 2.3 ポイント上回る。正確に英文を読み取ることや必要な情報を捉えることに良好な状況が見られる。

書くこと (県平均との差 4.7 ポイント)

- 対話が成り立つように、与えられた語を適切な形で書く設問の正答率は 73.8%で、県平均を 8.8 ポイント上回る。また、対話文が適切になるよう与えられた語を並べ替えて書く設問の正答率は 65.3%で、県平均を 4.7 ポイント上回る。文脈に応じて、適切な語形を書くことや英文を正しい語順で書くことに良好な状況が見られる。
- 読んだことについて自分の考えを整理し、まとまりのある英文を書く設問では正答率は 7.8%で、県平均を 1.6 ポイント下回る。また、無解答率が 3割を超えており、正答率よりも高くなっている。状況を捉えて、必要な表現を判断し書くことや書くことへの意欲に課題が見られる。

指導の工夫・改善

聞くこと

聞くことの指導にあたっては、場面設定等を工夫しながら、聞くことへの意欲を高める工夫や、場面や状況を明確にし、聞き取るポイント等を示すことが有効である。また、聞いた後に文字を提示し、音声の違いを意識させ音読させることや、聞いたことをもとに、話すことや書くことと結び付けるなど、技能統合的な言語活動に継続的に取り組ませる指導が必要である。

書くこと

書くことの指導にあたっては、何のために、誰に向けて書くかなど、目的や相手を明確にすることで、書くことへの意欲を高めていくことが必要であり、書く前に意見や考えについてやり取りを行ったり、書く内容のアイディアを整理する時間を設けたりすることで、自分の考え等をまとめ、英文で表現することへつなげることが有効である。その際、読み手に配慮しながら、内容のつながりや構成の工夫などへの意識をもち、まとまりのある文章を書くことに取り組ませる指導が必要である。

6 中学校質問調査

【生徒質問調査】

調査結果（全 113 問から抜粋）

- 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と 3 ポイント以上差があり本市生徒の特徴を表すものを取り上げた。(教科等別の学習に関する質問を除く)
- 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
1	授業を集中して受けている。	91.5%	0.2
2	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。	63.3%	1.2
3	勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。	76.1%	2.8
4	勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。	82.8%	0.5
5	学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。	93.9%	4.2
6	授業では、授業の目標（めあて・ねらい）が示されている。	96.9%	△0.1
7	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。	88.2%	△2.3
8	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。	79.6%	△1.8
9	グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。	78.5%	0.5
10	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	45.3%	1.5
11	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない。	33.3%	△2.4
12	家で、学校の授業の復習をしている。	70.4%	△0.5
13	家で、学校の授業の予習をしている。	46.4%	4.7
14	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	67.6%	1.5
15	家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	59.6%	4.0
16	家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。	65.4%	2.8
17	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間（学習塾や家庭教師を含む）※2時間以上	24.2%	1.8
18	自分には、よいところがあると思う。	82.5%	2.2
19	自分のよさを人のために生かしたいと思う。	92.9%	1.4
20	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。	66.2%	1.3
21	自分の行動や発言に自信をもっている。	54.2%	2.3
22	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。	70.1%	3.7
23	先生は学習のことについてほめてくれる。	87.2%	3.2
24	家の人は、ほめてもらいたいことをほめてくれる。	83.1%	2.3
25	家の人と将来のことについて話すことがある。	69.0%	3.3
26	家の人と学習について話をしている。	84.5%	5.8
27	普段（月～金曜日）、1日当たりのテレビゲームをする時間 ※1時間未満	26.6%	0.4
28	普段（月～金曜日）、1日当たりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間 ※1時間未満、持っていない	46.7%	△0.3

学ぶ意欲・授業について (No. 1 ~ No.11)

- No. 1 の肯定的な回答の割合は 90 %以上であり、特に高い。学習規律の維持徹底を図る指導が行われているものと考えられる。
- No. 3 ~ 5 の肯定的な回答の割合は県平均と同程度または上回っている。学ぶことに興味をもち、自己のキャリアや生活に生かそうとするなど、生徒の知的好奇心を大切にした指導や、学習への有用感を高める指導が工夫されているものと考えられる。
- No. 2, 9 の肯定的な回答の割合は県平均を上回っている。グループ活動などの学習を取り入れ、生徒が互いに話し合い、進んで学習に取り組む指導が推進されているものと考えられる。
- No. 7, 8 の肯定的な回答の割合は県平均を下回っている。授業の導入時に本時の授業で学ぶことを生徒と共有し見通しを持たせるとともに、振り返りを計画的に行い、生徒自身が学びや自己の変容を改めて確認する機会が必要であると考えられる。
- No. 10, 11 の肯定的な回答の割合は 50%未満に留まっているとともに、No. 11 については県平均を下回っている。自分の考えを話したり書いたりして表現する力を育む指導を工夫する必要がある。

家庭学習について (No.12~No.17)

- No. 13~17 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。家庭学習に主体的に取り組む態度を育むための指導が推進されているものと考えられる。

自分自身のこと・家の人や先生について (No.18~No.26)

- No. 18~21 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。No. 19 の肯定的な回答の割合は、90%以上と、特に高い。挑戦したり達成感を味わったりすることができる教育活動を取り入れるなど、生徒のよさや努力を認め、励ます指導が推進され、自己肯定感が高まっているものと考えられる。
- No. 24~26 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。キャリアに関する指導や学習の充実に向けた指導が、家庭と連携・協力しながら進められているものと考えられる。

毎日の生活について (No.27, 28)

- No. 28 の携帯電話やスマートフォンの使用時間について、1日に 1 時間未満の生徒の割合は県平均をやや下回っている。「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に基づく取組等により、節度のある使用についての指導の工夫が必要であると考えられる。

【学校質問調査】

調査結果（全 67 問から抜粋）

- 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と 10 ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。（本調査問題及び全国学力・学習状況調査問題の活用に関する質問を除く）
- 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。（No.9～14 の肯定的な回答の割合は、「学校全体で」「どちらかといえば、学校全体で」の割合の合計）

〈生徒の様子〉

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
1	生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。	96.0%	2.5
2	生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている。	100%	4.6
3	生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている。	88.0%	△2.9
4	生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	88.0%	2.9

〈学校の取組〉

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
5	生徒の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。	100%	1.3
6	自分の考えを文章にまとめる指導（記述）を重点的に行っている。	88.0%	1.0
7	授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。	100%	11.7
8	「ねらい」「指導」「評価」のつながりを意識した授業づくりを行っている。	100%	0.7
9	宿題の出し方について教員間で情報交換している。	60.0%	△8.2
10	生徒の実態を把握して、宿題を出している。	64.0%	△3.5
11	やり方を生徒に十分説明して、宿題を出している。	76.0%	7.8
12	宿題について、評価・点検の仕方を教職員間で情報交換している。	64.0%	△4.2
13	生徒が自主的に取り組むような宿題を出している。	72.0%	9.0
14	宿題の意図について保護者へ説明をしている。	84.0%	13.9
15	教職員間で、互いの授業を見せ合っている。	96.0%	9.0
16	教科の枠を超えて学年などの小集団で授業研究を行うなど、組織的に授業づくりに取り組んでいる。	88.0%	0.3
17	授業研究を伴う校内研修の回数 ※4回以上	52.0%	△0.6
18	本調査実施後、調査対象学年の生徒に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、課題の改善状況を確認している。	76.0%	△7.8
19	本調査実施後、調査対象学年の1学年下の生徒に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	48.0%	△22.1
20	調査結果の分析を全教職員で行っている。	76.0%	△14.9

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

生徒の様子 (No. 1 ~ 4)

- No. 1, 2 の肯定的な回答の割合は 90%以上と、特に高く、県平均を上回っている。話の聞き方や発言の仕方などの学習規律の徹底について、学校全体での組織的な指導が推進されているものと考えられる。

授業における学習指導 (No. 5 ~ 8)

- No. 5, 7, 8 の肯定的な回答の割合は 100%であり、特に高い。言語活動の充実を図り、主体的に問題発見・解決に取り組む態度の育成に向けた指導が推進されているものと考えられる。
- No. 8 の肯定的な回答の割合は 100%であり、指導と評価の一体化を念頭においていた授業づくりが意識されているものと考えられる。
- No. 6 の肯定的な回答の割合は 88.0%であり、県平均を 1.0 ポイント上回っているが、引き続き、自分の考えを整理し、書いてまとめてことで、表現する力を育む指導の充実を図っていく必要がある。

家庭学習の指導 (No. 9 ~ 14)

- No. 9, 10, 12 の肯定的な回答の割合は県平均を下回っており、No. 9 は下回り方が大きい。宿題や課題について教科間で共有し、内容や評価について確認するなど、生徒の負担に配慮していくことが必要になるとと考えられる。

校内研修の充実 (No. 15~17)

- No. 15 の肯定的な回答の割合は県平均より 9 ポイント上回っている。教員同士が互いに授業を見せ合う取組が定着しているものと考えられる。
- No. 17 の校内研修を 4 回以上実施する割合は県平均より 0.6 ポイント下回っている。教科の枠を超えた小集団での授業研究を工夫するなど、校内で共通の課題を解決するために、組織的な授業づくりの推進が必要となる。

学力調査の活用 (No. 18~20)

- No. 18~20 の肯定的な回答の割合は、県平均を大きく下回っている。全教職員で調査結果を分析し、学習内容の習得状況を把握したり、校内の課題の改善状況を確認したりするなど、検証サイクルを回していく必要がある。

報告第 5 3 号

小中学校における勤務時間外の自動音声応答について

小中学校における勤務時間外の自動音声応答について、次のように報告する。

令和 7 年 9 月 22 日提出

宇都宮市教育委員会

教育長 小堀 茂雄

別紙のとおり

小中学校における勤務時間外の自動音声応答について

◎ 趣旨

市立小中学校の勤務時間外における自動音声応答の設定時間変更について報告するもの

1 目的

勤務時間外における自動音声応答の設定時間変更により、教職員の勤務時間の適正化を図り、教職員一人一人が心身ともに健康で、やりがいと情熱をもって職務に従事できる環境を整備するため

2 自動音声応答設定時間の変更について

(1) 現在の対応

- 平日は午後6時から翌午前7時40分頃（中学校では部活動終了時間を考慮し、4月から11月は午後7時から翌午前7時40分頃）
- 学校の休業日など（土・日曜日、祝祭日、年末年始、運動会の振替日など）は終日
- 長期休業期間（春・夏・秋・冬休み）は勤務時間を除く時間帯
(午後4時30分頃から午前8時頃)

(2) 変更後

- 平日は、各学校の勤務時間外
※勤務時間は、各学校により（概ね午前8時00分から午後4時30分）
- 学校の休業日（土・日曜日、祝祭日、年末年始、運動会の振替日など）は終日
⇒ 上記を自動音声応答設定可能時間とする。

※ ただし、「校外行事などで早朝の欠席連絡の時間を指定している場合」や「学校から保護者へ折り返しの連絡を依頼している場合」などは、自動音声応答設定時間を変更して対応する。

3 運用開始日

令和7年10月16日（木）から

第 20 回うつのみや食育フェアの開催について

◎ 趣旨

第 20 回うつのみや食育フェアの開催について資料提供するもの

1 目的

市民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むため、家庭、学校、地域、企業など多様な取組主体と連携し、食に関する知識の普及と体験の機会を提供することで、市民に食育の重要性について啓発する。

2 開催日時

令和 7 年 10 月 19 日（日）午前 10 時～午後 3 時

3 場所

ライトキューブ宇都宮・宮みらいライトビル

4 主催

うつのみや食育フェア実行委員会〔大森玲子委員長〕

（食育に関する教育・家庭及び地域・経済関係団体、宇都宮市食育推進会議、宇都宮市、宇都宮市教育委員会 計 28 団体）

5 内容（詳細は、別添「食育フェア」ポスター参照）

食育に関する体験、相談、展示などのブース出展及びステージイベントを実施する。

※「宇都宮ウォーキングフェスタ」、「うつのみやグリーンマルシェ」が同会場で同日開催される予定

【教育委員会が行う催事】

<ブース>

○ブース名称 「きらめき☆宮っ子スクール」

○内容

- ・食に関する本との出会いを広げたり、親子で本に親しむ機会を創出したりすることを目的に、食に関する本の紹介及びブックリストの配布
- ・全小・中学校の給食で提供している本市にゆかりのある料理や郷土料理を取り入れた「宮っ子ランチ」の使用食材を旬に並び替えるゲーム
- ・テーブルマナーの本を使用したお膳並べチャレンジ
- ・沖縄県うるま市（友好都市）の学校給食の献立紹介
- ・「宮っ子ランチ」フードモデルの展示
- ・教育委員会に関する活動や「トマト料理コンクール」入賞者作品のパネル展示など

※当日は教育委員会が認定する「宮っ子の誓い大使」に協力を依頼

<ステージイベント>

○内容

- ・トマト料理コンクール入賞者の表彰及び上位入賞者（最優秀賞、優秀賞）による調理披露（トマト料理コンクールの概要については別紙参照）

令和7年度トマト料理コンクールの実施について

1 目的

児童生徒が、本市が作付面積県内1位のトマトを使った料理のレシピを考え、調理することで、食への興味・関心を高める。

2 実施内容

対象者：宇都宮市内の小・中学校に通学する小学生及び中学生（個人又はグループ）

テーマ：トマトを使った「主食（ごはん・パン・麺類など）」の料理レシピ

募集期間：令和7年6月20日（金）～8月12日（火）

3 実施結果

- 市内の小・中学校に通学する小学1年生から中学3年生までの47名（個人又はグループ）から40作品の応募があった。（令和6年度：41名から35作品の応募）
- 応募作品について、料理研究家、JAうつのみや職員、栄養教諭などの審査員による書類審査及び試食審査を行い、次のとおり、入賞作品を選定した。
- 審査員からは、「家庭でできるレシピが多く、給食でも調理可能なものも多い。」、「主食であるが、様々な食材が入っているので、この1品を食べれば栄養がたくさん取れる。」、「児童生徒の創意工夫の向上が見られ、とてもおいしい。」などの評価をいただいた。

【入賞者及び作品】

(学年・50音順)

	料理名	レシピ考案者	学校名・学年
最優秀賞	タコライス風つつまないトマト餃子丼	西川 恵都	豊郷中央小・小6
優秀賞	ビタミンカラー！！	内野 ひいろ	豊郷中・中3
	夏にも負けないカラフルトマトソースうどん	大濱 心和	豊郷中・中3
	トマおこ（イタリア風お好み焼き）	木村 心遙	宇大附属中・中3
審査員特別賞	トマトと高野豆腐のオープンサンド	分部 莉彩	宇大附属中・中1
佳作	おうちでかんたん！トマナットースト	大島 隆矢	横川西小・小4
	トマトと大葉のサッパリチャーハン	渡部 凜奈	ゆいの杜小・小6
	BLT（ベーコン・レタス・トマト）ガーリックライス	増田 結	豊郷中・中2
	トマトとしらすのうどんグラタン	柳 実那	泉が丘中・中3



【最優秀賞】

タコライス風
つつまないトマト餃子丼

【優秀賞】

ビタミンカラー！！
夏にも負けないカラフルトマトソースうどん

【優秀賞】

トマおこ
(イタリア風お好み焼き)

【審査員特別賞】

トマトと高野豆腐の
オープンサンド

第20回

うつのみや 食育フェア

令和7年 10/19 日
10:00~15:00
(荒天中止)



会場：ライトキューブ宇都宮・
宮みらいライトヒル

ステージイベント

「宇都宮大学×宮島醤油株式会社×市の
産学官共同開発商品の発表会」

小・中学生による「トマト料理コンクール」
入賞者表彰式、調理披露

きぶなくんのおいしい
お魚アレコレ講座



宇都宮市中央卸売市場 水産仲卸(株)販正

いつまでも楽しく
食事をするための噛む健康法

榎本 遼香さん

(経歴)

東京・パリ オリンピック2大会連続出場!
栃木県宇都宮市出身。作新学院高等学校、
筑波大学を卒業。
現在は筑波大学大学院博士課程在籍中。
2023年4月より栃木トヨタ所属。
生まれも育ちも練習拠点も全て
栃木の「生粋のとちぎアスリート」



トークショー
「オリンピック選手が大切にしている食習慣」

- ・来場者駐車場、駐輪場のご用意はありません。
- ・市内循環バスきぶなやシェアリングモビリティ LUUP の割引が利用できます。
- ・詳しくはパンフレットや市HPをご確認ください。



出展ブース



体験型ブースや地元の食材等を使用した
美味しい食べ物の販売ブースなど
約 70 ブースが大集合!!

—— グリーン農業を体験しよう!! ——

「うつのみやグリーンマルシェ」も同時開催!

- ・様々なグリーン農産物・飲食物・惣菜の販売
- ・グリーン農業を体感できるブース等



(事前申込が必要です)



会場：宇都宮城址公園

デラシに掲載される
「きぶなの無料乗車券」を
ご提示いただくと
城址まつり→食育フェア
間のバス(きぶな)が
無料となります。

主 催：うつのみや食育フェア実行委員会

援：農林水産省関東農政局/栃木県/栃木県教育委員会/株式会社下野新聞社/NHK宇都宮放送局/株式会社栃木放送/株式会社エフエム栃木/株式会社とちぎテレビ/宇都宮ケーブルテレビ株式会社/全国健康保険協会 栃木支部/宇都宮コミュニティFM ミヤラジ

うつのみや食育フェア実行委員会事務局 (宇都宮市保健福祉部 保健所健康増進課内)

TEL 028-626-1128



市のHPはこちら



UTSUNOMIYA



UTSUNOMIYA

令和7年度 第1回宇都宮市生涯学習センター運営審議会の結果について

1 開催日時 令和7年8月19日（火） 午後1時30分～午後2時50分

2 開催場所 宇都宮市役所14大会議室（宇都宮市役所14階）

3 出席委員 生涯学習センター運営審議会委員
定員20名のうち19名

4 傍聴者 なし

5 議事

- 正副委員長選出
⇒委員長を坪井真委員、副委員長を若園雄志郎委員として選出
- 協議事項
 - (1) 令和6年度生涯学習センター事業運営の評価について
⇒ 令和6年度の生涯学習センターにおける事業の評価について了承
 - (2) 令和8年度生涯学習センター事業運営の考え方（案）について
⇒ 令和8年度予算編成に向けた生涯学習センター事業運営方針について了承

6 主な意見

【協議事項】(1)令和6年度生涯学習センター事業運営の評価について
(2)令和8年度生涯学習センター事業運営の考え方（案）について

御意見① いくつかの講座に参加しているが、男性の参加者が圧倒的に少ないと感じている。講座の男性参加率が低いことは、自治会役員の成り手不足にも繋がると思う。日本の人口は65歳以上が3人に1人という時代であるため、「65歳以上の、特に男性の方に来てもらえる講座」を実施してほしい。

回答① 講座のテーマによっては男性が多いものと女性が多いものがあるが、これまで参加していない人をどのように呼び込むかは重要な課題であると認識している。HPや広報誌などの周知だけでなく、例えば、講座に参加した人が、近所の方などに声かけをして一緒に行くなど地域の和を広げていくような取組ができればと思う。

御意見② 多くの講座が開催されていることを今回初めて知った。広報誌などでは詳しい情報掲載があるかとは思うが、より幅広く告知をした方がいい。

回答② 多くの方の目に留まるよう、効果的な方法を引き続き検討する。

御意見③ 公共施設予約システムについて、「簡単に予約できる」と謳っているが、そうは思えない。皆さんにわかりやすい仕様にしてほしい。

回答③ これまでセンターオンに直接お越しいただき予約を調整する必要があったが、より多くの方に公平に利用機会が提供できるようシステム化したところである。皆さんの声を聞きながら、使いやすいシステムとなるよう検討していく。

御意見④	子育てがある程度終わり、時間がとれるようになった世代の方に地域に出て活動してもらえるような企画をもっと考えてほしい。また、子どもの家について、生涯学習センターと指定管理者が連携できるように地域をバックアップしてほしい。
回答④	<p>子育てが終わってからと言わず、若いうちから講座などを通して地域活動に参加してもらい、ライフステージの変化にあわせた地域との関わり方ができるような取組を検討したい。</p> <p>子どもの家については、各指定管理者に、地域への十分な活動周知や生涯学習センターとの連携等について指示をしていきたい。</p>
御意見⑤	好事例の紹介として、以前子ども向け講座の参加者が集まらなかつた際に、生涯学習センターから相談され、育成会のイベントとしたことで、子供たちの参加に繋がつたことがあった。センター側も参加者が集まらない苦労もあると思うので、ほかの団体との協調も必要かと思う。
回答⑤	関係団体とも連携しながらよりよい運営にしていきたい。
御意見⑥	子どもの家の支援員をしているが、夏休みにも子どもの家にお子さんを預けている家庭が多く、そういった子供たちにも夏休み期間の講座に是非参加させてほしい。生涯学習センターの近くに小学校もあると思うので、連携させてもらいたい。
回答⑥	家庭の事情が子供の学習機会の妨げになることは避けるべきなので、連携について検討していく。

第53回宇河地区特別支援学級

児童生徒作品展

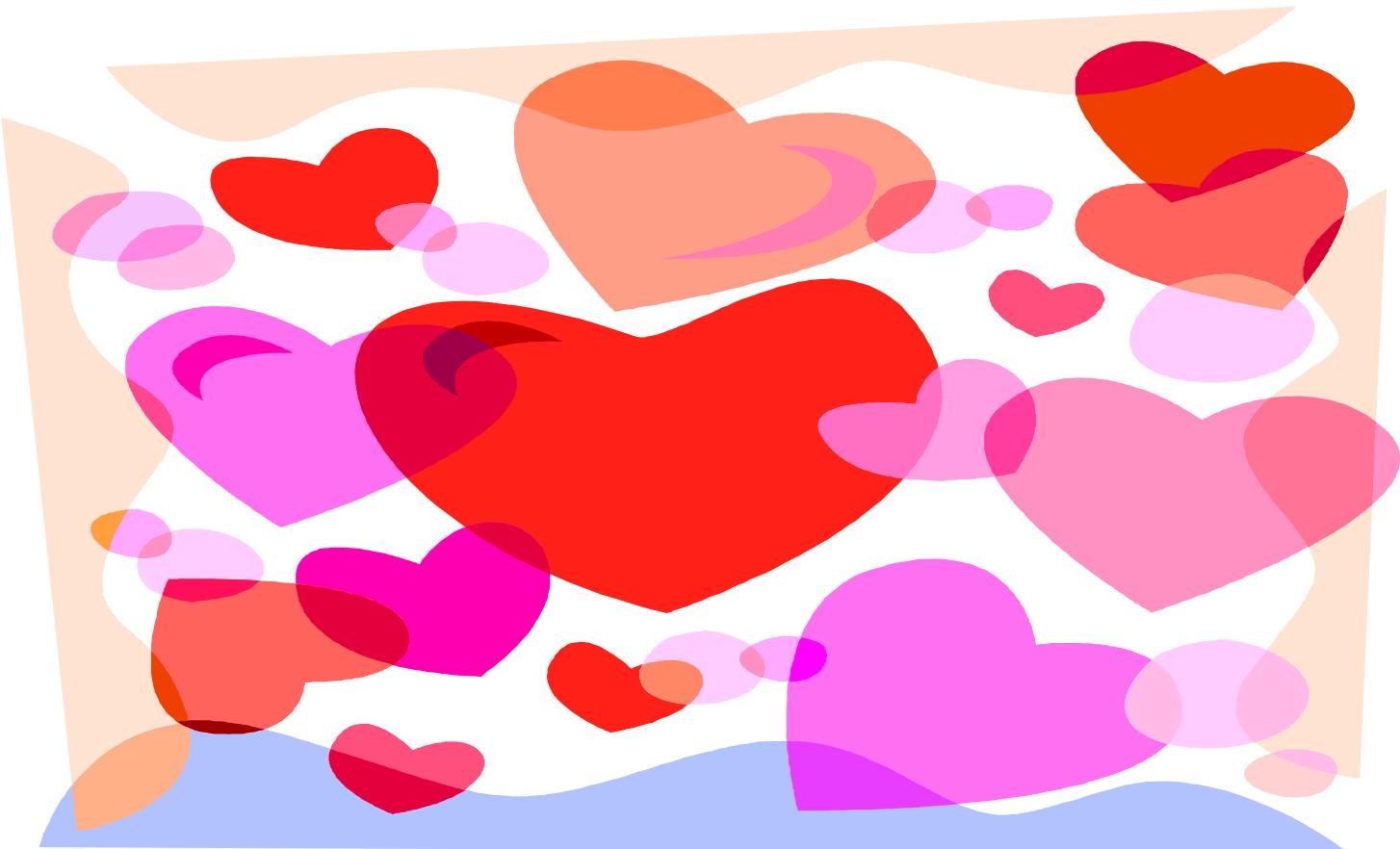
主催：栃木県特別支援教育連絡協議会

栃木県小学校教育研究会特別支援教育部会

栃木県中学校教育研究会特別支援教育部会

栃木県小学校教育研究会宇都宮支部特別支援教育支部部会

宇河地区中学校教育研究会特別支援教育部会



会場 宇都宮市教育センター コミュニティホール

会期 令和7年9月27日（土）～10月3日（金）

開催時間 9:00～16:00

（3日は、12:00まで）